

| | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 與右衛門 | 太 | 新 | 条 | 半 | 九 | 重 | 作 | 玄 | 半 | 忠 | 甚 | 傳 | 元 | 長 |
| 七 | 後 | 兵 | 右 | 權 | 兵 | 兵 | 右 | 五 | 四 | 三 | 藏 | 吉 | 右 | 次 |
| 印 | 家 | 衛 | 衛 | 平 | 衛 | 衛 | 衛 | 益 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 衛 | 郎 |
| 源 | 善 | 伊 | 源 | 又 | 武 | 孫 | 定 | 平 | 權 | 仙 | 仁 | 半 | 太 | 覺 |
| 次 | 右 | 右 | 源 | 權 | 右 | 右 | 四 | 四 | 四 | 右 | 右 | 六 | 次 | 左 |
| 印 | 衛 | 衛 | 七 | 七 | 衛 | 衛 | 七 | 郎 | 郎 | 衛 | 門 | 門 | 兵 | 衛 |
| 藏 | 門 | 七 | 七 | 平 | 門 | 門 | 門 | 郎 | 郎 | 藏 | 門 | 門 | 衛 | 門 |
| 重 | 嘉 | 要 | 三 | 權 | 傳 | 藤 | 五 | 金 | 藤 | 五 | 新 | 惣 | 文 | 五 |
| 右 | 平 | 郎 | 郎 | 左 | 兵 | 五 | 右 | 右 | 右 | 右 | 四 | 次 | 五 | 郎 |
| 衛 | 次 | 藏 | 左 | 衛 | 衛 | 右 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 郎 | 郎 | 郎 | 右 |
| 門 | 印 | 印 | 衛 | 門 | 七 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 衛 |
| 伊 | 久 | 鄉 | 治 | 利 | 庄 | 源 | 彦 | 定 | 宗 | 長 | 仁 | 清 | 太 | 幸 |
| 平 | 左 | 左 | 郎 | 左 | 左 | 五 | 右 | 四 | 四 | 五 | 右 | 左 | 兵 | 太 |
| 次 | 衛 | 衛 | 兵 | 衛 | 衛 | 右 | 衛 | 郎 | 郎 | 兵 | 衛 | 衛 | 衛 | 郎 |
| 印 | 門 | 門 | 衛 | 門 | 門 | 衛 | 門 | 郎 | 郎 | 衛 | 門 | 門 | 門 | 郎 |
| 平 | 清 | 七 | 甚 | 佐 | 仁 | 太 | 吉 | 伊 | 喜 | 榮 | 源 | 太 | 五 | 重 |
| 印 | 四 | 郎 | 左 | 次 | 兵 | 左 | 右 | 伊 | 右 | 右 | 右 | 兵 | 郎 | 兵 |
| 六 | 郎 | 印 | 衛 | 右 | 衛 | 衛 | 衛 | 八 | 門 | 門 | 門 | 衛 | 兵 | 衛 |
| 印 | 印 | 印 | 門 | 衛 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 藏 | 門 | 門 | 衛 | 門 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小 | 乙 | 平 | 喜 | 庄 | 伊 | 治 | 源 | 新 | 傳 | 庄 | 政 | 六 | 市 | 傳 | 弥 |
| 右 | 次 | 五 | 五 | 五 | 三 | 兵 | 兵 | 兵 | 四 | 吉 | 右 | 郎 | 郎 | 兵 | 太 |
| 衛 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 衛 | 衛 | 衛 | 郎 | 郎 | 門 | 門 | 門 | 衛 | 郎 |
| 門 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 |
| 源 | 久 | 五 | 茂 | 吉 | 弥 | 武 | 利 | 善 | 定 | 長 | 長 | 清 | 彦 | 傳 | 熊 |
| 次 | 五 | 左 | 平 | 五 | 四 | 兵 | 右 | 右 | 右 | 左 | 松 | 右 | 左 | 次 | 太 |
| 郎 | 郎 | 門 | 次 | 郎 | 郎 | 衛 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 郎 | 郎 |
| 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 |
| 清 | 市 | 孫 | 喜 | 太 | 又 | 五 | 武 | 吉 | 五 | 佐 | 重 | 半 | 八 | 吉 | 權 |
| 郎 | 郎 | 左 | 次 | 右 | 兵 | 助 | 左 | 次 | 兵 | 右 | 兵 | 郎 | 郎 | 兵 | 兵 |
| 八 | 衛 | 衛 | 郎 | 門 | 衛 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 藏 | 藏 | 衛 | 衛 | 七 |
| 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 |
| 久 | 善 | 善 | 和 | 源 | 久 | 佐 | 平 | 七 | 七 | 半 | 善 | 富 | 甚 | 權 | 文 |
| 太 | 四 | 次 | 源 | 心 | 右 | 平 | 右 | 右 | 右 | 右 | 兵 | 五 | 左 | 兵 | 兵 |
| 郎 | 郎 | 郎 | 吉 | 寺 | 衛 | 次 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 郎 | 門 | 衛 | 七 |
| 印 | 印 | 印 | 印 | 前 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 印 |
| 彦 | 勘 | 久 | 源 | 文 | 伊 | 彦 | 安 | 佐 | 定 | 八 | 與 | 伊 | 清 | 新 | 茂 |
| 七 | 左 | 兵 | 四 | 四 | 兵 | 右 | 次 | 次 | 次 | 右 | 次 | 右 | 五 | 五 | 左 |
| 印 | 衛 | 衛 | 郎 | 郎 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 |
| 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 | 印 |

| | | | | | |
|-------|--------|------|------|-------|------|
| 岩次郎 | 利左衛門借地 | 八郎 | 留人借地 | 傳二郎借地 | 森右衛門 |
| 万平借地 | 喜兵衛借地 | 乙次郎 | 同借地 | 五人組 | 借地 |
| 五人組 | 市兵衛借地 | 彦左衛門 | 同借地 | 長兵衛 | 借地 |
| 新助借地 | 太次郎 | 仁三郎 | 同借地 | 忠兵衛 | 借地 |
| 清四郎 | 同借地 | 惣左衛門 | 同借地 | 喜八郎 | 借地 |
| 市右衛門 | 五人組 | 傳二郎 | 同借地 | 四郎 | 借地 |
| 喜太郎借地 | 庄次郎 | 傳二郎 | 同借地 | 傳二郎 | 借地 |
| 治兵衛 | 同借地 | 同借地 | 同借地 | 三治郎 | 借地 |
| 万平借地 | 喜太郎借地 | 同借地 | 同借地 | 同借地 | 借地 |
| 七兵衛 | 市兵衛借地 | 八兵衛 | 同借地 | 同借地 | 借地 |
| 清次郎 | 伊右衛門 | 同借地 | 同借地 | 同借地 | 借地 |
| 市兵衛借地 | 吉左衛門 | 同借地 | 同借地 | 同借地 | 借地 |
| 五人組 | 同借地 | 同借地 | 同借地 | 同借地 | 借地 |
| 源助借地 | 五人組 | 同借地 | 同借地 | 同借地 | 借地 |
| 源左衛門 | 五人組 | 同借地 | 同借地 | 同借地 | 借地 |

安政五年三月

林部善太左衛門様 御役所

行徳領
 欠真間村
 名主 市兵衛
 年寄 六郎左衛門
 百姓代 茂平次郎

八八 安政五年五人組帳前書

差上申五人組一札之支

* 半紙十三枚。表紙には「安政五年五月」御條目寫「高柴支」とあり、五人組帳前書二種を掲げ、後の分は完成してゐない。安政五年に寫したものと見られるが、暫く同年のものとして置く。内容頗る特異のものが多い。私領であることは條文中の文言で明白である。

- 一切支丹宗門之儀堅御改被遊候ニ付、村中不殘男女共ニ且那寺之手形を取、差上申候通、御法度之宗門當村に壹人も無御座候、自然疑敷宗門御座候ハ、早ニ可申上候事^{〔一〕}、
- 一新地之寺社取立申間敷、古跡ニ而も修造仕候ハ、御斷申上、御下知を請可申事、尤新規之祭禮仕間敷、并寺社共住持替候節は御斷可申上事^{〔二〕}、
- 一惣而御廻狀類無滞相廻し、届候村々請取手形を取可申候、若從 御公儀被 召呼候義も御座候ハ、御斷申上可罷出事^{〔三〕}、
- 一博突諸勝負一切仕間敷、并請人無之質物を取、又は筋目無之、人之者を預申間敷、且又下直成拂物を無吟味買申間敷候、
- 附 當然之利欲に耽り、博突并三笠を付、盜賊等之宿仕候者、間々有之事故候、右躰心得違無之様相守、猶又村役人々常々無油斷可申渡旨奉畏候^{〔四〕}、
- 一行衛不知者ニ一夜宿も貸シ申間敷候、海道筋之宿屋にても壹人旅之者ニ宿貸申間敷候、

五人組帳資料

附 浪人村に置申間敷、然共醫師杯之儀は勿論、其外ニも由緒儘ケ成者ニ而、所之爲ニも不苦候ハ、御下知を請可申候事、^{〔五〕}

一 火之用心常々念入可申、若出火之節は御領分は勿論、御他領たり共、早ニ駆付、其所之御高札を取除、夫ノ場所へ駆付、消留可申候事、^{〔六〕}

一 御年貢之儀御割付被爲下候ハ、惣百姓立會、拜見仕、免割可仕候、若村役人紛敷割方仕候ハ、百姓之内ノ早ニ可申上、尤御米繩依隨分念入相納、名主庭帳ニ付、後日紛敷義無之様可仕候事、^{〔七〕}

一 百姓相煩候敷、又者無據訳ニ而耕作難成者有之候ハ、其五人組として作仕付可申候、五人組ニ而手餘り候ハ、村中ニ而仕付、少も荒し申間敷候、

附 村之者逐電仕候ハ、早ニ御注進可申上、御下知を請可申候、其外變事御座候節は、不隠置早ニ可申上候事、^{〔八〕}

一 新田可相成場所并前ニ御引高ニ相成居候地所起返り、作付ニ相成様見請候ハ、早ニ申上、御見分を請可申、脇ノ相知候ハ、地主は不及申上、村役人迄急度曲事ニ被 仰付候旨奉長候、

附 小百姓退轉仕候ハ、相應之者見立、代リ之百姓ヲ取立、持添仕候儀致間敷、左様之節は早ニ申上、御下知を請可申候事、^{〔九〕}

一 江戸御廻米大豆等之儀隨分念入相渡可申、江戸著岸之節、万一欠相立、船頭御吟味之上、名主・組頭無念ニ相極候ハ、右不足之米村方ニ而相辨ひ、其上村役人・舛取迄、急度可被 仰付旨奉長候、

附 御年貢皆濟不仕以前、穀物一切他所江出申間敷并諸勸進入申間敷候事、^{〔一〇〕}

一 田畑・家屋鋪等賣候者、又は質入之證文、或は書入等、名主・組頭加判無之候ハ、出入ニ相成候共、御取上無之候旨奉長候、^{〔一一〕}

一 田畑永代賣之儀は御法度之趣相守罷在候、且又賣買質之證文仕候共、拾ケ年を限可申候、并沽券高を殘し賣申間敷候、右林之義は頼納と唱ひ、嚴敷御制禁ニ而賣人・買人・加判人共曲事ニ被 仰付候旨奉長候、

附 名寄帳古相成候而は紛敷儀も出來仕候間、拾五ケ年又は貳ケ年之内惣百姓立會相改仕置可申旨奉長候、^{〔一二〕}

一 田地用水之儀、川懸・池水共ニ、任先例水引、新規成儀仕間鋪、用水之義兼而被 仰付候通少も龜末不仕、念入可申候、堤・川除危所御座候ハ、普請仕、村中ニ而不相叶候ハ、正月中旬より御願可申上候、并伏樋・算・水門等不損様念入可申候、

附 道橋損候所は早ニ取締、往來之難儀ニ不相成様可仕候事、^{〔一三〕}

一 山論・水論・際目論出來候ハ、其村名主・組頭取喫、下ニ而相濟可申候、且又及爭論候節は弓鐵炮は不及申、脇差ニ而も持出申間敷候事、^{〔一四〕}

一 百姓子供數多持候共、高貳拾石之内、高分ケ申間敷候、若分ケ不遣候て不叶儀ニ候ハ、御斷申上、御下知を請可申候事、

附 百姓所持之山林、或は四壁之竹木ニ而も、無御斷伐採申間敷候事、^{〔一五〕}

一 縁付養子ニ遣し候共、又は此者へ貰候とも、男女共先方宗旨相改、御願可申上候、且又不如意相成田畑家屋敷沽却仕候者は勿論、他所江奉公ニ出候共、御斷可申上候、他所々奉公人召抱候ハ、慥成請人を取、爲致證文、取置可申候事、^{〔二六〕}

一 御領内村々百姓之内、無妻之者共、女房ニ可致と存ル女有之節、人頼いたし貰懸候へとも、不釣合之縁組、或は差障り候筋有之、女之親得心不致及斷候ニ付、若者共大勢申合、右女を奪取り、無躰ニ女房いたし、又は奪取得ざる時は、外々江之縁談ヲ妨ニ付、無據懇意之者養女分ニ貰請、女房ニ爲致候事亦有之由相聞、言語同斷狼藉之致り、不届至極ニ付、以來女之親不得心ニ而相斷候女を奪取敷、又は縁談之妨趣於聞は、當人は早々牢舎申付、追々御吟味之上、急度可被 仰付、勿論申合奪取ニ罷越候者は同罪ニ可被 仰付、且又外之者養女分ニ貰請、女房ニ爲致候事、決而不相成事、^{〔一七〕}

一 御他領之者右躰之儀仕出、村方之併側不相成、一件落著之内他村ニ差置候事亦有之由、向後縁者たりとも、御領内一夜も留置申間敷候、若し無據筋は御役所へ相届、御差圖を請、可取斗事、

附 名主・組頭遠所へ罷出候節は、御願申上可罷出候、百姓は名主江相届可罷出候、無斷我儘ニ他行仕間敷事、^{〔二八〕}

一 兼而被 仰出候通、無御免許して帯刀仕間敷、万一心得違之者有之、帯刀仕趣被及御聞候ハ、當人は不及申上、村役人・親類・五人組迄急度可被 仰付候間、別而婚禮・弔等之節は村役人心付、見遁ニ仕間 鋪旨被 仰渡奉畏候事、^{〔二九〕}

一 婚禮等之儀は分限不相應者ケ間敷儀一切仕間敷、并神事法支等之節も随分輕ク營可申候事、^{〔三〇〕}

一 村方年年諸入用、村中不殘立會、得心(之)上割合、後日申分無之様、奥書連判いたし取置可申候事、^{〔三一〕}

附 無據筋にて印形相改候ハ、名主・組頭は 御役所へ印鑑差上、百姓は名主江相届相改可申候事、^{〔三二〕}
一 衣類之儀は平日隨分愈服を用ひ可申候、祝儀・佛支或は他村江參會等之節は、名主は絹・袖、其外は布木綿を用、染色之儀目立候色に染申間敷候事、^{〔三三〕}

附 遊藝一切仕間敷旨堅被 仰渡、奉畏候事、^{〔三四〕}

一 御他領たり共、御役人中へ對し不禮、慮外仕間敷候、并往來之旅人にて不作法成儀仕間敷旨、奉畏候事、^{〔三五〕}

一 質物取候者は慥成口入を立、印形を取、質物預り取引可仕候、若從 御公儀様御尋物等御座候節は取置候質物吟味仕、致府合候品も御座候ハ、不隠置早々御注進可申上候、^{〔三六〕}

附 牛馬之賣買是又慥成口入ヲ立可申候事、^{〔三七〕}

一 御鷹場之義は不及申上、隣郷ニ而も田鳥一切取申間敷候、并御法度之鉄炮堅ク打申間敷候、若猪鹿荒候ハ、御願申上、威ニ打可申候事、^{〔三八〕}

一 五人組小頭之義は、可然者を見立可申付候、組中相互ニ惡鋪儀は異見いたし、喧嘩・口論・徒黨荷擔仕候者、或は不時寄合、大酒仕、不依何事、我儘成儀を申、村中ヲ騒し、村役人・五人組之申儀を茂承引不仕者ハ、申上、御下知を請可申候、并徒黨・強訴等之儀承候ハ、可申上候事、^{〔三九〕}

一 兼而被 仰渡候通、御役人中御廻村之節は、所有合之品を以、一汁(一)菜之外、御馳走ケ間敷儀堅仕間敷候支、^{〔二七〕}

一人之子たる者は、孝行を第一ニ仕べき事也、子は親ニ孝を盡し、親は子を慈愛し、兄は弟を憐み、弟は兄(ニ)隨ひ親類と睦敷、朋友と交り、すなをなれば、天道之冥慮ニ叶、其家富貴にして、災難をまぬがる事ニ候、孝愛之道常ニ可心懸旨奉畏候事、^{〔二八〕}

右之通御法度之趣奉畏、村ニ小百姓迄連判仕、差上ケ申候、以後御仕置相背候もの御座候ハ、御吟味之上、其五人組は不及申上、名主・組頭如何様之曲事ニも可被 仰付候、爲後日一札奉差上候處依而如件、

年號月日

- 一 公儀御法度を恐れ、地頭代官の事をおろそかに存せず、扱又名主・組頭をは眞の親とおもふべき事、^{〔二九〕}
- 一 名主・組頭をいたす者、地頭代官の事を大切に存、年貢を能濟し、公儀御法度を背かず、小百姓身持を克仕ル様ニ申渡へし、扱又手前之身上ならず、萬不作法に候へば、小百姓に 公儀御用之事申付候而も、あなとり用ひざるものに候間、身持を能致し、不弁仕らざるやう心懸可申事、^{〔三〇〕}
- 一 名主心持我と中悪きなりとも、無理成事申懸ず、又中よき者なりとも依怙最良なく、小百姓を懸に致し、年貢割役等之わり、少も高下なく、ろくに申渡すべし、扱又小(百)姓は、名主・組頭之申付る事違背なく、念を入可申事、^{〔三一〕}
- 一 耕作に精を入、田畑之植様、同く拵様ニ念入、草はえざる様に仕べし、草を能とり、節ニ作の間へ鉦入

を仕候へハ、作も克出來、取實も多くなれあるニ付、田畑の境に大豆・小豆など植、少とたりとも^{〔三四〕}、一朝起をいたし、朝草を刈、晝は田畑耕作にかゝり、晩にハ繩をなひ、俵をあみ、何ニ而も時々の仕事油断なく仕べき事、^{〔三五〕}

- 一 酒茶を買、吞申間敷候、妻子同然事、^{〔三六〕}
- 一 里方ハ屋鋪之廻りに竹木を植、下葉成とも取、薪を買候ハぬやうに仕べき事、^{〔三七〕}
- 一 萬種物・秋物初に念を入、擇候而能種を置申へく候、あしき種を時候得は、作毛あしく候事、^{〔三八〕}
- 一 正月十五日前に毎年鉦のさきをかけ、鎌をも打なをし、克きれ候やうに仕るへし、悪きくわにては田畑おこし候わ、果敢ゆき候はず、鎌もきれかね候へは同然之事、^{〔三九〕}
- 一 百姓は肥灰調置候儀專一ニ候間、雪隠廣く作り、雨降之時分水入さるやう仕るべし、夫ニ付夫婦懸向之者ニて、馬をも持事ならず、肥ため候儀もならざるものハ、庭の内に三間尺に二間ほどに堀候て、其中へはきため、又は道の芝草を入、せゝなきの水を流し入、作こえをいたし、耕作へ入可申事、^{〔四〇〕}
- 一 百姓は分別もなく、末の考もなきものに候故、秋に成候へば、米・雜穀をむさと妻子にも喰せ候、いつも正・二・三月時分の心を持、食物を大切に仕へく候に付、雜穀專一ニ候間、麥・粟・稗・菜・大根、其外何にても雜穀を作り、米を多く喰つぶし候ハぬ様に仕べく候、ききんのときをそんじ出し候得ハ、大豆之葉、小豆之葉、小角豆之葉、芋之落葉などむさと捨候儀はもつたへなき事ニ候、^{〔四一〕}
- 一 家主・子供・下人等迄不斷ハ成程疏飯をくふへし、但田畑おこし、田を植、稻を刈、一入骨折申時ハ、

ふ斷より少し食物を克仕、澤山にくハせ遣し可申候、其心付あれハ、精を出すものに候事、^{〔一三〕}

一 何卒致し牛馬之よきを持候様に仕へし、能牛馬程肥を多し^{〔一四〕}ふむものに候、身上成さるものハ、是悲に不及、先ツ如斯心懸可申候、并春中牛馬に飼候者ヲ秋さき支度可仕候、田畑へ刈しき成とも、其外何肥成とも、克入候得ば、つくりにとり實有之候事、^{〔一五〕}

一 男は作をかせぎ、女房は幸織をかせぎ、夜なべを仕り、夫婦共にかせぎ可申候、然はみめかたちよき女房儀共、夫之事をおろそかに存、大茶をのみ、物参り遊山すきする女房を離別すへし、去ながら子供多有之歟、前かと思を得たる女房ならハ格別也、又美面かたち悪敷候共、夫之所帯を大切にいたす女房をハ、いかにも懸に仕へき事、^{〔一六〕}

一 公儀御法度何ニ而も相背かず、中ニも行方知レざる窄人郷中に抱置へからず、夜盜同類又は

公儀御法度を背候徒者杯郷中へ隠し居、訴人有之而、公儀江召連参り、御食儀中相詰候得ば、殊之外郷中之くたぶれに候、又は名主・組頭・長百姓并一郷之惣百姓に悪まれ候ハぬやうに、物事正直に徒なる心持申間敷候、^{〔一七〕}

一 百姓は衣類之儀布・木綿より外、帯・著物裏ニも仕間敷事、^{〔一八〕}

一 身上成候者は格別、田畑を茂多持申さず、身上成兼候者は、子供多候ハ、人ニも呉、又奉公をも爲爲、年中之口すきのつもり、能考へ申へき事、^{〔一九〕}

一 屋鋪前之庭を寄置にいたし、南向を受べし、是は稻麥をこき、大豆打、雜穀を拵候時、庭悪敷候得は、

土砂まじ(り)候て、賣候ても直段やすく、殊之外失墮ニ成候事、^{〔二〇〕}

一 作之切者なる人(に)聞其田畑の相應したる種を蒔候様、毎年心懸申へき事、^{〔二一〕}

附 仕つけミに作り候てよきものあり、又つくりにしつけミを嫌ふつくりもあり、作に念入候へハ、

下田も上田の作毛に成候事、^{〔二二〕}

一 所ニは可依候得共、麥田に成所をハ少成共見立可申候、以來ハ連々麥田成候得ば、百姓之爲大き成徳分にて、一郷麥田を仕立候へば、隣郷も其心附有之ものに候事、^{〔二三〕}

一 春秋灸をいたし、煩候ハぬやうに、常々心懸べし、何ほと精を入度と存候ても、煩候へは、其年之作をはつし、身上潰し申ものニ候間、其心得專一也、女房子供も同然之事、^{〔二四〕}

一 多葉粉蚕申間敷候、是は食にもならず、結句以來煩ニ成ルものニ候、其上隊もかけ、代物も入、火用心も悪敷候、万事ニ損なるものニ候事、^{〔二五〕}

一 年貢出し候義、反別にかけてハ壹反ニ付何程、高に懸てハ壹石ニ付何程割付、差紙地頭・大官も出し候、左候得ハ、耕地に精を入、克作り、取實多くこれ有れば、其身徳ニ候、悪敷候へハ、人知らず、身上ひけに候事、^{〔二六〕}

一 御年貢皆濟の砌、米五斗六升壹斗につまり、何とも可仕様これなき時、郷中をかりあるき候へとも、皆濟時分たがひに米無之由、かさゞるにより、米五升壹斗に子供又は牛馬もうられず、其道具・著物杯賣らんとおもいば、又うり物持さるものは、高利ニ而米を借候ハ、彌々失墜なる事に候、地頭・代官が割付出

し候ハ、其積を仕り、不足ニ付ては、まいかど借候而濟へし、前かどハ借物之利足やすく、賣物もおもふまゝなるへし、尤納べき米をも、早と納へし、手前に置程、鼠も喰、盗人・火事其外万事ニ付大きな損ニ而候、糶をハ克ほし候て、米にするへし、なまひなれハ碎候て、欠米立候、克と心得可有事、

一 身持を悪敷いたし、其年之年貢不足ニ付、譬ハ米を貳俵程かり、元利之米、其利分年と積候得ば、五年目に元利米拾五俵ニ成、其時は身持を潰し、妻子うり、我身をもうり、子孫共にながくるしむ事ニ候、此義ヲ克と考へ、身持を仕るへく候、まへかと米貳俵の時分は少し之様に存候へ共、年と之利分つもり候へハ如斯候、扱又何程いたし米を貳俵程もとめ出し候へハ、右之利分くわへ、十年目に米拾七俵持候ハ、百姓のために、其有徳成事(ニ)これなきや、

一 山方ハ山の稼、浦方は浦之稼、夫々に心を附、毎日ゆたなく、身をおします稼可申候、雨風又は煩障入候事もこれある間、かせぎにてまふけ候もの、むさとつかへ候ハぬ様に仕るへき事、

一 山方浦方にハ人居も多く、不慮成かせきも有之、山ニ而ハ薪・柴を出し、柑類を賣買し、浦方にてハ塩を焼、魚ヲとり、商賣仕るに付、何ツも稼きは有之へきと存し、以來之分別茂なく、貯へ候物をも當座ととむさと遣へ候故、きんの年拵は里方之百姓ハ一入迷惑仕、餓死するものも多く有之と相聞候間、きんの年之苦勞常と不可忘事、

一 獨身之百姓隙入候敷、又煩、田畑仕付兼候時は、五人組・惣百姓助あひ、作荒し候は(ぬ)やうに可仕候、次獨身の百姓をかき、

* このところ白筆を絶ち、後は白紙。

八九 安政六年上總國市原郡不入斗村新田五人組御斷書差上帳

乍恐以書付奉申上候

上總國市原郡 不入斗村之内 迎田 永藤 深城

一 宗門人別五人組御改被 仰付奉畏候、當所之義は林・畑・芝地ニ而民家無御座候、私領持添ニ而従前*

大岡 越前守様

阿部 因幡守様

小笠原 順三郎様

右御三給江宗門人別五人組帳差上來候義相違無御座候、依之

御役所様江御斷書差上來申候、以上、

上總國市原郡不入斗村

名主 太郎 太夫

組頭 茂右衛門

吉左衛門

四八一

* 半紙五枚。人家のない村が江戸時代には存在してゐた。その場合の一例としてこの不入斗村新田を採る。文久二年、四年、元治二年、慶應四年何れも同様である。ただ本村は天領で、代官の異なることに依つて宛名を相違する。今川要作(文久四)、大竹左馬太郎(元治二)、小川達太郎(慶應四)である。實際に耕作してゐる百姓は大岡・阿部・小笠原の私領に所屬してゐる。

安政六年三月

五人組帳資料

右村之内迎田 七 兵衛 次
 右村之内永藤 新 右衛門
 名主 直 右衛門
 右村之内深城 組頭 又 兵衛
 名主 三郎 兵衛
 組頭 三郎 右衛門
 " 茂左衛門

佐々木道太郎様

御役所

九〇 安政六年駿河國安倍郡水見色村御仕置五人組帳*

* 中判二十二枚、
天領。

一 前々從 公儀被仰出候御法度書之通り彌堅相守、御禁制之儀少茂相背申間敷候事、
 一切支丹宗門之儀、御高札之旨急度可相守候、宗旨之儀人別念入相改、毎年三月迄之内、帳面可差出候、

帳面改以後召抱候下人等之寺受狀別紙ニ差上可申候、若御法度之宗門と申者御座候ハ、早速可申出候、
 尤切支丹ころひ之者并類族有之候ハ、別帳ニ記之可差出候、若他村ノ縁組ニ而當村江類族來リ候ハ、
 早速可注進事、

一 捨馬之儀御高札之通り堅可相守、若他所之捨馬當村江來リ候ハ、見出シ次第、庄屋・組頭立合致詮儀
 持主しれ候ハ、其村之庄屋并ニ牛馬主ノ手形ヲ取、相返シ候積リ候間可注進事、

附リ 馬之筋をのべ候儀御停止ニ候、尤牛馬賣買致候ハ、出所聞届ケ、請人を取、五人組江相斷、
 賣買可仕候事、

一 五人組之儀、町場は家並、在郷は最寄次第、家五軒宛組合、子共并ニ下人・店借リ・借地之者ニ至迄、
 惡事不仕様ニ組中常々無油斷、可令詮儀、若徒者有之候而、庄屋之申付をも背、五人組之異見をも不用候
 ハ、可訴之事、

一 五人組宗門帳ニ押候外ニ別印判拵置間敷候、若印判替候ハ、庄屋・組頭共ニ手代方迄相斷、其外之百
 姓は庄屋・組頭江可斷、名ヲ改候ハ、早速斷致、五人組帳ニも、宗門帳ニも改候名可記事、

附リ 百姓共面々印判庄(屋)・組頭江常々預ケ置申間敷候事、

一 田畑并ニ山林等永代ニ賣買堅御停止ニ候、若賣物ニ入候ハ、年季を限り、質手形ヲ庄屋・組頭・五人
 組加判可爲仕、并ニ田畑質ニ入、金銀ヲ借、田地ヲ金主ニ爲作候而、御年貢は地主ノ出シ候儀堅仕間鋪候事、
 一 前々川欠・山崩等之永荒場起返リ候か、又は切添新開田畑有之候ハ、早速注進可申出、若隱置、脇ノ

訴出候ハ、庄屋・組頭可爲越度事、

一 百姓田畑子孫ニ分ケ爲取候共、壹人前高五石ノ内ニ不可分、小高之百姓は子孫ニ分爲取間敷候、跡式之儀存生之内ニ相究、庄屋江斷、書付置、後日ニ出入無之様ニ可心懸事、

一 用水之懸引常ニ申合置、不手支様ニ、論不可仕、水論・山論等之場江刀・脇差・弓・鎧・長刀等を持出し、理不盡成儀一切仕間敷事、

一 堤・川除不切様ニ常ニ申合、満水之時は村中之者出合、隨分圍之候、井ニ道橋等損し候而往還障リニ成、田畑損亡ニ可成所ニは、兼而小損之時、早速可修復候、申付無之候共、請取場江道橋常ニ無油斷作リ可申候事、

一 洪水之節川除固候節か、又は盗人狼藉者并火事有之、鳴ヲ立候節は、村中之者拾六以上、六拾以下之男は不殘可出、若左様之節不出合者有は、庄屋・組頭可遠吟味事、

一 御林・御立山之竹木は枝葉下草迄公用之外伐刈間敷候、縦百姓持林井ニ四壁之木ニ而茂、目立候木伐出し候ハ、得差圖可伐之、堤ニ有之柳草葎等堀取間敷候事、

附り 入合之野山・面ニ之持山ニ而も草木之根を堀取間敷候、田畑・山崩・川欠等無之様ニ、野山ニ苗木ヲ植立可申事、

一 家業之耕作第一心ニ懸ケ、諸作能種ニ而仕入、作物ニ念を入、荒シ作ニ仕間敷候、不精ニ而田地荒シ、地所ニ相應ニ諸作おとり候ハ、可令詮儀、獨リ身之百姓長煩仕候敷、又は幼少ニ而親ニはなれ、耕作難

成者候ハ、村中ニ而助合、田畑不荒様ニ可仕候事、

一 惣而家業ヲ疎略ニ致し、惡心ヲ以、不謂致訴訟、非公事爲をたくミ、人之□□^(不)をなすへからず、若左様之者有之は、不隱置可申出候、并常ニ耕作商賣等之かせぎ無之、惡事を仕者有之は致吟味可注進事、

一 百姓不似合之風俗致し、長脇差ヲ帶、喧嘩口論之企、好色遊藝を好ミ、或は大酒を飲、致醉狂、行跡惡敷者有之は可訴之事、

一 博突惣而賭之諸勝負、或は百人講と名付、或はあきなひニ事よせ、博突ニ似たる儀一切不仕之、若違背之輩有之敷、又は右之宿等致候者有之は、急度曲事可申付事、

一 盜賊惡黨人有之は、訴人可仕、褒美爲取之、其上あたをなさゝる様ニ可申付事、

一 鉄炮之儀運上出候獵師、又は威鐵炮渡し置候村は格別、外之村ニ隱置べからず候、若隱置候ハ、可爲曲事候事、

一 獵師之外鳥獸一切取へからず、獵師たりと云共、鶴・白鳥・雁・鴨取候義、御停止ニシテ、若村中ニ而鶴・白鳥賣買致し候者有之候共、一切買申間敷候事、

一 衣類・道具、又は門橋等之はつし金物類、出所不知賣物一切買取間敷候、右之品ニ不可預り置、請人無之候ハ、質物ニも取申間敷候事、

一 新地之寺社建立之儀堅可爲停止、惣而佛事・神事・祭禮等慎可執行、新規之祭禮取立へからざる事、并寺社之儀、住寺社人替り候ハ、可注進事、

- 一 宿場并在、火之用心隨分念入可申付、宿場ニは火消道具拵置、其上自身番井ニ夜番無油斷相勤可申候、在ニは番屋を立置、若出火有之は、鳴を立、村中之者欠付、精を出シ、勿論郷藏ニ御年貢米入置候内は隣村々欠著、藏大切ニ固、燒失不致様ニ可仕、油斷之上、万一御米燒失致シ候敷、紛失候ハ、村中大小百姓割付ニ而、急度辨納可申事、
- 一 親に孝を盡し、下人は主ニ隨ひ、夫婦兄弟ハしたしく、其外老たるを敬ひ、物事順路ニ可仕候、若不孝不儀之輩有之は、庄屋・組頭・五人組打寄、加異見、其上ニ而不用者有之は、役所江可申届ケ事、
- 一 捨子堅不可仕、若他所之者捨置候ハ、村中ニ而養育いたし、早速可注進事、
- 一 嫁取・嫁取之祝儀奢かましき儀無之様ニ慎ミ可仕候、大勢集リ、大酒不可吞候、新宅之弘メ・初産之祝儀等奢たる儀不致、内證ニ而慎ミ可仕候、并ニ葬禮之野酒一切停止之事、
- 一 村中之者之内、或は立退、或は身上つふれ候もの有之は早ニ可注進候、又は他村々立退來リ候者は親類たりといふ共、當村ニ一切不可差置候、無據子細有之候ハ、相斷差圖可請事、
- 一 他所之者當村ニ致住宅度と願候ハ、其者之所・家職之様子聞届ケ、出所先江相斷、慥成リ受人手形取之、宗旨相改、遠吟味候而、可得差圖候、店借・地借等之者置候而も、右同前ニ可相心得候、其外親規百姓有付候ハ、可注進事、
- 一 他所江參リ一夜之宿リ罷有候共、庄屋へ相斷可罷出候、又は他國へ奉公ニ出候敷、用事ニ而他國江罷越候ハ、其子細庄屋・組頭・五人組江書付ニ而相斷、庄屋方々早ニ役所へ可訴候、若無據儀ニ而、公事訴

訟其外之儀ニ而も、江戸江罷出候ハ、役所江達、添狀を取、可罷出候事、

附リ 他國へ罷越候女並牛馬等之儀、役所江相達、通り手形取之、差越可申事、

- 一 手負又は行衛不知あやしき者、他所々來候ハ、出所尋、早ニ致注進、可得差圖候、尤一夜之宿も不可貸候、若堂宮山林等ニ隠れしのひ胡亂成躰ニ候ハ、令詮儀其品ニ寄搦捕、可訴之事、
- 一 殺害人、或は致自害候者、或は行倒之死人有之は、庄屋・組頭立合、死骸相改、番人附ケ置、早速可注進候、其外盗人喧嘩口論ニ而手負等不慮之儀出來候ハ、庄屋・組頭立合、令詮儀無油斷注進可仕候、并人ヲ殺立退參候者有之は隣郷之者迄出合、おさへ置、早速可注進、おさへ候儀叶かたく候ハ、跡をしたひ、落著之所急度可申届候事、
- 一 他村ニ而喧嘩口論有之候節、其所江猥ニ走集へからず候事、
- 一 御朱印又は御證文も無之、人馬出候様ニと申、賃錢ヲ不出、通り候者有之は、其品ニ寄、押置、庄屋・組頭立合、詮儀之上怪敷躰ニ候ハ、可注進事、
- 一 往來之輩、若煩候ハ、早速醫師ヲ懸、能いたわり、食物をあたへ、念を入看病仕置、可致注進候、行步難成候ハ、其者之出所承届ケ、迎を呼、手形を取、相渡可申候、若病死致し候ハ、其者之道具等、庄屋立合改、致封印置、可受差圖事、
- 一 毎年御年貢免狀出候ハ、庄屋・組頭方々大小百姓・出作之者迄相觸不殘寄合、披見之上、致免割、小物成・臨時物共ニ可納米銀壹人前宛委細ニ書付、小百姓も疑敷不存様ニ、其訳申聞、右書付爲寫、其上ニ

而免狀之奥ニ別紙繼候而、立合披見仕候旨、書付、銘ニ判形可取置、并御年貢割致し候節、村小入用割入交リ一同ニ不成様ニ念ヲ入、割合相違無之様ニ可致事、^{〔三三〕}

一 御年貢收納之儀、申渡し候日限之通無相違可相納候、村中常ニ申合、少も油斷仕間敷候、米金皆濟仕候ハ、納拂勘定致シ、庄屋方江手代之判形可取置事、^{〔三五〕}

一 御年貢相納候節、庄屋方江米主江銘ニ手形出シ、庭帳ニ書付、可致判形候、無念ニ而手形無之致來、後日ニ訴候共、取上ケ間敷候事、^{〔三六〕}

一 御年貢金銀庄屋方江取集候ハ、^{〔三六〕}、扣帳致し、納渡シ金銀員數・納主之名書付、印判可致爲候、庄屋方金銀受取手形、通帳ニ致シ、渡し候ハ、^{〔三七〕}、扣帳ニ押切印判致遣、後日ニ出入無之様ニ可仕候事、

一 米納之儀、庄屋・組頭立合、青米・死米・くだけ米・糶・ぬか無之様ニ、隨分致吟味、并目不切様ニ依入可入念事、^{〔三九〕}

一 俵拵之儀、貳重こもに口蜘蛛カ、り、まはり繩ニ而可仕候、船積之節は、壹俵宛こもニ而上包仕、俵不存様ニ可致、依之内江中札は紙ニ而國郡村名・各御代官所之氏名・年號月日・庄屋并米主・舛取・米見之名迄書付、銘ニ印形致シ、手代も爲加判、俵毎ニ可入之、外札は木ニ而も竹ニ而も、國郡村・御代官之氏名・米主名斗可記之、札裏ニ俵之實目可書付事、^{〔三九〕}

一 惣而從 公儀被下候人足扶持等、庄屋立合、當座銘ニ割渡、帳面江請取候趣書付させ、印判可取置、惣而次合勘定致^{〔四〇〕}からさる事、

一 公用之儀、又は村中申合之儀ニ付、庄屋方へ百姓寄合之節、村入用ニ掛、食物酒肴等一切給間敷候、埒明次第、早速可罷歸候事、^{〔四一〕}

一 堤・川除御普請・用水堀ざらいの節、奉行人足等ニ酒肴給させ、村入用ニ掛間敷候事、^{〔四二〕}

一 庄屋・組頭常ニ申渡シ候通、我等家來・手代并妻子・召仕等ニ至る迄、金銀米錢・衣類・諸道具・酒肴、其外何ニ而も、音物・禮物一切仕間敷候、右之者共ニ、若借物・貸物、或は押賣・押買仕候敷、不作法之儀候ハ、早ニ可申出候、若隱置候ハ、庄屋・組頭共ニ可爲越度事、

附 家來召仕ひ等判形も無之手紙、又は口上ニ而、金銀之儀申來候共、一切承引仕間敷候事、^{〔四三〕}

一 自分并手代村ニ相廻リ候節、泊リ・晝休共ニ米味噌代・木錢出之、其外入用品ニ相場ニ而可調候間、代物可給之、惣而百姓之馳走ニ不成、村ニ費無之様ニ申付候間、魚鳥調置、此方江不入候ニ付、寄合飲喰、村入用ニ割懸候ハ、庄屋・組頭可爲越度候、并無用之人馬大勢集置、百姓之隙費申間敷候事、^{〔四四〕}

一 年中村ニ江割懸ケ候夫錢小入用懸ケ物之儀、庄屋・組頭遠吟味、念入入用多く無之様ニ可仕候、右入用帳之儀令吟味、我等判形ヲ加江候間、入用之度ニ念ヲ入、書付置可申候、此外之別帳ヲは無用之儀、村方へ割懸ケ申間敷候、右帳面貳冊、翌年正月可差出候間、紛失無之様ニ可仕候事、^{〔四五〕}

右之條ニ堅可相守候、此旨少茂違背之輩於有之は、可爲曲事候、此帳壹ケ年ニ兩度宛、庄屋方江村中百姓寄合、慥ニ爲讀聞、常ニ此趣合點仕罷在候様ニ、可相心得者也

安政六年午三月

五人組帳資料

前書御ケ條之趣一々拜見奉畏候、村中大小之百姓此五人組ニ除候者壹人茂無御座候、則御ケ條名主方ニ差置被

仰渡候通、一ヶ條宛致合點候様ニ爲讀聞、急度相守可申候、若此旨少茂相背申候ハ、如何様之曲事ニ茂、可被 仰付候、爲其連判御受奉差上候、以上、

安政六年二月

*訂正した箇所があるが、元のもののみを記す。

| | | | | |
|-------|------|------|-------|-----|
| 三郎右衛門 | 茂右衛門 | 久左衛門 | 次郎左衛門 | 八十八 |
| 忠次郎 | 九兵衛 | 徳右衛門 | 幾右衛門 | |
| 茂八郎 | 吉右衛門 | 三右衛門 | 角左衛門 | 源三郎 |
| 次右衛門 | 儀兵衛 | 嘉平次 | 源兵衛 | 茂兵衛 |
| 源次郎 | 六人 | 喜兵衛 | 六兵衛 | 五人 |
| 五人 | 藤七 | 長兵衛 | | |
| 新九郎 | 仁左衛門 | 九平次 | | |
| 八郎右衛門 | 半三郎 | 伊右衛門 | | |

右之通五人組合相改候處、前書之通り相違無御座候、以上

名主善兵衛
組頭新九郎

同断八十八
百姓代九平次

大草太郎左衛門様

御役所

九一 安政六年武藏國高麗郡赤澤村御仕置御條目五人組書上帳

條々

一 從 公儀前ニ被 仰出候御法度之趣彌堅相守可奉重
 御上候、且亦高札大切仕、圍等龜末無之様可致候、古ひ候て文字見江兼候節は可訴出候、書替可相渡事、
 一 忠孝を盡し、夫婦兄弟睦敷、諸親類ニ親敷、百姓仲間致和融、耕作を精出、惣而家業ニ不怠、主人は下
 人を憐、不禮不儀、依怙最良無之様、奢を慎、物毎非分無之、諸事正路に心懸、聊茂我意を立へからず、
 若主親之命をも不用、親類并名主・五人組之異見おも不爲承引者有之ハ、品ニ可申出、其子細相糺、急度
 可申付事、

附 身持不埒ニ而所ニ難差置者ハ勘當不通、儀絶等仕度者ハ訴出、可請下知、私不可取斗事、

五人組帳資料

*大判、二十六枚。前書のみ。その前の前書は延享五年五月とあるが、表紙の安政六年に從ふ。一ツ橋家領と推定される。本書は慶應義塾圖書館所蔵(2X/11/1)

- 一 勝て忠節并孝行之者、亦是貞節之女有之ハ、其行跡をためし、慥成證據も有之程之儀候ハ、其訳委細書付可訴出、吟味之上相應之御褒美可被下事^{〔三〕}、
- 一 孤亦是子なき老人并病人等、都而渡世難儀者、或ハ耕作茂仕附兼候者有之ハ、名主・組頭ハ不及申、村中ニ而育、助合可申候、但行所茂無之譜代召仕之者理不盡不可追出事^{〔四〕}、
- 一 捨子堅致間敷候、若他所之者村中に捨置候ハ、致養育、早速に可致注進事^{〔五〕}、
- 一 人を勾引或は賣買候儀堅御制禁、男女奉公人召抱候ハ、年季^{〔六〕}お限可差置事^{〔六〕}、
- 一 五人組之儀惣百姓并地借・店借・寺社門前等迄、家並向寄次第五軒宛組合、諸事致吟味合、惡事無之様可仕事^{〔七〕}、

一 往來之人相煩候ハ、何様之輕き者たり共、聊龜略ニ不致、早速醫師に見せ、隨分致養生、食物等念入看病致、其者之行先并在所承り届ケ、最寄之方より迎を呼、手形^{〔八〕}お取、病人相渡可遣、若病死致候ハ、其者所持之品と名主・組頭・年寄立會、相改致封印可注進事、

附 在所行先共ニ遠方ニ而村方ニ通達難成候ハ、早ニ支配御代官へ訴出、可請差圖事、
 一切支丹宗門彌御制禁之夏、不審成者又ハ類族之者有之ハ、早ニ可申出、他所より縁組等ニ而右之族當村へ來り候ハ、是又早ニ可致注進夏、

附 村中出家・社人・山伏・行人・道心者亦是□□非人等之類迄致吟味、胡亂成者あらは、可申出事^{〔九〕}、
 一致神文を或ハ御制禁ニ候儀於相背ニは、^{於字}警約一味徒黨ケ間敷儀堅は、其罪可重かる事^{〔一〇〕}、

* 原本のまま。意味明かならず。

一 毒藥・似藥^{〔一〕}・似金銀・ニ夕舛・似秤・謀書・謀判等堅御制禁之事、萬一右舛之族有之ハ、重科行べし、若於隱置ニは、名主・年寄・五人組迄、急度曲事可申付事、

附 虚説・浮説・張紙等決而仕間敷候、勿論大小之百姓五人組宗門帳ニ押候外ニ印形拵置間敷候、尤印形替候ハ、名主・組頭は役所江届ケ、印鑑可差出、平百姓ハ名主方江斷可改候、但亦病氣差合等ニ而難罷出、名代之者差出候節ハ、親子兄弟之外猥りに印形預ケ遣間敷事、

一 喧嘩口論常ニ相煩ニ可申候、萬一右舛之儀有之は、名主・年寄・組頭早ニ出會可取鎮め、他村ニ而喧嘩等有之節、猥ニ走集るへからさる事^{〔一二〕}、

一 火を付る者、或ハ人を殺、又は手疵爲負、立退候者、或は盗人・狼藉者有之ハ、村中出會搦捕、早速可注進、若捕候儀難叶候ハ、跡を慕ひ、落著所へ急度預ケ置、早ニ可訴出、於隱置ハ、名主・年寄・五人組迄重科ニ可申付事、

附 堂宮山林ニ胡亂成者あらは、令詮儀捕置、可注進事^{〔一三〕}、

一 村中申合、相應之所ニ番屋を作、番人附置、盜賊火之用心、隨分念入可申候、且又洪水ニ而堤・川除押破り候節并出火有之は、拾五以上六十以下之人ハ不殘罷出、可相防、若其場所へ不出會者有之ハ、名主・組頭・年寄令詮儀、其品ニより可訴出候、且又堤切所又は燒失家者早ニ書付を以可注進、尤驛宿燒失家之儀は猶以明細ニ書記可注進事、

附 火消道具并水防ニ可入品ニハ平日心懸置可申事^{〔一四〕}、

一 偽を申巧ミ人ニ害をなし、公事を好み、荷擔腰押致においては可行重科事、

附 自己之意趣意恨ヲ以、我意之出入等致候者は曲事ニ可申付事、^{〔二五〕}

一 博突・三笠附停止之夏惣而何事ニよらず賭勝負一切仕間敷候、若違背之族并右之宿等いたし候もの有之ハ、早速可訴出事、

附 商賣茂不致、家職之稼無之者於有之は遠吟味可申出事、^{〔二六〕*}

一 鉄炮之儀村中相改め、四季打御免之外、決而鐵炮所持致間敷候、於隱置は其罪重かるべし、尤四季打たりといふとも、預り主之外、親子兄弟ニ茂貸候儀、堅仕間敷候、勿論田畑を荒し候獸之外、殺生一切御制禁之事、

附 前より運上等差出來候獵師持筒は有來り通たるへき事、^{〔二七〕}

一 獵師之外鳥獸一切不可取、爲獵師とも鶴・白鳥取候儀堅御制禁ニ候、若鶴・白鳥賣買致候者有之候ハ可訴出事、^{〔二八〕}

一 御鷹場は勿論、御捉餌場ニ而殺生堅制禁ニ候、相背者有之ハ可訴出候、隱置、臨より相聞候ハ、當人は不及申ニ、名主・年寄・五人組迄急度御仕置可申付事、^{〔二九〕}

一 用水之儀常ニ申合、先規之通り相守り懸引致、理ふ盡成義不仕、評論無之様可相慎、若水論・境論等有之候節、内談ニ而難濟候ハ、繪圖ニ認可訴出事、

附 其場所へ刀・脇差・鎗・長刀・棒・駕口等、其外及物持出、騒動せしむる夏堅仕間鋪事、^{〔三〇〕}

一 御林・御立山・御立野之竹木・萱は勿論、持林四壁にても、目立候程之木は猥に伐へからず候、尤川除境ニ有之葭萱等之外取間敷候、堤へ掛屋作等仕間鋪事、

附 前より運上等差出來候枝葉・下草・萱等は有來通たるへき事、^{〔三一〕}

一 一面ニ持山にて田畑近所之木之根を堀取間敷候、惣而田畑へ山崩不致様、兼而山林苗木植置可申候、且亦山中筋にて焼畑仕來り候所ハ格別、野火付候儀堅停止之事、^{〔三二〕}

一 堤・川除・井堰・道橋、其外普請所、常ニ申合、小破之節修覆を加へ可申候、若急變にて及大破ニ、村方之方に難叶時は可訴出事、^{〔三三〕}

一 堀を埋、道おせば猥に秣場を切添、田畑不可仕出、前ニ無之所へ新規道を不可付、若道附替又は新堀不致候てハ不叶候所有之ハ、訴出、可請差圖事、^{〔三四〕}

一 海道筋は不申及、在ニ而も 公儀御用人馬は勿論、往來之賃人馬、不限晝夜ニ、無滯差出、旅人之難儀無之様可仕、御朱印又は御證文茂無之、人馬出し候様ニと申、或ハ貸錢茂不出、罷通候者有之ハ、名主・問屋・年寄・組頭立合途詮儀、怪敷牀に候ハ、押置注進すへき事、^{〔三五〕}

一 御傳馬宿ハ助郷人馬觸寄候儀、問屋年寄共能ニ心を用ひ、費之人馬觸仕間敷候、其宿ニ之馬ニ斗り勝手能き荷物附候儀一切致へからず事、

附 助郷之者共儀宿場ハ人馬之員數觸來り候ハ、刻限を不違可差出候、假令人馬割に難心得事有之候共、先無滯差出、後日ニ様子相札可申候、且亦往來之旅人ニ對し、荷馬口附并人足に至迄慮外

* 原本この後に約一頁分重複せる文言を記載する故、略す。

惡口等不致様ニ、名主問屋ノ殿敷可申付事^{〔三二〕}、

一 在ニ而所不知者、并一人旅之者ニ一夜之宿を茂不可借候^{〔三三〕}、若旅人參り宿借候ハ、能ニ承リ糺、疑敷様子茂無之候ハ、名主へ相届ケ候上ニ而宿可借、尤一夜之外逗留決而爲致間鋪候、洪水等ニ而通路難儀ニ候敷、又は病氣ニ而致逗留候ハ、其段名主へ斷、可請差圖候、縱令驛宿ニ而旅人之宿致候とも、無謂二夜三夜致逗留候者有之ハ、名主問屋方へ相達、様子承リ糺、其品ニより早ニ支配之御代官へ可訴出事、
附 村中堂宮・山林・田畑・道路ニ殺害・自害・首縊・手負・死人又は行倒之者有之は、名主・年寄・組頭立會、様子相改、雜物等致吟味、委細書付、早速可注進事^{〔三七〕}、

一 他所へ罷越、當分少ニ逗留仕候程之儀は、名主・五人組へ相斷可罷出、若他所へ奉公ニ出候敷、亦は用事有之罷越、日數懸り候程之儀は、其子細名主・年寄・五人組江急度相届、差圖を請、可罷出候、尤村役人よりハ御代官へ可訴出事、

附 名主其外村役人之内、無據儀にて他國へ罷出候ハ、書付を以支配之御代官へ相願、可請差圖^{〔三八〕}、
一 他村之者子細有之、其所を立退來り候て、譬近き親類たり共、猥に不可差置候、若商賣等之勝手を以、當村へ參、住居致度と願候者有之ハ、出所家職之様子等承り届、出所へ致届ケ、慥成請人手形取之、宗旨相改、担那寺江も致通達可差置、尤支配之御代官江も訴之、宗門五人組帳へ可書入事、
附 村中之者或は立退、或は逐電欠落者有之は、早ニ可訴出事^{〔三九〕}、

一 新規之寺社建立之儀堅御停止之夏ニ候、惣而小祠・念佛題目之石塔・卒都婆・供養塔・庚申塚・石地藏

之類、新規之建立一切致間敷候、有來ル神事祭禮等美ニ鋪、奢ケ間敷儀可致からず事、

附 神佛開帳致候有之候ハ、其由緒先例等委細相認め、御代官所江相願、可請差圖、且亦他所ノ神樂踊惣而流行神佛等送來候共、必不可請取、村中ニ少ニ之間茂不差置、相返可申候、勿論勸化等前廣觸流し無之候は、決而取會申間敷候、且又寺社之住持・社人等相替候ハ、可注進事^{〔四〇〕}、

一 村中ニ而能・操・相撲・狂言、惣而歌舞妓・芝居・見せ物等之類堅仕間敷事、

附 遊女・野郎之類一切不可差置事^{〔四一〕}、

一 有來酒屋・酒造之外、新規之造酒停止之夏^{〔四二〕}、

一 衣類・諸道具又は門橋之はつし致候もの等、出所不知者買取候儀ハ勿論、質物にも取申間敷候、譬出所^{〔四三〕}知れ候品ニ而も請人無之候ハ、賣買又は質物ニも取間敷事、

附 牛馬之賣買右同斷ニ候、尤捨馬停止之事^{〔四四〕}、

一 耕作之儀無精ニ致者あらハ、急度令詮儀、異見を加へ可申候、若不相用候ハ、可訴出、等閑に差置、其者之年貢等未進有之においてハ、名主・年寄・五人組可爲辨納事^{〔四五〕}、

一 退轉百姓之田畑・山林等、親類たりとも持添ニ致間鋪候、親類・名主・年寄・組頭立合相談之上、跡式相立候様可仕候、若無謂田畑持添ニ致候敷、家屋敷等破却於致は、急度曲事ニ可申付事^{〔四六〕}、

一 高拾石以下之百姓、子供に田畑分讓候儀致間敷候、拾石以上たりとも田畑分ケ候敷、或ハ新規ニ百姓株立候儀有之候ハ、書付願出、吟味之上可申付候、惣而百姓跡式之儀存生之内、親類・名主・年寄・五人

組立會極置、後日出入無之様に可仕事、^{〔三六〕}

一 田畑山林永代賣買堅御停止之事、若賃入候ハ、名主・五人組致加判、拾年以上之永年季無用之事、且又田畑質ニ入、金銀錢を借り、金主ニ爲作候て、御年貢諸役ハ地主勤め候儀、是亦堅不仕ヘから夏、

附 名主質入主ニ候ハ、相名主印形可致候、若相名主無之村方ハ年寄・組頭・百姓代不殘加判可仕候、但亦 御朱印地之田畑・屋鋪・山林等質物ニ取候儀、堅御制禁之事、^{〔三七〕}

一家作或は婚禮等之儀分限より輕ク可致之、其外新宅之廣め、初産之祝儀不相應之儀仕間敷候、尤衣類之儀結構成者不可著、名主紺袖布木綿、百姓布木綿之外不可著、惣而遊藝を好ミ、奢ケ間敷儀一切仕間敷事、

附 大小之百姓無謂刀帶候義一切仕間敷候、并長刀脇差可爲無用候、尤男女共ニ乗物乗鞍馬ニ不可乘候事、^{〔三八〕}

一 葬禮之儀輕ク可致、勿論野酒等一切停止之夏、^{〔三九〕}

一 公用之儀又は村中申合等之儀ニ付、百姓寄合候節、料理ケ間敷儀ハ勿論、酒肴等一切給申間敷候、惣而村入用不相懸候様常ニ可心懸事、^{〔四〇〕}

一 御年貢皆濟以前米穀他所ヘ不可出候、且又御年貢米・金銀名主方ヘ取立候節、壹人別之納之金銀米、員數、月日共ニ帳面ニ記、納主之判形取置、請取手形ニは名主令印形、帳面と致押切納之致置、後日ニ出入

ニ及候共、取上無之候、勿論毎年割附^{〔四一〕}皆濟致置、後日ニ割付皆濟目錄出候ハ、村中出作之者迄不殘致寄合拜見、其段名主方江印形可取置候、惣而御年貢割之儀甲乙無之様ニ微細ニ致、聊不疑様ニ可仕候、且

* 脫落カ

亦御年貢之割と村方夫錢小入用と混亂不致様に可割合、勿論御年貢米金銀納方之儀ハ百姓第一之勤方ニ候条、常ニ心懸置而、納之日限申渡候通、急度可相納、畢竟平日之心懸疎ニ而自不埒ニ成行、納辻觸有之節ニ至リ才覺致候故、差支候事共出來、納方自不埒候、依之納方延引之儀ニ付、彼是申立候共、決而不取用候、御代官所江金銀納候節ハ一村限罷出候ては、雜用等相懸、村方難儀ニ候間、近村ニ申合、持參可相納夏、

附 村中夫錢掛物小入用之儀、常ニ名主・年寄・組頭隨分遠吟味を、村入用不相掛様ニ可念入、尤毎年四月中前年之村入用帳二冊宛 御代官所ヘ可差出事、^{〔四二〕}

一 公事出入之儀相互非分之儀無之様ニ相心得、和融致ニおいてハ、自論等ハ有之間敷事ニ候間、名主・年寄・組頭等常ニ理解可申合、若^{〔四三〕}不心得止之事、公事訴訟罷出候之節ハ、名主・年寄・組頭・五人組江相届ケ同道候敷、又は訴狀ニ名主印形取候敷、或者添狀致可持參候、右躰之儀無之、一分之存寄お以、訴狀差出候共、取上無之夏、

附 名主・組頭お相手取候出入ハ格別之夏、^{〔四四〕}

一 隠田畑之儀堅御制禁之事、田畑新開切添立出、或ハ永荒場起返等有之ハ、早速可申出、隠置露顯於致は、地主ハ勿論、名主・年寄・組頭・五人組迄可爲曲事夏、^{〔四五〕}

一 川通村ニ出水之節、板・材木・眞木、其外家財等流來、取上候ハ、名主・年寄・組頭江相斷、其主相糺、證文お取可相返候、若主不相知候ハ、訴出、可請差圖事、

附 惣而村ニ而金銀米錢衣類等、其外何品ニよらず拾ひ候ハ、是又名主・年寄・組頭江相斷、日數七日之内札立置、持主出候ハ、證文ヲ取可相渡、不相知候ハ、御代官所へ訴出、可請差圖事^{〔四四〕}

一 新造之海船・川船打立候ハ、前廣ニ可請出^{〔四五〕}、

一 湊ニは不及申ニ、惣而海邊附村ニ海上往來之船、難風ニ逢、漂泊致來候ハ、早速助ケ船差出、船頭・水主を隨分致介抱、船中之荷物紛失無之様ニ大切ニ相守、其所之御代官へ可訴出、萬一欲心を以、船寄場悪き所ニ而、ま程木を立、又は燐ヲ燒、破船ニ及はせ、荷物等奪取候類於有之候ニ、其罪おもかるへき事、

附 家財道具其外何様之品にても磯邊へ流寄候ハ、取上置、名主・年寄へ相斷、其主相糺し、證文お取可相返、若主不相知候ハ、御代官へ訴出、可請差圖^{〔四六〕}、

一 惣而人足扶持等被下候節ハ、當座ニ銘ニ割渡、帳面ニ請取印形可取置候、差次ニ勘定不可致候、右躰之儀割合不埒ニ致置、及出入候ハ、名主・年寄可爲曲事候事^{〔四七〕}、

一 新田畑井新林等ニ可成場所見立候敷、亦是運上小物成之類可増筋茂有之敷、惣而何事ニ不寄、御爲ニ可成儀ハ無遠慮可申出、且一分之徳用ニ拘、自余之障ニ茂可成儀お、御爲ニ事寄、於願出ニハ、詮儀之上、答め可申付事^{〔四八〕}、

一 諸役人江對し百姓ノ金銀米錢・衣類・道具は不申及、聊之輕き品ニ而も賄賂音物等一切仕間敷候、但又諸役人村方江罷越候節、馳走ケ間敷事いたす間敷^{〔四九〕}、

附 手代同心之外末ニ之者ニ至迄茂同様之^{〔四九〕}、

一 諸役人非分之儀於有之ハ、此方へ致直訴、可請吟味事^{〔五〇〕}、

右之條ニ堅可相守、若違背之族於有之ハ、急度可爲曲事、此條目名主方へ寫置、村中大小之百姓出作之者迄不洩様讀聞セ、常ニ此趣相守候様ニ入念可申付候、尤年ニ五人組帳之前書ニ可記置者也、

延享五年
辰五月

兵庫
飛彈^{〔五一〕}

右御條目之趣、大小之百姓水吞其外村中男女不殘承知仕奉畏候、常ニ無油斷吟味可仕候、若違背仕候者御座候ハ、當人は不申およは、親類・縁者・名主・組頭・五人組迄、如何様之曲事ニ可被 仰付候、爲其村中五人組相定、連判差上申處依而如件、

九二 文久元年武藏國橋樹郡木月村惣百姓五人組連印帳

* 半紙二十枚。旗本領。

(前書は安政五年の分にその第四箇條に類似せる左の一箇條を〔二五〕に入れ、全部にて二十六箇條となつてゐる。)

一 近來御年貢上納皆濟不仕以前ニ米賣買いたし、悪米を御年貢ニ納候物有之、且は百姓我儘之儀被及 御

聽、甚ふ埒之至ニ候、名主・年寄・百姓代立合之上、斗立致、右躰之儀無之様爲仕、若相背候而、右躰之始末いたし候もの於有之は、早速御訴可申上候様、被 仰渡承知奉畏候事
〔二六〕は安政五年の分〔二五〕に同じ。

五人組連印兩年の分を次ぎに掲ぐ。

| | | | | | | | | |
|---------------------|----|------|-----|------|------|-----|-----|-----|
| 安政五年 五人組頭 富五郎 | 佐吉 | 庄右衛門 | 熊治郎 | 松五郎 | 市右衛門 | 善之助 | 竹治郎 | 政治郎 |
| 文久元年 五人組頭 富五郎 | 佐吉 | 米次郎 | 房吉 | 松五郎 | 市右衛門 | 善之助 | 竹次郎 | 政次郎 |
| 安政五年 兼治郎 | 利助 | 傳兵衛 | 文治郎 | 金右衛門 | 李右衛門 | 久治郎 | 金太郎 | |
| 文久元年 兼次郎 | 利助 | 傳兵衛 | 文次郎 | 金右衛門 | 李右衛門 | 久次郎 | 金太郎 | |

泰治郎
四人

與吉
常治郎
市三郎
熊治郎
彌左衛門
兵五郎
宇之助
喜三郎
三人

泰次郎
五人組頭
傳左衛門

與吉
甚左衛門
彌左衛門
市三郎
兵五郎
宇之助
喜三郎

前書之通五人組連印帳奉差上候處相違無御座候、以上、

武藏國橋本郡木月村

組頭 富五郎
安政五年
二月 喜三郎

年寄 三右衛門

名主 見習兵左衛門

名主 德植兵五郎

武州橋本郡木月村

組頭 傳左衛門
西八月 宇之助

年寄 喜三郎

名主 見習兵左衛門

名主 德植兵五郎

御地頭所様御内

御役人中様

九三 文久二年美濃國厚見郡野一色村五人組御仕置帳*

* 大判十五枚。慶應四年には警城平藩(藩主安藤信勇)に屬してゐたが、當時も同様であつたらう。

前々從

御公儀様被 仰出候五人組御仕置御ケ條之趣、急度可奉相守候、依之惣百姓一同連印仕置候如件、

文久二年三月三日

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|------|---|---|---|---|---|------|
| 左 | 善 | 金 | か | 善 | 助 | 源 | 彦 | 重 | 新 | 五人組頭 |
| 吉 | 助 | 藏 | と | 郎 | 門 | 郎 | 門 | 門 | 郎 | 十 |
| 治 | 小 | 銀 | 銀 | 幾 | 定 | 七 | 長 | 金 | 惣 | 五人組頭 |
| 右 | 右 | 右 | 右 | 右 | 右 | 右 | 藏 | 三 | 七 | 郎 |
| 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 門 | 郎 | 門 | 門 |
| 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |
| 喜 | 爲 | 金 | 庄 | 甚 | 惣 | 喜 | 新 | 惣 | 清 | 五人組頭 |
| 平 | 藏 | 右 | 吉 | 十 | 兵 | 藏 | 助 | 十 | 助 | 十 |
| 家 | 後 | 衛 | 郎 | 郎 | 衛 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |
| 門 | 家 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |
| 喜 | 惣 | 忠 | 九 | 藤 | 新 | 甚 | 奥 | 甚 | 半 | 五人組頭 |
| 兵 | 兵 | 左 | 兵 | 五人組頭 | 左 | 兵 | 右 | 甚 | 治 | 野一色村 |
| 衛 | 作 | 衛 | 衛 | 七 | 衛 | 衛 | 門 | 藏 | 郎 | 厚見郡 |
| 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 野一色村 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------|
| 林 | 九 | 傳 | 文 | か | 林 | 吉 | 安 | 與 | 八 | 甚 | 源 | 甚 | 幸 | 善 | 甚 | 五人組頭 |
| 左 | 右 | 治 | 左 | つ | 兵 | 兵 | 右 | 八 | 重 | 六 | 治 | 治 | 四 | 十 | 四 | 五人組頭 |
| 衛 | 衛 | 門 | 衛 | 門 | 衛 | 衛 | 衛 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |
| 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |
| 勤 | 左 | 文 | 文 | 金 | 左 | 善 | 善 | 丈 | 藤 | 孫 | 助 | 新 | 藤 | 長 | 喜 | 五人組頭 |
| 三 | 十 | 五 | 五 | 治 | 右 | 右 | 右 | 右 | 十 | 左 | 治 | 治 | 左 | 左 | 左 | 五人組頭 |
| 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 |
| 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |
| 彌 | 專 | 惣 | 新 | 吉 | 多 | 祐 | 澤 | 圓 | 左 | 忠 | 金 | 澤 | 勤 | 新 | 茂 | 五人組頭 |
| 左 | 十 | 十 | 兵 | 右 | 右 | 田 | 田 | 田 | 右 | 右 | 右 | 右 | 右 | 右 | 右 | 五人組頭 |
| 衛 | 郎 | 郎 | 衛 | 衛 | 藏 | 藏 | 藏 | 藏 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 衛 | 五人組頭 |
| 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |
| 善 | 幸 | 喜 | 丈 | 幸 | 重 | 勤 | 源 | 勘 | 勘 | 左 | 忠 | 左 | 甚 | 長 | 文 | 五人組頭 |
| 七 | 介 | 門 | 助 | 八 | 兵 | 十 | 助 | 郎 | 郎 | 左 | 平 | 左 | 左 | 右 | 右 | 五人組頭 |
| 郎 | 介 | 門 | 門 | 門 | 衛 | 郎 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |

五人組帳の研究

| | | | | | | | |
|---------|---------|--------|--------|--------|----------|-------|--------|
| 忠兵衛 印 | 藤九郎 印 | 甚四郎 印 | 民右衛門 印 | 五人組頭 | 源四郎 印 | 金四郎 印 | 左右衛門 印 |
| 吉藏 印 | 五人組頭 | 源八郎 印 | 久右衛門 印 | 条左衛門 印 | 五人組頭 | 平七郎 印 | 彦右衛門 印 |
| 平藏 印 | 十助 印 | 五人組頭 | 庄新 印 | 新九郎 印 | 吉印 | 新九郎 印 | 新九郎 印 |
| 五人組頭 | 澤田甚十郎 印 | 勝右衛門 印 | 祐藏 印 | 彦藏 印 | 百姓代 | 左兵衛 印 | 善八郎 印 |
| 澤田甚十郎 印 | 甚治郎 印 | 勝右衛門 印 | 祐藏 印 | 彦藏 印 | 年寄 | 善八郎 印 | 善八郎 印 |
| 澤田甚十郎 印 | 甚治郎 印 | 勝右衛門 印 | 祐藏 印 | 彦藏 印 | 同断 | 林平 印 | 同断 |
| 澤田甚十郎 印 | 甚治郎 印 | 勝右衛門 印 | 祐藏 印 | 彦藏 印 | 庄屋 | 重三郎 印 | 同断 |
| 澤田甚十郎 印 | 甚治郎 印 | 勝右衛門 印 | 祐藏 印 | 彦藏 印 | 庄屋後見 | 田久平 印 | 同断 |
| 澤田甚十郎 印 | 甚治郎 印 | 勝右衛門 印 | 祐藏 印 | 彦藏 印 | 澤田五郎兵衛 印 | 田久平 印 | 同断 |

* 本村の五人組帳はなほ文久三年、元治二年、慶應二年の三冊あるが、本帳と同一故省略する。

佐藤助四郎殿
石川彌右衛門殿

齋藤岡之丞殿
金古亮之助殿
九里鋒吉郎殿
佐藤久松殿
和田孝太郎殿

九四 文久四年羽前國田川郡中村御仕置五人組帳*

差上申一札之事

一前と從
公義被 仰出候御法度書之通、彌堅相守、御制法之儀少茂相背申間敷候、
一切支丹宗門之儀、御高札之旨、急度可相守、宗旨之儀、別而入念相改、毎年三月迄之内、帳面可差出候、
帳面改候以後召抱候下人等は、寺受狀前紙差上可申候、若御法度之宗門之者御座候ハ、早速可差出、尤
切支丹ころひ之者并類族有之者、別紙ニ記可差出候、他村々縁組等ニ而當村江類族來候ハ、早速可致注
進事、

五人組帳資料

* 半紙四十二枚。
本書は原本より模
寫したものであつ
て、慶應義塾圖書
館の蔵本である。
(一四四/八五/
一) 原本の所在は
明かでない。文中
誤寫と思はるる箇
所が、いくつかあ
る。原本を参照し
得ないから明かで
はないが、その多
くを訂正した。本
村は庄内藩の御預
地である。

一 五人組之儀町場ハ家並、在郷は最奇次第、家五軒宛組合、子供并下人・店借・地借之者ニ至迄、悪事不仕様、組中常々無油斷、可令詮儀、若徒者有之候而、庄屋之申附を茂背、五人組之異見を茂不用候は、可訴之事、^{〔三〕}

一 五人組宗門帳江押候外之印形不可調置、尤百姓共面々印形名主・組頭江常々預置申間敷事、^{〔虫喰〕}印形替候は、庄屋・組頭は役所江相斷、其外之百姓は庄屋・組頭江可斷、若名改候ハ、早速斷いたし、五人組宗門帳ニ茂改候名を可記事、^{〔四〕}

一 田畑并山林等永代賣買堅御停止ニ候、若質物等ニ入候は、年^{〔虫喰〕}限リ質手形、庄屋・組頭・五人組加判可爲仕候、田畑質物ニ入、金銀を借、田地は金主ニ爲作、御年貢は地主ヲ出候儀、堅仕間敷事、

附 名主之田畑質物ニ入候は、相名主又は組頭加判可取之事、^{〔五〕}

一 川欠・山崩等永荒場起返候敷、又は切添新開田畑有之者、^{〔虫喰〕}注進可申出、若隱置、脇ヲ訴出候は、庄屋・組頭可爲越度事、^{〔六〕}

一金・銀・鉄・銅・鉛山出來候ハ、早々注進可申出候、若隱置、脇ヲ相知候ハ、急度御仕置可被仰付旨、^{〔七〕}其意候事、

一 堀を埋出、道をせはめ、秣場林際を切添、田畑仕出ヘからず、前々より無之處、道付、馬入不可仕、若道付替、新堀等不致候而不叶儀は可受差圖事、^{〔八〕}

一 高拾石、地面壹町歩、右之定より少く分候儀停止たり、尤分高ニ不限、殘高茂此定より少殘ヘからず、

然上は高貳拾石、地面貳町歩少き地面持、子供を始、諸親類之内江地面配分不相成候間、厄介人有之者、在所ニ而耕作之働ニ而渡世爲致候敷、或は相應之奉公ニ可差出事、^{〔九〕}

一 用水之懸引常々申合、^{〔十〕}ふ手前様いたし、爭論不可仕候、水論・山論等之場所江刀・脇差・弓・鎗・長刀等を持出、理不盡成儀仕間敷事、^{〔一〇〕}

一 堤・川除不切様、常々申合、洪水之節は村中之者出、随分可圍候、井道橋等損、往還之障ニ成^{〔虫喰〕}□□、田畑損亡可成處は、兼而小破之時、早速可致修覆候、縦申付無之共、受取場之道橋ハ常々無油斷作可申事、^{〔一一〕}

一 洪水之時、堤・川除切候敷、又は盜賊・狼藉者并火事有^{〔虫喰〕}□鳴を立候節ハ、村中之者十五以上、六十以下之男は不殘可出、若左様之節、不出合者有之は、庄屋・組頭遂吟味、早速可訴出事、^{〔一二〕}

一 御林御立山之竹木・枝葉・下草等ニ至迄、公用之外、伐取間敷候、縦百姓持林并四壁之木ニ而茂目立候木伐取候ハ、得差圖可伐之、堤有之柳・草・葭等掘取間敷事、

附 入會之野山、面々持林ニ而茂、草木之根を掘取間敷候、田畑山崩・川欠等無之様可仕候、野山ニ草木を植置可事、^{〔一三〕}

一 前々有附候田畑作荒、年繰ニ地^{〔不明〕}□を失ひ、其上御年貢違背之輩有之ハ、早速可申出事、^{〔一四〕}

一 年々御觸書を以相改候酒造石相違無之様可仕候、尤有來酒屋之外、新酒屋は不及申、受賣之酒茂可爲停止事、^{〔一五〕}

一 家業耕作第一ニ心掛、諸作能種ニ而、作物念入、荒作仕間敷候、不精ニ而田畑諸作劣候ハ、可令詮儀、

- 獨身之百姓永煩仕候敷、又は幼少ニ而親ニ離れ、耕作難儀成者候は、村中ニ而助合、不荒様可仕候事、^{〔二六〕}
- 一 惣而家業を疎略ニいたし、悪心を以、不謂致訴訟、非公支、偽を工ミ、人之害を不可成、若左様之者あらハ、不隱置可申出候、并常ニ耕作商賣等之稼無之、惡事不法之者有之は致吟味可注進事、^{〔二七〕}
- 一 不依何事、神水吞、誓紙書、一味同心致、徒黨・非公事をす、め、出入爭論之荷擔致候ハ、其科本人よりおもかるべき事、^{〔二八〕}
- 一 御高札之面堅相守、往還之輩ニ對し、不可致無禮、前ニ侍を立候者たりと云共、田畑作、百姓仲間江入候者諸事百姓可爲同前、惣而役人諸侍ニ對し、慮外仕間敷事、^{〔二九〕}
- 一 百姓不似合致風俗、長脇差帶、喧嘩口論を企、好色・遊藝を好、大酒を飲、致醉狂、行跡あしき者あらハ、可訴之事、^{〔三〇〕}
- 一 百姓衣類之儀は結構成物不可著、名主者妻子共ニ紺・紬・布・木綿可著之、平百姓は紬・布・木綿之外不可著之、紗綾・縮緬之類袴帶等ニ茂致間敷候、平百姓ニ而茂身帶宜敷者ハ役所迄斷を立、差圖を受、紺・紬可著事、
- 附 家作之儀目立、奢かま敷儀仕間敷候、尤男女共ニ乗物ニ不可乘事、^{〔三一〕}
- 一 博突、惣而賭之諸勝負、或は百人講と名付、或は商ひニ事寄、博突ニ似たる儀、何ニ而茂不可致之、若心得違之輩有之ハ宿致候者共、急度曲直可申付事、^{〔三二〕}
- 一 盜賊・惡黨人有之者、訴人可仕、褒美爲取之、其上仇を不成様可申付事、^{〔三三〕}

一 鐵炮之儀運上出候獵師、或は威鐵炮渡置候村は格別、外村ニ隱置へからず、若隱置候ハ、可爲曲事、^{〔三四〕}

一 獵師之外鳥獸一切取へからず、獵師たりと云とも、鶴・白鳥・雁・鴨取候儀御停止ニ候、若村内ニ而鶴・白鳥賣買致候もの有之候共、一切買取申間敷事、^{〔三五〕}

一 衣類・道具又は門橋等之はつし金物類、出所不知賣物買取間敷候、右之品ニ預置へからず、受人無之候ハ、質物ニ茂取間敷事、^{〔三六〕}

一 新地寺社建立之儀堅可爲停止、惣而佛交・神事・祭禮等輕可執行、新規之祭禮取立へからず、并寺社之儀、住寺・社人替候ハ、可注進事、^{〔三七〕}

一 神佛致開帳候ハ、可注進、當村之神佛他國江當分移、開帳候とも、前方可注進、又は他國ノ神佛等送候儀有之候ハ、不可受之、村内ニ少之間茂差置申間敷事、^{〔三八〕}

一 宿場并在ニ火之用心隨分入念可申付、宿場ニ而は火消道具拵置、其上自身番并夜番無油斷相勤可申候、在ニ而ハ番屋を立、若火事有之者、鳴を立、村中之者欠附、精出可消、勿論郷藏御年貢入置候内、火事有之は、隣村ノ其所江欠附、藏大切ニ圍、燒失有之は、村中大小之百姓割賦ニ而急度辨納可致事、^{〔三九〕}

一 親ニ孝を竭、下人ハ主に隨ひ、夫婦兄弟親しみ、其外老たるを敬ひ、物毎明路ニ可仕候、若不孝不儀之輩有之は、庄屋・組頭・五人組打寄、加異見、其上ニ而不相用族有之は、早ニ可申出事、^{〔四〇〕}

一 捨子堅不可仕、若他村之者捨置候ハ、^{〔四一〕}

*このところ、切れてゐるが、丁度それは第十四葉目の最後に當る。もしこの後に一葉脱したものと見れば、少なくとも二三箇條を逸したものとみられる。あるひは原本も脱落してゐるのか、その點不明。

一 捨牛馬有之敷、又は放牛馬當村江來候ハ、名主・年寄能、致詮儀、持主知候ハ、其村之名主本主手形取之、相返、其旨可注進之、惣而生類を憐、不實不仁成儀一切仕間敷事、

附 牛馬賣買之儀儘成受人を取、賣買可仕候、且又馬之筋を延候儀堅御停止ニ候、并作場江猥ニ牛馬放申間敷事、^{〔三三〕}

一 諸親類兩隣之儀、常々不實無之様可仕、不仁之仕方一切不可致事、^{〔三三〕}

一 掣取・嫁取之儀奢かましく無之様可仕候、大勢集、大酒吞へからず、新宅之ひろめ、初産之祝ひ等奢かましき儀不致、内證ニ而輕可仕候、并葬禮之野酒堅停止之事、^{〔三四〕}

一 村中之者之内、或ハ立退、或ハ身上潰候者有之候ハ、早々可注進候、又者他村ハ立退候者來候ハ、親類たりといふとも、當村江一切不可差置候、無據子細有之候ハ、相斷、可受差圖事、^{〔三五〕}

一 他所之者當村ニ致住居度旨願出候ハ、出所家職之様子聞届、出所之先相斷、受人手形取之、宗旨相改、遂吟味を而、可得差圖、店借・借地ニ而茂右同斷可相心得、其外諸親類百姓ニ有附候ハ、可注進事、^{〔三六〕}

一 他所へ參、夜泊リ罷出候共、庄屋へ相斷可被出候、又ハ他所へ奉公ニ出候敷、用事ニ而他國へ罷越候ハ、其子細庄屋・組頭・五人組へ書付ニ而相斷、庄屋方ハ早々役所へ可訴出、若無據儀ニ而公事訴訟其外之儀ニ而茂、江戸江罷出候ハ、役所へ達、添狀を以、可罷出候事、

附 他國へ罷越候男女牛馬等之儀、役所へ相違、手形取之差越可申事、^{〔三七〕}

一 當村ニ有之出家・社人・山伏・行人・道心^{〔三九〕}其外非人等^{〔四〇〕}類迄、常々致吟味候而、胡亂成者住居爲仕

間敷候、尤庄屋・組頭江不相斷候而、他所ハ參候者一夜之宿茂不仕様、堅可申付事、^{〔三八〕}

一 手負又者行衛不知怪敷者、他所ハ來候ハ、出所尋、早々致注進、可得差圖候、尤一夜之宿茂不可貸候、若堂宮・山林ニ隠忍ひ、胡亂成卦ニ候ハ、令詮儀、其所より搦捕可訴之事、^{〔三九〕}

一 殺害人、或者自害候ハ、行倒之死人、是ハ庄屋・組頭立會死骸相改、番人附置、早速可注進候、其外盜人喧嘩口論ニ^{〔四一〕}手負等有之、不慮之儀出來候ハ、庄屋・組頭令詮儀、無油斷注進可仕候、并人殺立退候者有之ハ、隣郷之もの迄押置、早速可注進候、押置候儀不叶候ハ、跡ニ^{〔四二〕}隨ひ、落著之所急度可相届事、

一 他村ニ而喧嘩口論有之候共、猥走趣くへ^{〔四三〕}からさる事、

一 當村之内ニ能・操・相撲・狂言之芝居、一切致間敷候、私領者分郷或者隣村ニ而、當村境目紛敷地ニ而致候共、早々注進可仕候、尤遊女野郎之類、一切當村ニ少之間も不可差置事、^{〔四四〕}

一 御傳馬宿人馬晝夜無滯様可相勤候、尤定助・大助ハ人馬寄之儀、先觸を以、問屋年寄員數致吟味、宿役人方江相違、觸書可出之、猥ニ人馬觸間敷候、無高下様可相心得事、

附 人馬入用并宿附之拜借等、金銀割差引、宿中立合、以後申分無之様、年切勘定、帳面ニ記可差出候、吟味之上相濟候ハ、加印形可相渡候事、^{〔四五〕}

一 助郷江人馬觸來候ハ、刻限不違、可出之、若人馬割難心得候事候者、無滯出之、後日其段可申出事、^{〔四六〕}

一 御朱印者勿論、駄賃人足無滯様可仕候、本海道無之候共不手支成様可仕候事、^{〔四七〕}

一 船渡川越之處、御高札之旨急度可守之、日々川越之淺深令吟味、川越人足賃錢・人數共、入念可相究之、

- 一 尤相定之員數之外、少ニ而茂多く取へからざる事、^{〔四六〕}
- 一 宿繼御狀相通候時分、入念大切仕、無滯持送可申事、^{〔四七〕}
- 一 湊ニ浦ニ而御高札之趣堅相守、御城米船、逢難風候節者、早ニ助船を出し、隨分精入可圍、若破船有之候者、猥成儀不可仕、早ニ可注進、諸廻船之儀茂右ニ准し、みたり成儀不可仕事、^{〔四八〕}
- 一 川ニ洪水之節者、御用木等は不及申、惣而流水之分改無之以前、猥ニ不可引取事、^{〔四九〕}
- 一 御朱印、又者御證文茂無之人馬出候様申、駄賃茂不出、通者有之は、其品ニ寄押置、庄屋・組頭立會之上、怪敷躰ニ候は早速可注進事、^{〔五〇〕}
- 一 往來之輩若煩候は早速醫者を掛、能勞り、食更を與へ、念を入、看病仕置可注進候、行歩、難成候者、其もの之在所聞届、迎を呼、手形を取、相渡可申候、若病死仕候ハ、其者之道具等庄屋立會改、封印致置、差圖可受事、^{〔五一〕}
- 一 毎年御年貢免狀出候者、庄屋・組頭方々者村中小大之百姓、入作之者迄相觸、不殘立會披見之上、致免割、小物成臨時之者共、可納米銀、壹人毎、委細書付、小百姓茂疑敷不存様、其訊申聞、右書付銘ニ爲寫、其上ニ而免狀奥別紙を繼候而、立會披見仕候は、書付銘ニ判形可取置、并御年貢割渡候其節、村方小入用割、入交一同不成様、念入割會、相違無之様可致事、^{〔五二〕}
- 一 御年貢收納之儀、申渡候日限之通無相違可相納候、村ニ常ニ申聞、少茂油斷仕間敷候、米金皆濟仕候ハ、納勘定いたし、名主方江百姓之判形可取置事、^{〔五三〕}

- 一 御年貢金銀庄屋方江取集候共、致控帳、納候度ニ金銀員數・納主之名書付、印形爲致候而、庄屋方々受取手形扣帳ニいたし渡候ハ、扣帳ニ押切印形爲致之、後日出入無之様可仕候、^{〔五四〕}
- 一 米納之節、名主・組頭・米見立會、青米・死米・粹・粃・糠無之様、隨分致吟味、榭目不切様依ニ可入念事、^{〔五五〕}
- 一 依拵之儀ニ重こも、小口蜘蛛かゝり、摺繩ニ而可仕、壹俵毎ニ念を入可相納、依之内江入候中札ハ紙ニ而酒井左衛門尉御預所、國郡村名・米主・名主・組頭名前相記、銘ニ致印形、役人之判形を茂取、依毎ニ可入之、外札は竹ニ而茂、木ニ而茂姓名・御預所國郡村名・米主之名相記、裏ニ依之實目可書付事、^{〔五六〕}
- 一 御年貢皆濟無之已前、穀物他所へ不可出、三分一金納之爲、米賣候は、名主・組頭相斷、可受差圖事、^{〔五七〕}
- 一 御年貢御廻米納名主之儀、途吟味可申付候、御藏方之入用多不入様申合、淺草納宿立會、委細帳面ニ記させ、入用渡之、右帳面ニ江戸役所奥書印形取之、可差出候、帳面ニ無之入用茂納名主方々申出候共、一切不可出事、^{〔五八〕}
- 一 御城米、上乘庄屋之儀是迄通吟味之上、可申付候間、於船中、船頭と致一味、猥成儀仕間敷候、不届之仕方有之候ハ、後日相聞候と茂越度可申付事、^{〔五九〕}
- 一 惣而從
- 一 公儀被 仰置候人足扶持等、庄屋立會、當座銘ニ割渡、帳面ニ受取候様書付させ、印形可取置、惣而繼合勘定不可致事、^{〔六〇〕}

一 御用之儀、又は村中申合候儀ニ付、庄屋方江寄合候節、村入用食物酒肴一切仕間敷候、障明次第、早速可歸事(虫退六)

一 堤・川除御普請、用水堀さらへ之節、奉行人足等酒肴爲仕、村入用ニ掛間敷候事(六三)

一 庄屋・組頭常ニ申渡之通、御預所役人并召仕等ニ至迄、金銀米錢・衣類・諸道具・酒肴其外何ニ而茂音物禮(物)一切仕間敷候、右之者或ハ押買押賣仕候敷、又は不作法之儀有之候は可申出候、若隱置候ハ、庄屋・組頭可爲越度事、

附 役人召仕等判形茂無之手紙、又は口上ニ而茂、金銀之儀申來候とも、一切挨拶仕間敷候(六三)

一 御預所役人村ニ江相廻候節、泊・晝休共、定之旅籠錢相拂候間、其處有合野菜を以、一汁一菜賄可申付候、尤可爲無酒、惣而百姓之馳走ニ不相成、村ニ費無之様申付候間、魚鳥杯調置、村入用割掛候ハ、庄屋・組頭可爲越度候、并無用之人馬大勢集、百姓之隙費間敷候事(六四)

一年ニ村ニ割掛候夫錢・小入用掛物之儀、庄屋・組頭遂吟味、念入、多入用無之様可仕候、右入用帳之儀令吟味、役所加印形候間、入用之度ニ念を入、書付置可申候、此外別帳仕、無用之儀村方江割掛申間敷候、右帳面貳册翌年正月中、可差出事(六五)

一 御料所國ニ百姓御取箇并夫食・種貸其外願筋之儀付、強訴・徒黨・逃散候儀ハ堅御停止ニ候處、近來御料所之者も右躰之願筋付、御代官陣屋江大勢相集、致訴訟候儀有之、不届至極ニ候、自今以後殿吟味之上、重罪科可被行候条、御代官支配限り、百姓共江急度申付置候様、御代官所江被申渡候事(六六)

こうそとハ しいて願ふ事

徒とうとハ 大勢組し而願ふ事

てふさんとハ にけさる事

右之通村中之者共、堅相守可申候、若違背之輩有之者曲直可申付者也、

都而前ニ御觸有之候得共、此度銘ニ身分不相當之儀御嚴正被 仰出候付、百姓共心得方左ニ申渡候、

一 衣類之儀は布・木綿之外一切著用致間敷、祝儀・無祝儀之節、是迄麻上下等相用候もの茂、羽織袴ニ而相濟可申事

但羽織袴は布・木綿可用事(七一)

一 食類之儀は魚飯第一ニいたし、平日は汁・香之もの外可爲無用、祝儀・無祝儀之節は、冷酒吸物一ツ之外、酒肴堅無用之事(七二)

一家普請之儀雨漏等無之様取繕候敷、又は無據柱根繼等之分は不苦候得共、勝手ニ建直候儀は不相成、可成丈取繕置候様可致、自然建直ニ至候ハ、手輕ニいたし、聊花美無之様可致事(七三)

一 狂言・操つり・相撲之類不可致旨は古來より之定ニ有之、既ニ遊藝之歌舞妓・淨留理之類、惣而芝居同様人集、堅制禁たるへき旨も、寛政之度御觸茂有之處、近比猥ニなり、神事・祭禮・風祭り・虫送り等ニ事寄、右等之儀催候村方も有之哉ニ相聞、如何之事ニ候、右者風俗を亂し、耕作を怠り候基付、向後何事ニ寄らず、人集ケ間敷儀、催もの於有之は、其ものは村役人迄吟味之上咎可申付候、尤私領分郷之村、或

ハ村境粉敷場所ニ而、右様之催致もの有之者、早速役所江注進可致事、
 一 國柄仕來ニ而契約と唱、男女子供ニ至迄打寄候節、順番を以、會合之宿々酒食差出候様ニ相聞候、以來
 契約會合之儀は不相成事、

但何事ニよらず申合候儀は不相成事付、村内申合度儀も有之候ハ、直ニ村役人江申出、村役人共々
 百姓之存意を承り、其次第二寄可訴出事、

一 辰年之もの辰祝ひと唱、大勢相招、大造之料理振舞候趣、右者銘ニ身分不相弁、如何之至ニ付、以來堅
 相止、家内限聊之品ニ而内祝ひニ可致事、

一 百姓共召仕之儀、身分不相應大勢差置候趣相聞候、銘ニ手作等手廣ニ致候とも、夫ニ分量茂可有之次第
 付、可成丈召仕之者減少可致事、

一 神事・祭禮・佛事・供養之儀、神佛江供物之類、其他取扱之儀は是迄之通相心得、右(ニ)付衣類花美、
 又は赤飯酒食等、銘ニ拵候儀は可爲無用事、

一 不幸有之節、見舞又は手傳と唱、大勢罷越、數日酒食いたし候趣相聞、如何之至ニ候、不幸逢候者ハ、
 沈悲歎居候折柄、心なきいたし方(ニ)付、全手傳居候ものハ、其次第二寄、食事可致事茂可有之候得共、
 可成丈食事之時刻は銘ニ歸宅致、猶又詰合相たかるニ實意に世話いたし可申事、

一 小高百姓并名子・水呑之分は相互ニ音信・贈答一切無用之事、
 一 都而打寄、酒宴ハ勿論、三味線遊興等之儀堅く不相成事、

一 菓子類之儀、儲おこし之外、高直之品一切賣買可爲無用事、

一 髮結渡世之儀在ニおゐてハ、床店等差出、渡世にいたし候者は無之候得共、自然百姓縁不相成もの、
 右等之渡世いたし候哉ニ相聞、不宜事付、以來宿場・町場ニ而ハ髮結兩人之外不相成、在ニをゐてハ一
 切可爲無用事、

一 在ニおゐて足洗場杯と唱、湯屋渡世候者茂有之由、右宿場・町場之外一切不相成事、

一 於宿場、旅籠屋共飯盛女差置候者勿論、町場等ニ而隠賣女差置候儀、堅不相成、若隠置候ハ、召捕候
 事、

一 金銀銅山見立、其外御益筋ニ相成候儀心付候は、不包、村役人江申立、其上ニ而可申出事、

一 鼈甲・櫛・かうかひ・銀かんさし・同喜世留筒・烟艸入・塗下駄・雪駄・雨傘・日傘并女子共髮飾ニ指・
 縮緬相用候以來、堅可爲無用事、

右之條ニ堅可相守候、此旨少茂違背之輩於有之は、可爲曲事、此帳面壹ケ年兩度宛庄屋方江村中寄合、儲ニ
 爲讀聞、常ニ此趣令合點罷在候様可相心得者也、

前書御ケ條之趣、逸ニ奉拜見、承知奉畏候、村中大小之百姓、此五人組除候者壹人茂無御座候、則御ケ條庄
 屋方ニ差置、被 仰渡候通壹ケ條宛爲讀聞、急度相守可申候、若此旨少茂相背候者如何様之曲事ニ茂可被
 仰付候、爲其連印御請如斯御座候、以上、

文久四年

羽州田川郡中村

子三月
五人組帳資料

五一九

御預地
御役所

五人組頭 五二〇
 半右衛門 門印
 庄左衛門 門印
 惣右衛門 門印
 重右衛門 門印
 重左衛門 門印
 五人組頭
 治郎左衛門 門印
 嘉右衛門 門印
 仁左衛門 門印
 長百姓
 甚左衛門 門印
 組頭
 助左衛門 門印
 名主
 多左衛門 門印

九五 元治元年五人組御條目

(前書六拾ヶ條附則拾九條のみ。五九天保八年五人組帳前書と殆ど同様である。同項参照)

* 半紙二十一枚。
表紙に筆寫の名嶋
根氏とある。

** 半紙八枚。本
村は數給からなる
が、この五人組帳
は旗本領に屬す
る。

*** この所に判
頭の印形を捺す以
下同じ。

九六 元治元年上總國市原郡八幡村五人組之帳

五人組 門印
 惣右衛門 門印
 彌七 門印
 三之助 門印
 八平 門印
 初五郎 門印
 判頭
 吉右衛門 門印
 佐平次 門印
 市郎兵衛 門印
 五人組帳資料

五人組 門印
 利右衛門 門印
 久兵衛 門印
 判頭
 甚七 門印
 伊勢松 門印
 長七 門印
 磯七 門印
 喜七後家 門印
 五七 門印
 五二一

五人組帳の研究

五人組印

判頭 與兵衛印
平次郎印
三郎兵衛印
岩 輔印
岩 上印
岩太郎後家

五人組印

判頭 國右衛門印
金次郎印
熊七印
與兵衛印
清十郎後家

五人組印

判頭 忠五郎印
金五郎印
吉五郎印
政吉印

五人組印

榮七印
勘助印
彦七印
判頭 八右衛門印
半次郎印
清兵衛印
幸右衛門印
庄兵衛印

五人組印

判頭 孫右衛門印
傳四郎印

五人組帳資料

五二二

判頭 利右衛門印

五人組印

新 兵衛印
善 兵衛印
三右衛門印
傳七印
吉兵衛印

五人組印

判頭 卯左衛門印
三之助印
榮太郎印
伊三郎印
源藏印

五人組印

判頭 勘四郎印
富五郎印

五人組印

辰五郎印
源左衛門印
吉五郎印

元治元年甲子年三月

百姓代 辰五郎印
組頭 勘三郎印
同 吉兵衛印
同 勘十印
同 傳十郎印
名主 德太郎印

御地頭所様

御役人中様

九七 元治二年上野國綠野郡岡取村御制禁被仰渡五人組帳*

* 中判五枚。不幸にして後半亡失してなし。私領たることは本文中の文言を以つて推知し得る。

一前々

公儀御法之趣、彌以堅相守、向後御家之御法度急度可相守事、

一 村里田畑・山野境目明白ニ立置、後ニ至リ爭論無之様可相心掛事、

一 常々農業無油斷出精、御年貢之義は大切ニ相心得、日限無遲滞可相納候、無謂令難澁は、吟味之上急度可申付事、

一 御年貢皆濟以前、他借濟へからず、尤皆濟以前賣米一切禁止之事、

一 衣食居所奢なく質躰儉約相守、親類は不申及、村内睦敷致、常々五人組諸事申合、家業油斷不仕、面々進退取續候様相心掛可申候、若五人組之異見不用者有之候ハ、名主・組頭江申達、其上ニも異見不用不届者於有之は、早速郡奉行江可訴出候、若隱置、惡事次第ニ募リ、後日相聞候ハ、名主・組頭・五人組迄可爲曲事、

一 孝子又は寄持者有之候ハ、其段可申出事、

一 他領江對し候義は勿論、御領内たりとも邪成公事すへからず、萬一右躰之儀致一味候ハ、急度可申付事、
一 常々火之用心大切ニいたし、晝夜油斷すへからず、若火事有之時は、風上はいふニ不及、風下たりとも、

早速火の元へ馳集り火消可申事、

一 村内浪人者一切差置へからず、無謂者ニ一夜之宿も不可貸事、

一 村内ニおゐて殺害人は勿論、倒死又は變事有之候ハ、早速可申出、内證ニ而取扱候ニおゐては、急度可申付事、

一 喧嘩口論堅可慎、若疵付候義も有之候ハ、早速可申出事、

一 博突・三笠附・富突之類、惣而賭之諸勝負堅停止候、神佛ニかこつけ人集すへからず、若博突致候者あらは、早速可訴之、訴人之者へは御褒美可被下之、

(一枚破棄しあり)

不出候ハて不叶節は定之賃錢可取之事、

一 村中諸入用掛物無益之義無之様可相心掛、尤諸入用は時々悉敷帳面ニ記、名主請取手形相渡へく、若請取書も不差出、疑敷割合於有之は早速可申出事、

一 何事ニよらず、郷中之義は郡奉行へ訴さる義外申出間敷候、若奉行職無筋取上さる敷、又は非道之取捌有之候節は、其旨目附共迄可申出事、

附 諸役人・足輕・中間ニ至迄、百姓へ對非道我儘有之時は、早速郡奉行へ可訴出事、

一 惣而郡奉行々下知之趣相背へからざる事、

(以下亡失)

* 本村の五人組に明治三年の分があるが、内容は本帳と全然同一である。ただ御公儀様が御上様と書きかへられ、宛名が浦和縣御役所となつてゐるだけである。

* 半紙二十一枚、表紙に古寺組とある。

五人組帳の研究

借家人
七右衛門[㊦] 一同 幸 吉[㊦] 一同 清 助[㊦] 一 山伏大藏院[㊦] 一 寺 千手院[㊦]

福田所左衛門様
御役所*

九九 元治貳年大和國廣瀨郡笠村五人組帳*

前書五人組略之

元治貳
乙丑三月 日

| | | | |
|-------------------------------|------------------|------------------------------|------------------|
| 一 高貳拾三石五斗四升三合貳勺 ^{年寄} | 與三郎 [㊦] | 一 無高 | 百兵衛 |
| 一 高拾七石九斗五升三合六勺 | 與吉 [㊦] | 一 無高 | 新藏 [㊦] |
| 一 高貳石四斗九升七合九勺 | 清九郎 [㊦] | 一 高拾五石五斗四升七合三勺 ^{年寄} | 幸四郎 [㊦] |
| 一 高壹石壹合九勺 | 小兵衛 | 一 高拾四石八斗七升五合六勺 | 長兵衛 [㊦] |

廣瀨郡笠村

庄屋 清 藏[㊦]
年寄 與三郎[㊦]
同斷 幸四郎[㊦]

五二八

| | | | |
|-----------------|-------------------|---------------|-------------------|
| 一 高四石七斗五升五合六勺 | 善兵衛 [㊦] | 一 高四斗五合六勺 | 惣兵衛 [㊦] |
| 一 高四石貳斗九合四勺 | 伊助 [㊦] | 一 無高 | 元吉 [㊦] |
| 一 高壹石壹升六勺 | 留藏 [㊦] | 一 高拾五石七斗三合八勺 | 彌兵衛 [㊦] |
| 一 無高 | 惣治郎 [㊦] | 一 高九石壹斗六升壹合九勺 | 佐右衛門 [㊦] |
| 一 高拾七石四斗三合三勺 | 與兵衛 [㊦] | 一 高六石貳斗貳升九合四勺 | 庄兵衛 [㊦] |
| 一 高拾貳石三斗九升五合九勺 | 彌三兵衛 [㊦] | 一 高八石四斗五升八合壹勺 | 庄五郎 [㊦] |
| 一 高九石八斗八升八合壹勺 | 喜兵衛 | 一 高貳石壹斗七升七合五勺 | 佐七 [㊦] |
| 一 高拾四石三升九合四勺 | 喜八郎 [㊦] | 一 高三石六斗六升壹合九勺 | 勇藏 [㊦] |
| 一 高壹石貳升九合壹勺 | 幸助 | 一 高拾四石壹斗貳升四合 | 忠八 [㊦] |
| 一 高九斗九升貳合九勺 | 岩藏 [㊦] | 一 高六石七斗貳升九合 | 清兵衛 [㊦] |
| 一 無高 | 彌十郎 [㊦] | 一 高貳石六斗貳升 | 彌三郎 [㊦] |
| 一 高拾五石五斗三升七合四勺 | 藤吉 [㊦] | 一 高六石六斗九升八合 | 庄助 [㊦] |
| 一 高拾石四斗九升八合九勺 | 平兵衛 [㊦] | 一 無五斗八升壹合三勺 | 新治郎 [㊦] |
| 一 高貳拾壹石壹斗壹升壹合六勺 | 甚四郎 [㊦] | 一 無高 | 榮治郎 [㊦] |
| 一 高四石三斗五升八合四勺 | 彦太郎 [㊦] | 一 無高 | 甚兵衛 [㊦] |
| 一 高壹石三斗貳升八合壹勺 | 嘉四郎 [㊦] | 一 高拾石四斗壹升九合八勺 | 半治郎 [㊦] |

五人組帳資料

五二九

五人組帳の研究

一他所より來り候者并ニ出生之者宗門相改、則且那寺之判形取之差上申候、勿論切支丹宗門ニ而轉候もの并ニ類族ニ而も無御座候、

右之通少茂相違無御座候、若御法度之宗門之者御座候ハ、庄屋・年寄・五人組は如何様之曲夏ニも可被仰付候、依之連判手形差上申候、仍而如件、

廣瀬郡笠村

庄屋

清

元治貳
乙丑年三月

年寄

與

幸

幸

幸

幸

幸

幸

幸

幸

庄五郎 伊助 彌三郎 丈助 庄助 喜兵衛

幸四郎 安兵衛 重治郎 寸助 兵助 市兵衛

彌十郎 惣助 利右衛門 新治郎 千治郎 庄兵衛

庄九郎 岩藏 新藏 佐右衛門 重助 嘉四郎

同善太 同與平 同與治 同與兵 同久兵 同藤兵

同忠八 同善八 同與八 同與八 同與八 同與八

清九郎 喜助 藤助 平兵衛 清兵衛 小兵衛 忠兵衛 善兵衛 與三兵衛 彌助

清九郎 喜助 藤助 平兵衛 清兵衛 小兵衛 忠兵衛 善兵衛 與三兵衛 彌助

五三二

彦太郎 佐七 喜八郎 善五郎 宗八

甚四郎 清五郎 惣治郎 宗兵衛 甚兵衛

元吉 吉兵衛 榮治郎 勇藏 長四郎

與次兵衛 留藏 甚治郎

附箋
文久三亥四月
家出仕候ニ付
上落印御斷奉申
以上

附箋
文久二戌十一月
家出仕候ニ付
上落印御斷奉申
以上

差上申宗門手形之事

一代と淨土宗廣瀬郡願乘寺旦那 是ハ去子五月ニ出生仕候

一代と淨土宗廣瀬郡願乘寺旦那 是ハ去子五月ニ出生仕候

一代と淨土宗廣瀬郡願乘寺旦那 是ハ去子八月ニ出生仕候

一代と淨土宗廣瀬郡願乘寺旦那 是ハ當正月葛下郡田井村與十郎方々縁ニ而戻り申候

一代と淨土宗廣瀬郡願乘寺旦那 是ハ當二月同郡疋相村甚兵衛方々縁付ニ來り申候

一代と淨土宗廣瀬郡願乘寺旦那 是ハ去子九月ニ出生仕候

六人 内男三人 女三人 淨土宗願乘寺旦那

五三三

善太郎子 音次

當丑貳才

彌兵衛弟長三郎娘

同貳才

與兵衛娘

同貳才

與兵衛子

當丑貳拾才

與吉妻

同拾七才

庄助子

同貳才

伊

*半紙長帳二十五枚。控であるためか、石高を記載してゐない。

一〇二 慶應四年下總國猿島郡百戸村石高人別五人組御改帳*

一高 五人組頭 右衛門 年六十四才

由 藤 母 年八十二才

倅 藤 藏 年四十二才

倅 藤 年四十二才

倅 藤 年三十五才

孫男 藤 年十三才

同女 や の 年十才

同男 松 郎 年三才

一高 人数合七人内男四人 女三人

源 右衛門 年四十八才

妻 年四十四才

一高 人数合七人内男五人 女二人

倅 治 年十九才

倅 良 年十三才

倅 角 年十才

倅 末 年六才

同男 末 郎 年三才

一高 人数男壹人

丈右衛門 年三十五才

嘉 市 年三十五才

一高 人数合七人内男四人 女三人

忠 左衛門 年四十一才

妻 年四十四才

一高 人数合五人内男三人 女二人

倅 娘 母 年六十六才

忠 娘 年二十三才

年廿一才

佐五右衛門 年四十六才

倅 年二十才

倅 年十三才

一高 人数合三人内男一人 女二人

倅 娘 森 右衛門 年四十才

妻 年四十才

倅 年二十一才

倅 年十四才

倅 年八才

倅 年六才

五人組帳資料

倅 娘 森 右衛門 年四十才

妻 年四十才

倅 年二十一才

倅 年十四才

倅 年八才

倅 年六才

倅 織 年五才 藏

人数合七人内男四人 女三人

六人組人数合三拾人 内男拾七人 女拾三人 (以下略)

惣人数合三百五拾三人 男百九拾二人 女百六拾壹人

内 醫師 壹人 出家 貳人

家數合六拾貳軒 貳軒八名主 貳軒八組頭 五十六軒高持百姓 寺五ヶ寺 宮拾壹社

五三七

五人組帳の研究
堂 貳 字
竈數六拾七竈

慶應四年辰三月

五三八

七人組 貳組
六人組 四組
五人組 四組
右之通り當辰年人別并石高五人組相改メ差上申候、
以上、

名主 永野 數馬
名主 倉持五郎右衛門
組頭 七郎兵衛
" 常右衛門
" 百姓代定右衛門
" 利右衛門

1031 明治二・三・四年上總國市原郡不入斗村五人組書上帳*

* 半紙八枚(明治二年)、七枚(三年)、五枚(四年)、二年の分は下書、全部印形なし。
** 頭の印形を捺す。以下同じ。

| | | | | | |
|-------|-------|---------|------|------|--------|
| 明治二年 | 同三年 | 同四年 | 明治二年 | 同三年 | 同四年 |
| 太郎右衛門 | 太郎右衛門 | 鈴木太郎右衛門 | 與七 | 與七 | 時谷與七 |
| 四郎兵衛 | 四郎兵衛 | 安田四郎兵衛 | 文内 | 文内 | 時谷文内 |
| 五兵衛 | 五兵衛 | 安田五兵衛 | 安治郎 | 安次郎 | 安田安次郎 |
| 源兵衛 | 源兵衛 | 片岡源兵衛 | 善左衛門 | 善右衛門 | 時谷善左衛門 |
| 五郎七 | 五郎七 | 片岡五郎七 | 傳右衛門 | 傳右衛門 | 鈴木傳右衛門 |
| 彌左衛門 | 彌左衛門 | 彌左衛門後家 | 吉藏 | 吉藏 | 鈴木吉藏 |
| 頭 六人 | 頭 六人 | 頭 六人 | 德藏 | 德藏 | 柳德藏 |
| 太右衛門 | 太右衛門 | 安田太右衛門 | 助右衛門 | 助右衛門 | 飯澤助右衛門 |
| 傳左衛門 | 傳左衛門 | 泉水傳左衛門 | 善右衛門 | 善右衛門 | 頭 五人 |
| 五郎左衛門 | 彦五郎 | 安田彦五郎 | 長兵衛 | 長兵衛 | 泉水善右衛門 |
| 市太 | 市太 | 西作市太 | 源助 | 源助 | 露崎長兵衛 |
| 七太 | 七太 | 西作七太 | 喜左衛門 | 喜左衛門 | 露崎源助 |
| 頭 五人 | 頭 五人 | 頭 五人 | 久右衛門 | 久右衛門 | 齋藤喜左衛門 |
| 鐵之助 | 鐵之助 | 鐵之助後家 | 作太郎 | 作太郎 | 泉水久右衛門 |
| 甚助 | 甚助 | 甚助 | | | 松山作太郎 |
| 半兵衛 | 半兵衛 | 泉水半兵衛 | | | |

| | | | | | |
|-------|-------|---------|------|------|--------|
| 明治二年 | 同三年 | 同四年 | 明治二年 | 同三年 | 同四年 |
| 太郎右衛門 | 太郎右衛門 | 鈴木太郎右衛門 | 與七 | 與七 | 時谷與七 |
| 四郎兵衛 | 四郎兵衛 | 安田四郎兵衛 | 文内 | 文内 | 時谷文内 |
| 五兵衛 | 五兵衛 | 安田五兵衛 | 安治郎 | 安次郎 | 安田安次郎 |
| 源兵衛 | 源兵衛 | 片岡源兵衛 | 善左衛門 | 善右衛門 | 時谷善左衛門 |
| 五郎七 | 五郎七 | 片岡五郎七 | 傳右衛門 | 傳右衛門 | 鈴木傳右衛門 |
| 彌左衛門 | 彌左衛門 | 彌左衛門後家 | 吉藏 | 吉藏 | 鈴木吉藏 |
| 頭 六人 | 頭 六人 | 頭 六人 | 德藏 | 德藏 | 柳德藏 |
| 太右衛門 | 太右衛門 | 安田太右衛門 | 助右衛門 | 助右衛門 | 飯澤助右衛門 |
| 傳左衛門 | 傳左衛門 | 泉水傳左衛門 | 善右衛門 | 善右衛門 | 頭 五人 |
| 五郎左衛門 | 彦五郎 | 安田彦五郎 | 長兵衛 | 長兵衛 | 泉水善右衛門 |
| 市太 | 市太 | 西作市太 | 源助 | 源助 | 露崎長兵衛 |
| 七太 | 七太 | 西作七太 | 喜左衛門 | 喜左衛門 | 露崎源助 |
| 頭 五人 | 頭 五人 | 頭 五人 | 久右衛門 | 久右衛門 | 齋藤喜左衛門 |
| 鐵之助 | 鐵之助 | 鐵之助後家 | 作太郎 | 作太郎 | 泉水久右衛門 |
| 甚助 | 甚助 | 甚助 | | | 松山作太郎 |
| 半兵衛 | 半兵衛 | 泉水半兵衛 | | | |

五人組帳資料

五三九

| | | | | |
|------------|------------|--------|--------------|------------------|
| 三郎左衛門 ① | 三郎左衛門 ① | 頭 ① | 三郎左衛門 ① | 右村之内深城 頭 ① |
| 茂右衛門 | 茂右衛門 ① | ① | 進藤茂右衛門 ① | 三郎兵衛 |
| 長右衛門 | 長右衛門 ① | ① | 松本長右衛門 ① | 茂左衛門 |
| 七郎右衛門 | 七郎右衛門 ① | ① | 安田七郎右衛門 ① | 吉藏 |
| 重内 | 重内 ① | ① | 佐久間重内 ① | 吉重 字兵衛後家 |
| 三右衛門 | 喜太郎 ① | ① | 地引三右衛門 ① | 吉重 字兵衛後家 |
| 頭 ① | 頭 ① | ① | 伊藤要次 ① | 辯治 ① |
| 善三 | 善三 ① | ① | 安田善三 ① | 太郎左衛門 |
| 新右衛門 | 新右衛門 ① | ① | 時谷新右衛門 ① | 貞順 |
| 佐吉 | 佐吉 ① | ① | 安田佐吉 ① | 新治郎 |
| 三四郎 | 甚藏 ① | ① | 安田甚藏 ① | 嘉左衛門 |
| 文左衛門 | 文左衛門 ① | ① | 山田文左衛門 ① | 源七郎 ① |
| 七右衛門 | 七右衛門 ① | ① | 進藤七右衛門 ① | 忠右衛門 |

* 原本には次ぎの迎田の後にあり。

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|-------|--------|------|------|------|-------|---------------------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 治郎右衛門 | 清吉 | 益太郎 | 頭 ① | 五兵衛 | 彌右衛門 | 喜惣治 | 市五郎 | 藤吉 | 七左衛門 | 頭 ① | 七郎兵衛 | 彦五郎 | 萬治郎 | 新右衛門 | 七郎右衛門 |
| 善左衛門 | 文右衛門 | 四郎左衛門 | 頭 ① | 新左衛門 | 半兵衛 | 藤右衛門 | 四郎右衛門 | 右村之内永藤 頭 ① | 又兵衛 | 與七 | 又左衛門 | 清松 | 勝之助 | 勝之助 | 源七郎 |
| 善左衛門 | 文右衛門 | 四郎左衛門 | 頭 ① | 新左衛門 | 半兵衛 | 藤右衛門 | 四郎右衛門 | 當郡永藤* 頭 ① | 又兵衛 | 與七 | 又左衛門 | 清松 | 勝之助 | 勝之助 | 源七郎 |
| 善左衛門 | 文右衛門 | 四郎左衛門 | 頭 ① | 新左衛門 | 半兵衛 | 藤右衛門 | 四郎右衛門 | 當郡不入斗村内永藤 頭 ① | 今井又兵衛 | 古山與七 | 今井又左衛門 | 矢田部清松 | 小野勝之助 | 小野勝之助 | 源七郎 |

| | | | | |
|-----------------|-----------------|----------------------|-----------------|-------------------|
| 頭 直右衛門 常吉 | 頭 直右衛門 常吉 | 頭 矢田部直右衛門 時田常吉 | 頭 磯五郎 磯五郎 | 頭 磯五郎 今井磯五郎 |
| 熊治郎 | 熊治郎 | 小林熊次郎 | 右村之内迎田 右治 | 當郡迎田 右治 |
| 彌八 | 彌八 | 入嶋與八 | 辯藏 | 重三 |
| 萬之助 | 萬之助 | 矢田部彌八 | 重三 | 辯藏 |
| 郡治 | 郡次 | 古山万之助 | 喜平治 | 七郎次 |
| 伊兵衛 | 伊兵衛 | 古山郡次 | 留助 | 留助 |
| 勘右衛門 | 勘右衛門 | 今井伊兵衛 | 七郎治 | 喜平治 |
| 權七 | 權七 | 今井權七 | 新右衛門 六兵衛 | 新左衛門 孫兵衛 |
| 頭 泰助 | 頭 善左衛門 | 頭 小野泰助 | 五平治 | 吉藏 |
| 久藏 | 泰助 | 渡邊吉左衛門 | 市助 | 嘉平 |
| 三吉 | 三吉 | 渡邊三吉 | 源次郎 | 源次郎 |
| 久三郎 | 久三郎 | 小出久三郎 | 源次郎 | 源四郎 |

(明治四年の分終り)

*半紙二十七枚。表紙には「人別帳并五人組帳形」とあり、日光縣石橋役所からこの地方一體に布達されたものやうである。實際に五人組帳の前書として使用したかどうか不明であるが、この寫本の所屬する三拜河岸村の分として五人組帳の分のみを掲げることにした。この布達の廻された村には次ぎの如くである。都賀郡喜澤村、三拜河岸村、半田村、黒本村、大内河村、小薬村、片柳村、園部村、川連村、沼和田村、卒島村、松沼村、荒川村、島田村、立木村、今里村、上國府家村、大行寺村、下石家村、石ノ下國府家村、石ノ

| | | | |
|-----------------|------------------|-----------------|-----------------|
| 頭 新左衛門 五八 | 頭 新右衛門 六兵衛 | 頭 所左衛門 五助 | 頭 所左衛門 五助 |
| 孫兵衛 | 六兵衛 | 德右衛門 | 德右衛門 |
| 吉藏 | 市助 | 七三 | 七三 |
| 嘉平 | 五平次 | 金七 | 金七 |
| 源四郎 | 源次郎 | 平右衛門 | 平右衛門 |
| 頭 勝治 | 頭 勝次 | 源六 | 源六 |
| 久左衛門 | 久左衛門 | 三右衛門 | 三右衛門 |
| 平吉 | 平吉 | 源六 | 源六 |

一〇四 明治二年下野國都賀郡三拜河岸村五人組帳

言ニ云、民ハ惟邦ノ本固邦寧スシ、今其本を固ふせんと欲す、故ニ先令を設け、民をして孝愛親睦、力を農事に盡シ、以て長久安寧ならしめんとす、夫民安寧にして、而後縣官の責始て盡しと謂へし、是縣官の

上村、鹽澤村、粟田新田、東黒田新田、二十四ヶ村。

五人組帳の研究

職掌にして、上

朝恩に酬ひ奉り、下庶民を撫するの本意なり、豈勉勵せざるへけんや、

明治二年己春三月

一 王政御一新之

御趣意奉體認、人民を撫育し、生産を富殖し、教化を教くし、賞罰を明にするの御趣意貫徹致し候様、精々盡力之心得候得は、萬一知縣事始、其外役人ニ至迄、不可然取斗も聴およひ候ハ、早々可申出候、若斷然と難申立儀も候ハ、名前實印を以、封書致し、當縣目安箱江入候とも、又は知縣事手本江差出候而も、其趣意ニ寄、褒美をもとらせ候、抑萬民御愛憐の

御叡慮深くあらせられ、一視同仁、御仁恤の行届せられ、厚

思食を奉戴して、支配中の人民の皆我か子を愛するに均しく、善を勧め、惡を懲らし、良民と成さんと勸るや、

御聖代難有を下とは能と辨へ、其身を謹み、一家を齊へ、村役人共村之内治りを常々心掛、上を敬ひ、下を憐み、相互に實意を盡し、睦ましく可致候、

一村役人之儀は御政體を受繼、小前江達シ候事故、少も私なく、正路潔白ニ可取斗は勿論、聊之事々出入訴訟ニおよひ候義甚々、不宜弊風ニ候間、自今以後名主・役人共厚心掛、混雜等出來候ハ、精々申論、尙

不得止事候ハ、隣村并大惣代共迄も立合、出訴不相成候様可致候、聊之事より爭論起し、出訴ニも及候得は、入費ハ勿論、職業を廢し、事濟候而も、終には仇敵の如く成行、打解候期ハなく、瑣細之事を混雜を生し、果は其所之衰微に及候は眼前之儀ニ候間、名主・役人始重立候百姓能々心を用ひ、村中兄弟之如く心得、睦敷家業精出し、厚

御趣意ニ協ひ候者は、急度御褒美可有之候事、

一名主・組頭之義は、村中大小之百姓一同銘々名前印を居、貞實ニ用辨宜敷者を撰、入札之上立會、圖村多數之者を相定、右入札を相添可願出候、百姓代之儀は惣百姓ニ而取極、其段役所江可届事、

一郡中大惣代は別而身持治メ方宜敷者、よく筆算も出來、淳樸にて仁愛深き物を、組合役人共々申立、尙探索之上申付候事、

一被 仰出候御高札之趣堅相守、村中大小之百姓、地水呑迄、五人組相定、万端貞實ニ申合、妻子召仕等に至迄、惡事無之様吟味可致候、萬一惡事有之者を其儘差置候ハ、可爲越度、各申合、若惡敷者有之候ハ、早々可訴出候事、

一親(ニ)孝を盡し、主人ニ仕てよろしく、其内勝れ(て)行狀よろしき(は)可申出候、御褒美可被下事、

一組合之内平日身持不宣、農事家業不勤、懶惰なる者有之、親類・五人組より篤と異見差加、行跡相直し候様教導いたすべく候、其上ニ而不採用、尙不埒之族有之ハ、村役人江申出、於役人共篤と教諭いたし、

惣而親子兄弟は不及申、諸親類・百姓仲間組合一統睦敷相互ニ申合、相親ミ、(不)束之義無之様可仕候、別而五人組之義は親敷、互ニ患難救合可申、五軒之内一人ニ而もふ埒之義於有之ハ、五人組とも可爲同罪^{〔七〕}、
一 毎年宗門人別帳三月迄之内可差出、若御法度邪宗門族有之は、早ニ可訴出候事、
一 印形之義ハ宗門帳ニ押置候而相用可申候、子細有之、印形(替)候ハ、名主・組頭役所江相届、判鑑可差出、平百姓ハ名主江可相断事、^{〔九〕}

一 田畑永代賣買不相成候事ニ而、若賣物ニ入候ハ、拾ヶ年ニ限り、質手形名主・五人組可仕候、田畑を質ニ取候者江小作候而、年貢諸役地主ニ而勤候は勿論、一筆限り畝歩御法度之事、^{〔一〇〕}
一 衣類・金物、其外出所不知賣物買取之義不(及)申、質ニ取、又は預り候義致間敷、假令出所儲成ものニて(も)、受人無之賣物堅く取申間敷候事、^{〔一一〕}

一 百姓町人衣類成丈綿服用、家作ニ至迄、質素ニ守リ、奢ヶ間敷義仕間敷候之夏、^{〔一二〕}
一 常々喧嘩口論を好、夜行等致間敷、名主・五人組之異見を不用、放埒之者有之ハ、早ニ可申出、若隠置、外より於露顯は、村役人・五人組迄可爲越度事、^{〔一三〕}

一 諸願筋之義ニ付、大勢集リ致訴訟候義ハ、甚以不宜、徒黨ニ間敷有之候ハ、吟味之上可被所重科事、^{〔一四〕}
一 博突諸勝負は不及申、商賣ニ寄り博突ニにたる義(一)切いたす間敷候、相背においては、當人并役人吃度可被所嚴科候事、^{〔一五〕}

一 奉公人之義ハ儲成者を抱可申、受人狠ニいたす間敷候、乍去親類或ハ出所能存、儲成者ニ候ハ、名主

五人組江相断、受人ニ可相立夏、^{〔一六〕}

一 火之用心專一、盜賊見廻リ等村内申合、嚴重取締方可仕候、番非人ニ夜廻リ申付、強盜・押込等有之節ハ、手當向兼而村中申合置、召捕可訴出、若手あまり候節は打殺し候而も不苦候事、^{〔一七〕}

一 他所江罷出、二夜三夜も泊り候ハ、名主へ断リ可罷出候、若他國江奉公出候敷、又は用事有之、他國江罷出候ハ、其旨子細名主へ相届可申夏、^{〔一八〕}

一 他所之者儲ケ成送狀無之分、村内差置間敷事、^{〔一九〕}

一 脱藩并出所不正之者・出家・社人・山伏、其外非人體之者迄常々致吟味、胡亂成者暫時も差置間敷事、^{〔二〇〕}

一 往來之者村内ニ而病氣差起候ハ、醫師を掛ケ、療養差加へ、其者之住所承り、其所ニ送り届ケ可申事、^{〔二一〕}

一 歌舞伎・相撲之外、見せ物之類、願無之、興行致間敷候、若村内境、又紛敷地所ニ而先方より興行いたし候ハ、其段可致注進事、^{〔二二〕}

一 捨子堅不可致、若捨子有之ハ、村中ニ而養育いたし置、可致注進候、平日實體成者ニ而、災難等重リ、生れ子有之候而も養育致兼候ハ、村役人共取調早ニ可訴出事、^{〔二三〕}

一 他所々放牛馬來、持主相知候ハ、早ニ返シ、名主持主より證文取置、何もの之牛馬とも不相知候ハ、村方ニ而圍置、其段可訴出候、若隠置、後日及露顯候ハ、隠置候者は勿論、村役(人)迄可爲越度候、牛馬賣買之義等間届、儲成受人相立、可致賣買候、^{〔二四〕}

一 新地之社寺建置は堅停止候、神事祭禮等輕々いたし執行、新規之神事等不可致、假令舊例有之義ニ而も、

品を替候敷、致中絶候を取立候事、堅くいたす間敷候、若無據子細有之候ハ、相伺、可受差圖夏、社人等相替候ハ、早速可届出候事、

一 神佛開帳いたし候ハ、願出、可受差圖事、

一 武器并鉄炮之義は私ニ所持不相成事、

一 御林之竹木并往還之並木、風折・立枯等有之節ハ、木數・寸間・木品相改、書付を以可致注進候、且又御林之荒間有之敷、又爲御用伐出し候跡は、不申付候共、名主・山守心掛、苗木植立、其段可相届夏、

一 農業之儀別而致出精、種物相撰、植蒔付時節後ニ不相成様心掛候義は勿論候、名主・組頭・百姓代折、村中相廻リ、百姓耕作懈怠無之様可申付候、萬一無精之者有之ハ、急度可遂詮義、若病氣其外訳有之、耕作兼候者有之ハ、親類・五人組々助合、田畑作り荒等ニ不相成可致事、

但諸品種撰方爲心得別紙相渡申候、(不明)木雌雄種撰圖は開板之上御(不明)

一 田畑返場所切添新開等有之ハ、早速可申出候、隠置、後日相知候ハ、村役人可爲越度候事、

一 川筋村々大水之節、村役惣百姓不殘罷出、堤・川除不切様相防可申候、道橋損候ハ、往來之差支、田畑作物等之障リニ不相成様、小破之時分早速可致修覆、村普請難義之場所ハ可訴出候、遠吟味可申付夏、

一 御傳馬宿之義ハ追、改正、驛遞司觸之通相守、村々難澁不成様、宿村相互深切之採斗可有之事、

一年中之村入用并御用ニ付、出府又は他所江罷越候雜用等付置候入用之義ニ册仕立、前書ニ惣百姓致連印、白紙帳正月中役所へ差出、押切を請置、割合入用帳ニ册同様ニ附立、多分成人用有之節は村役人之外、高

持之者共江も相談之上可致割賦、年中入用割賦之節も高持百姓立會、廉々相改、惣百姓得心之上、致高割、翌春二册ツ、役所へ差出し、改を請、押切之上相下置候、村割入用帳貳册共役所へ差出、改ヲ請、押切印

形居、一册は村方へ相下候、一册ハ役所へ留置可申候、右帳面之外、別帳を拵へ、小入用割賦等堅仕間敷事、

一 檢見并目分、諸出役之節ハ不及申、平日は當縣役人并妻子・召仕・足輕・小者ニ至迄、金銀其外輕品たり共、若心得違を以、音物いたし候者有之候ハ、送り候者茂、請候者も可爲同罪候、萬一心得違之者心なく申懸ケ、非分之有之は早速知縣事手元江封書を以可申出候、隠置、後日及露顯候ハ、村役人共可爲越度事、

附 支配所之者共諸人宅江一切立入申間敷候、

一 知縣事并諸役人御用ニ付廻村出役等之節、人馬御定賃錢并沐浴相當之旅籠相拂候間、可受取候、若心得違ニ而酒肴差出候もの可爲越度事、

一 御年貢假免狀相渡候、惣百姓小作之者ニ至迄爲致披見可申候、御年貢并小物成、臨時納物等割付相濟候ハ、惣百姓壹人別ニ寫取、心得違上、銘・印形取置可申候、惣而納物庭帳入念、納相濟、名主方々諸取

小手形相渡、後日出入等無之様可致候、御年貢・村入用一所ニ割合申間敷候、若名主・組頭割賦致し方等不直之義も有之ハ、可訴出候、御年貢米金納ニ而致出精相納、極月限り急度可致皆濟、万一不納欠落いたし候百姓有之ハ親類・五人組并名主・組頭可致辨納候、勿論皆濟以前ニ穀物一切他所へ不可出事、

五人組帳資料

五四九

一 御年貢之義は荒碎・糶青米分、米性相撰ひ、升目欠減等無之様、入念^(一)重立、中札ニ國郡・村名前、名主・升取名前内印致し、外札は何年御年貢米、何國何郡何村米主誰と相認可申候、廻米納名主井上乘之者吟味いたし、於船中ふ埒等無之様、急度相守、川船之義ハ數艘有之候共、一艘毎ニ上乘可致事^(三七)、右之条ニ少も違犯致間敷旨、村中大小之百姓・水吞・店借ニ至迄請書印形可差出もの也、

一〇五 明治三年下野國河内郡大曾筋下田原村上組五人組御改帳。

五人組御定書之支

一年ニ相改候五人組御定書之通、百姓相互ニ申合、田畑一畝一步之所も荒し不申候様、精出し仕付可仕候、組合之内ニ御年貢御納付成兼申者及見候ハ、庄屋・組頭共相談之上御注進申上之、稻其者ニ爲刃不申、組合之内刈取上納可仕候、若油斷仕、未進御座候ハ、不納之分辨納皆濟可仕候、勿論致欠落仕候者、彼者尋出し、右之者ニ限り不申候、御百姓代立可申候事、耕作賣買不仕、惣而身持不審成もの有之候ハ、不隠置、御役人中迄可申上候、公事之取持仕間敷候事、
一 御年貢上納糶米之儀は御役人中迄御吟味之上、庄屋・組頭立會、中札・上札銘ニ入納可申候、糶米納候節、面ニ通帳ニ庄屋・組頭判形取置可申候、其内御所替又は如何様之儀ニ而糶米御用御座候而、川岸出し

* 半紙長帳十六枚。舊宇都宮領であり、なほ未だ宇都宮藩支配となつてゐた。本村の五人組帳はこの外に天保三年、嘉永五年、同六年、萬延二年の四冊あるが、何れも前書なく、その體裁は同國同郡臺新田と同様であるから、これを省略した。

等被 仰付候節、舊例之通御差圖次第、御算用相定可申候事^(三)、

一 諸事御用ニ而村繼被遺候御觸狀、不限晝夜、少茂遲滯なく差越所々請取手形取置可申候事^(三)、

一 火之用心大切ニ可仕候、村中ニ火事出来候ハ、不殘罷出、郷御藏近所ニ無御座候ハ、人足引分、御藏前江殘置、其外之もの共ハ火元江欠付、防可申候、若御藏近所火事有之候ハ、面ニ家財構不申、御藏大切ニ糶米少茂燒失無御座候様可仕事、

附 前ニ被 仰付候通面ニ居宅之灰取候節、其^(不明)主灰を取可申旨奉畏候事^(四)、

一 御百姓不如意ニ付、田畑質入候者、其様子詳ニ相組之者江及相談、其上ニ而庄屋・組頭・五人組之者共江連判之證文取替可申候、文言之儀者所通法之通り可仕候、質地取方^(五)證文好候儀有之、所通法之文言ニ而無之、替たる文言好候ハ、支配之御代官迄相達、可差圖を請事、

附 所持之田畑^(六)ニ被、質入仕候者、其跡地主之困窮可申候、此所庄屋・組頭共可然様相談可相究事^(五)、
一 所ニ小百姓之印形組頭ニ預置、諸用達申事有之候様相聞江、此段末ニ之災出来申趣ニ付向後印形庄屋・組頭江堅預申間敷候^(六)、

一 所柄風俗ニ而男女若^(七)内西國順禮、諸山之參詣仕候事は相聞江候、毎年之作も世中之仕合ニより、今年之參詣來年江相延候了簡可有之事ニ候、庄屋・組頭ニ及相談ニ、可請差圖事^(七)、

一 村除之社領前ニより村支配ニ而持來候所有之由、年々之作徳庄屋・組頭立會、致吟味、帳面ニ相記之、當社支配之社人等於有之、年々之作徳社人も相知、殘置、修補・祭禮等之入用ニ差加江候ハ、是亦入念

帳面ニ相記之、庄屋・組頭・支配人印形仕置、何年過候而も出入來可申候様可仕候事、
 一 御山・御林之儀は勿論、屋敷之地付林等ニ至迄、竹木猥ニ伐取申間敷候、竹木入用之節ハ御支配御代官迄以願書申達候、御山方御差圖次第ニ、庄屋・組頭立會相改爲伐可申候、藪之笹賣買仕間敷候事、
 一 村境之場・山林藪堺之義年々無油斷相守可申候、歳久敷以前之儀、所々境取紛、疑敷候、申合も無之、理不盡新堺立標木、塚を築可申様之仕方有之間敷候、彌堺粉敷存候所有之候ハ、願立、差圖ヲ請可申候事、

一 銘々居屋敷之四壁・地付林年々精出し、植木・さし木等可仕候、藪林共荒し不申候様心懸專一之事、
 一 新田・新畑切添等有之候ハ、年々御役所迄申出、改請可申候事、
 一 無田前地之輕もの願たりとゆふとも、庄屋・組頭鹿略ニ仕間鋪候、其願之品ニより御支配之御代官迄相達可申候事、

一 御用ニ付、出郷之御役人御法式之御賄相勤候ハ、入用帳面ニ記之、其御役人中之印形請置、村中之割合江差加へ可申候、年々小割帳面村々ニ而龜末ニ取斗候様相聞江候、何年過、御百姓仲間出入申分出來候共、古帳ヲ出し申分ケ相立候様、庄屋・組頭入念、置割合、相濟候ハ、村中大小百姓江急度爲見届可申事、

右之條々年々五人組御改堅相守可申候、若違背候者有之段、被及聞召候ハ、御詮儀之上何様之曲事ニも可被仰付候、爲後日連判證文帳依而如件、

*續いて各戸について持高・人別・所有地等を記してゐるが、同郡臺新田の場合と同様故、これを省略する。

惣高合六百五拾五石九斗五升九合

五人組

藤 平

内 田方三百九拾三石壹斗三升九合

内 畑方貳百六拾貳石八斗貳升

新田高合拾七石五斗五升七合五勺

内 田方七石七斗七升七合五勺

五人組

九 平

惣人數貳百六人 男百拾人 女九拾六人

馬數貳拾六疋

五人組

勘 治

家數三拾軒

五人組

久 太

竈數三拾軒

五人組

孫 吉

寺貳ヶ寺

五人組

五 郎

宮貳拾壹社

五人組

長 三

堂三字

五人組

善 四

地付林六拾七ヶ所

五人組

彌 五

刈敷山五拾五ヶ所

五人組

源 五

御年貢林貳拾五ヶ所

五人組

梅 吉

屋敷五拾七ヶ所

五人組

勇 吉

五人組帳資料

五五三

五人組帳の研究

| | | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 五人組 | 源 | 彌 | 喜 | 伊 | 長 | 源 | 常 | 安 | 吉 | 萬 | 藤 |
| | 十 | 七 | 一 | 四 | 七 | 七 | 三 | 三 | 五 | 二 | 二 |
| | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 |

門前組
五人組
源 太 平
秀 吉

五五四

右者當年五人組御改帳面奉差上候處、少茂相違無御座候、以上、

明治三年三月

大會筋下田原村上組

| | | |
|-------|---|-----|
| 惣代 | 藤 | 平 |
| 組頭 | 源 | 十 郎 |
| 庄屋 | 彌 | 五 郎 |
| 民政局長* | 善 | 四 郎 |
| 御役所様 | 平 | 平 |

*「御郡方」とあるのを塗抹して民政局と記してある。中判二十八枚。表紙には「宗旨御改帳」とあり、後半宗門改を記載してあるが、前半は明かに五人組帳であるから、これを収録することにした。

一〇六 明治三年下野國都賀郡出流村御寺領五人組帳*

一 毎年被 仰付候五人組宗旨之事、

村中大小之百姓者不及申ニ、借家之面ニ・抱之者・小供・下人等迄、壹人茂不殘、帳面ニ書記し、差上申候、此帳面ニ洩候もの村中ニ壹人も無御座候、但五人組宗門御改之節は大小之百姓不殘、借家之面ニ・抱之者・下人等迄、名主方江寄合、御法度之趣奉拜見、銘ニ致印形、帳面差上申候、此内壹人も後判無御座候、若組ニ不入者御座候ハ、後日悪事出来候共、如何様之曲事ニも可被 仰付候事、

一 従前ニ被 仰付候切支丹邪蘇宗門類之族ハ、村中壹人も無御座候、下人等迄寺請狀取置申候、若し御法度之宗門と申者訴人罷出候ハ、御穿鑿之上、當人は不及申、其五人組・名主共、如何様之御法度ニも可被 仰付候事、

- 一 人賣買之儀は前ニ御法度之趣相守可申候、但年季之儀ハ何ヶ年なり共勝手次第可仕候、
- 一 不依何事ニ、百姓神水を吞、一烈徒黨連判仕間敷候事、
- 一 耕作精出し、念入仕附、御年貢御割付之通り急度皆済可仕候、御納所被 仰付候日限ニ、壹錢も無未進、御取切被成候由、慥ニ承届申候、
- 一 田畑賣買之儀者永代は前ニ御法度之趣承り届申候、若し質地ニ差置候ハ、五人組・名主・組頭相談之上相究可申候、自然相對ニ取引仕、以來六ヶ鋪儀出来候ハ、曲事ニ可被 仰付候事、
- 一 御年貢御割付被下候節も、大小之百姓不殘、名主所江寄合、御割付末江繼紙仕、大小之百姓不殘、御年貢無高下割付仕候間、書記、銘ニ名前之處江致印形置可申候、御年貢割付之時分も惣百姓不殘出會、御引方御帳面へ引合、御年貢無高下相究、其上帳面致印形置、以來名主・百姓仲間申分無御座候様可仕候、縦

五人組帳資料

五五五

令御年貢割極候以後、帳面見申度そんじ百姓ハ、名主方江參リ、其斷申、致披見、勿論名主も無相違爲見可申候事、

一 御年貢皆濟も相不極、欠落仕候歟、右躰之百姓御座候ハ、妻子共捕置、早々御注進可申上候、若シ致油斷欠落仕候ハ、其五人組ともニ急度御辨納可仕候事、

一 御年貢之節、銘々納帳員數之所江、百姓致印形置、名主手形取置可申候、名主も手形相渡し可申候、若無合點、手形取引不仕、後日に名主百姓仲間出入罷成候ハ、双方之越度ニ可被 仰付候事、

一 埋堀落堀道を廻リ、田畑仕出し耕作仕附申間敷候、尤田畑壹歩之處も荒し申間鋪候、若シ耕作仕附不仕申處御座候ハ、御穿鑿之上、曲事ニ可被 仰付候事、

一 奴又谷地、其外永荒之場發返し、御年貢所ニ見立候ハ、御披露之上、得御下知開發可仕候、我儘ニ發返し申間鋪候事、

一 堤・井堀・道・橋惡鋪、御普請之節、出兼候百姓御座候ハ、御披露可申上候、村中道橋惡敷所は、御觸無御座候共、常々無油斷造リ可申候、若シ惡鋪所御座候ハ、越度可被 仰付候事、

一 役錢入用之儀は其村百姓寄合、致相談、割付極メ仕、其上割帳江名主・組頭・惣百姓致印形置、重而申分無御座候様可仕候事、

一 新開發隱田御座候ハ、逐一吟味御注進可申上候、若隱置、脇訴人罷出候ハ、當人ハ不及申ニ、名主・組頭・五人組共曲事ニ可被 仰付候事、

一 博突賭之諸勝負仕候歟、或ハ宿致候者御座候ハ、穿鑿致可申上候、若隱置、脇訴顯候歟、六ヶ敷儀出來候ハ、曲事ニ可被 仰付候事、

一 御公儀様御用何方より申來候共、少茂遲滯仕間鋪候、村繼之配符等先々江送り、日附時附延引申候ハ、曲事ニ可被 仰付候事、

一 御林之儀は不及申ニ、百姓持山・居屋鋪之竹木たり共、猥ニ伐リ申間鋪候、若相背申者御座候ハ、如何様之御法度ニも可被 仰付候事、

一 作茂不仕、友達附會斗致、好喧嘩、好公事、出入或ハ村之もの相談ニも不出合、我儘者御座候ハ、早々御注進可申上候事、

一 當村有來リ候浪人并出家・山伏・執行者・□□・乞食等ハ格別、新規ニ他所より之もの、行衛不知者、村中ニ差置申間鋪候事、

一 村中盜人其外徒者御座候ハ、無油斷、百姓仲間ニ而捕置、早々御注進可申上候、致油斷、取逃申候ハ、名主・組頭・五人組曲事ニ可被 仰付候事、

一 獨身之百姓無據相煩候歟、耕作なり兼申候ハ、其五人組ハ不及申、村中ニ而助合、田畑仕附致、取納候様可仕候事、

一 死失申百姓跡之儀は、田畑名主・百姓持添ニ仕間鋪候、壹人跡は壹人ニ仕付可申候、村中才覺ニなり兼候ハ、死失候百姓之田畑・屋敷書上、御披露可申上候、不得御下知、無斷家破リ、竹木伐取、田畑持添

- ニ致し、百姓跡潰申候ハ、其五人組・名主・組頭曲事ニ可被 仰付候事、^{〔三二〕}
- 一前々鉄炮御赦免之處ハ格別、其村ニ而茂打申間敷候、尤貸借仕間敷候事、^{〔三三〕}
- 一鶴・白鳥、惣而御法度之諸鳥取申間敷候、尤鶴・白鳥居、何方江も立不申、不思儀なる事御座候ハ、様子見届、御注進可申上候事、^{〔三四〕}
- 一他所より用事ニ参り候哉、亦諸商ニ罷出候ハ、其子細名主・五人組江斷可参、無斷罷出申候ハ、越度可被 仰付候事、^{〔三五〕}
- 一盗人用心之ため、村境能き處江番屋造り、夜番可仕候、若盗人出来候ハ、村境より鳴を立、出會、搦取、御注進可申上候事、^{〔三六〕}
- 一他領他村と出入不及申ニ、縦令村ニ而も百姓仲間申分御座候ハ、名主・組頭・年寄・百姓立會、致詮儀、理非之次第埒明可申候、尤申分仕百姓之内、親子・兄弟・縁者、其外中能きもの御座候ハ、依怙尊辰之取扱仕間敷、少茂かさつ成儀仕間鋪候事、^{〔三七〕}
- 一遊女・賣女之類一切差置申間敷候事、^{〔三八〕}
- 一御國廻リ之衆 御上使様御通り之節ハ、名主・組頭・惣百姓罷出、道橋惡敷處者無御座候様ニ成丈念入可申候、若人馬御用ニ候ハ、無滯差出し可申候事、^{〔三九〕}
- 一他所より村内江引越申者御座候ハ、其子細五人組・名主方江被申聞、相談之上、其者出所様子相尋、慥成ものニ御座候ハ、請人立、一札取置可申候、縦令親子・兄弟たり共、欠落者其外怪敷者ニ晝夜之宿

も貸申間敷候事、^{〔四〇〕}

- 一其村出所之者たり共、他國江罷出、久く經年月、村罷歸り申候ハ、五人組・名主斷、其上御支配方江御披露申上、差置可申候、無斷差置、重而六ヶ鋪儀出来申候ハ、越度ニ可被 仰付候事、^{〔四一〕}
- 一其村ニ而通之衆、喧嘩仕出し、人殺申候ハ、早々出會、當人を止置、様子相尋、御注進可申上候、若打殺逃候ハ、何方迄も跡をしたへ参り候而、落著所江斷、相渡し可申候、理不盡に打殺申間敷候事、^{〔四二〕}
- 一御公儀様御法度相背、惡事仕候もの御座候ハ、五人組儀は勿論、縦令他組成共、詮儀致可申候、見逃聞逃、脇方申出候ハ、曲事ニ可被 仰付候事、^{〔四三〕}
- 一百姓衣類之義ハ絹布・木綿、百姓ハ木綿斗り著可申候、木綿之外ゑりなり共、御觸通り急度相守、著申間敷候、

附 紅梅染著申間敷候事、^{〔四四〕}

- 一 女房縁切、親之方江返し申候ハ、夫之方々返狀取持可申候、若ふ埒之義有之、出入ニ罷なり候ハ、越度可被 仰付候事、^{〔四五〕}
- 一 何ニ不依、質物、無請人、取置申間鋪候事、^{〔四六〕}
- 一 五人組連判帳面仕、差上申候印形、後日落し候敷、又ハ取替申候ハ、替リ之印形御手代衆ニ懸御目ニ置可申候、百姓ハ名主江爲見置可申候事、^{〔四七〕}
- 右之條、急度相守可申候、若相違候者御座候ハ、當人ハ不及申ニ、其五人組・名主・組頭如何様之御法度

ニも可被 仰付候、村中五人組連判帳面差上申處如件、

明治三年三月

休役 新右衛門
 同 政右衛門
 同 平右衛門
 同 郡 八
 同 次郎右衛門
 組頭 房次郎
 年寄 忠藏
 名主 勇司

出流山 御役所

○勇 作 治*
 ○忠 藏
 ○郡 八*
 △政右衛門
 ○作兵衛 治*
 ○三右衛門
 ○多 七
 △吉右衛門
 △嘉兵衛
 ○次郎右衛門
 ○彌左衛門
 ×友 八
 岩 藏
 喜右衛門
 △重 藏

* 人別帳にも印形なし。
 ** 名主勇司と印形同一なるも、司を治と記してゐる。

* 以下宗門人別改めを記載するも、これを略す。然るに人別帳の方と、この五人組別の人名が一致しない。○印は人別帳にある分、×印は養子が相續してゐるが、人名のなはるもの、△印は當時漬と記してあるもの、人別帳の方は二十軒で、それは二軒を加へると、下記の家數より一軒多い。何故にかく區區たる記載をしたのか、理由は明かでない。一度作つた五人組を何時までもそのまま記載するのが常であつたのであらう。
 * 半紙十八枚。

○房 治 郎
 文 吉
 利 助
 △善 八
 △新 助
 △文右衛門
 ○平右衛門
 善 藏
 ○惣 七
 △彌 藏
 △小 八
 △安次郎
 ×新右衛門
 武右衛門
 與 八
 △忠 助
 △熊 八
 △仁右衛門*

一〇七 明治三年下總國葛飾郡大畔新田五人組御仕置帳*

(本帳の前書五十五條は前掲五〇同新田文政十年の分と全然同一であるから、これを省略する。しかも表紙にも文政十年亥三月と記す。ただ最後の連名の部分に他の新田をも包含し、明治三年と記してあること次ぎの如し。)

下總國葛飾郡大畔新田

明治三年三月
五人組帳資料

水吞 茂 助
 百姓 淺 五 郎
 五六一

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 同 | 彌 | 新 | 源 | 喜 | 善 | 茂 | 重 | 万 | 政 | 梅 | 仁 | 久 | 七 | 幸 | 藤 | 多 |
| 市 | 右 | 新 | 源 | 喜 | 善 | 茂 | 重 | 万 | 政 | 梅 | 仁 | 久 | 七 | 幸 | 藤 | 多 |
| 門 | 衛 | 右 | 源 | 喜 | 善 | 茂 | 重 | 万 | 政 | 梅 | 仁 | 久 | 七 | 幸 | 藤 | 多 |
| 門 | 門 | 衛 | 七 | 兵 | 平 | 五 | 五 | 太 | 五 | 次 | 左 | 次 | 右 | 吉 | 右 | |
| ① | ① | 門 | ① | 衛 | ① | ① | ① | ① | ① | ① | 門 | 門 | 門 | ① | 衛 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |

右初石新田兼帶
 十太夫新田
 組頭 佐五郎
 名主 八右衛門
 水吞 竹次郎
 " 佐七郎
 " 武兵衛

*半紙長帳二枚、
前書なし。

一〇八 明治三年武藏國足立郡染谷村五人組書上*

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|-----|-----|------|-------|-----|-----|------|-------|-----|-----|------|-------|-----|-----|------|-------|
| 武州足立郡染谷村 | 五人組 | 伊三郎 | 市郎兵衛 | 八十右衛門 | 五人組 | 伊三郎 | 市郎兵衛 | 八十右衛門 | 五人組 | 伊三郎 | 市郎兵衛 | 八十右衛門 | 五人組 | 伊三郎 | 市郎兵衛 | 八十右衛門 |
| 龜 | 平 | 海 | 作 | 清 | 忠 | 平 | 海 | 作 | 清 | 忠 | 平 | 海 | 作 | 清 | 忠 | 平 |
| 松 | 藏 | 藏 | 藏 | 藏 | 藏 | 松 | 藏 | 藏 | 藏 | 藏 | 松 | 藏 | 藏 | 藏 | 藏 | 松 |
| 勘 | 助 | 惣 | 傳 | 仙 | 勘 | 助 | 惣 | 傳 | 仙 | 勘 | 助 | 惣 | 傳 | 仙 | 勘 | 助 |
| 六 | 郎 | 門 | 郎 | 郎 | 門 | 郎 | 門 | 郎 | 郎 | 門 | 郎 | 門 | 郎 | 郎 | 門 | 郎 |
| 榮 | 平 | 甚 | 喜 | 九 | 利 | 平 | 甚 | 喜 | 九 | 利 | 平 | 甚 | 喜 | 九 | 利 | 平 |
| 吉 | 右 | 左 | 三 | 之 | 左 | 右 | 左 | 三 | 之 | 左 | 右 | 左 | 三 | 之 | 左 | 右 |
| 門 | 衛 | 衛 | 郎 | 助 | 衛 | 衛 | 郎 | 助 | 助 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |

五人組帳資料

五六三

高拾九石五斗七升 小野孫四郎 ㊦
 高七石六斗八升四合 同吉三郎 ㊦
 高八石六斗五升 同 八五郎 ㊦
 高八石五斗 恩田宗三郎 ㊦
 高貳石七斗九合 荒井森吉 ㊦
 高拾壹石貳斗三升 鳥羽郷藏 ㊦
 高壹石六斗三升 小野源藏 ㊦
 高九石五斗六升 同 源次郎 ㊦
 高拾四石九斗七升七合 同 利七郎 ㊦
 高八石五斗 須永治郎藏 ㊦
 高八石五斗八升四合 荒井清吉 ㊦
 高三石五斗 鳥羽八太郎 ㊦
 高五斗七升 渡邊榮藏 ㊦
 高貳石九斗貳升 同 勝五郎 ㊦

高五斗貳升 川嶋辨次郎 ㊦
 高三斗 荒井定吉 ㊦
 高九石壹斗貳升 須永與惣次 ㊦
 高拾石九斗壹升五合 龜田伊三郎 ㊦
 高壹石五斗 大塚新藏 ㊦
 高拾貳石五斗九升 同 勘太郎 ㊦
 高拾五石三斗貳升 大塚磯治郎 ㊦
 高拾四石貳斗五升 鳥羽庄次郎 ㊦
 高六石貳斗 同 八十八 ㊦
 高九石壹斗貳升 同 福太郎 ㊦
 高拾石九斗九升 同 勘藏 ㊦
 高八石貳斗 大關甚五郎 ㊦
 高拾六石壹斗 同 由三郎 ㊦

高壹石四斗九升 代田初太郎 ㊦
 高七石四斗四升 稻葉鳥藏 ㊦
 高壹石九斗一升 同 岩吉 ㊦
 高五石七斗 岩上周吉 ㊦
 高三石九斗四升 荒井庄三郎 ㊦
 高八石五斗五升 杉上清十郎 ㊦
 高四石九斗一升 吉住彌平 ㊦
 高拾壹石三升 柿沼善吉 ㊦
 高拾四石四斗一升 松嶋林藏 ㊦
 高五石七斗一升 同 多市 ㊦
 高拾三石貳斗一升 太田重次郎 ㊦
 高拾貳石壹斗五升 柿沼嘉十郎 ㊦
 高五石七斗一升 同 熊藏 ㊦

高四石九斗一升 太田留五郎 ㊦
 高拾七石貳斗六合 秋山甚藏 ㊦
 高拾四石三斗三升 田村八郎次 ㊦
 高貳石壹斗五合 堀口直藏 ㊦
 高六石六斗貳升 久保田善平 ㊦
 高貳石五斗一升 吉住龜次郎 ㊦
 高六石四斗一升 木村元吉 ㊦
 高壹石八斗壹升五合 堀口藤藏 ㊦
 高四石壹斗八升 吉住倉吉 ㊦
 高貳石七斗五升五合 笠原友藏 ㊦
 高拾五石五斗貳升 稻葉金八郎 ㊦
 高拾五石三斗五升五合 諏訪新五郎 ㊦
 高四石壹斗八升 渡邊峯吉 ㊦
 高九石壹斗 久保田市郎平 ㊦

高八斗 菊地重吉

* 原本にはヨリ
キの分の前に觀音
の部がある。

高七石七斗三升 寶田與吉

高拾三石六斗貳升 小山六三郎

高貳拾石五斗三升 小山三郎次

高拾貳石三斗 青木忠吉

高貳拾五石 青木勘五郎

壹斗六升

高八石壹斗五升八合 大月利吉

高拾貳石三升 大月源次郎

高拾石五斗 大月三郎次

高五石四斗貳升 金子平次郎

高貳石四斗 廣瀬三郎平

高七石八升 長谷川銀藏

高四石八斗三合 櫻井五郎平

高七石七斗貳升 中嶋勘太郎

同拾貳石六升 金子字十郎

同四斗三升 大出半五郎

三合三勺

同壹石壹斗 大出八太郎

八升六合 大出房吉

同三石八斗 大出龜三郎

六升五合 同 龜三郎

同六斗八升四合 田沼文吉

同貳石壹斗 田沼文吉

同拾九石七斗五升 相川庄平

同七石三斗九升 清水與七

同四石壹斗三升 金子伊吉

同四石壹斗六合 田沼さと

同六石壹斗八升 同 長三郎

同七石八斗四升 清水岩藏

中嶋勘太郎

金子治平

伍長大出半五郎

大澤八太郎

大出房吉

大出龜三郎

田沼文吉

伍長相川庄平

清水與七

金子伊吉

田沼精明

田沼長三郎

清水岩藏

伍長田沼勘三郎

同九斗壹升八升 大出常吉

同拾貳石六升七合 野村治郎平

同五石四斗貳升 廣瀬安五郎

同拾三石三斗貳升 木村長吉

同拾五石四斗貳升 森田孝作

同拾石八斗四升 同利七

同貳石七斗八升 嶋田こふ

高貳拾五石貳斗貳升 笠原淺吉

同貳拾石五斗八升 山本新藏

同拾石九斗五升 鹽野又市

同五斗四升 同安平

同拾五石貳斗貳升 小山雄吉

同拾八石五斗八升 同宗九郎

同七石五斗 同茂平次

大出常藏

伍長野村治郎平

廣瀬文益

木村長吉

組頭森田孝作

森田利七

笠原梅吉

伍長山本新藏

鹽野又市

鹽野安平

島田こふ

荒井よつ

小山雄吉

同拾五石貳斗貳升 笠原きの

同壹石壹斗 小山龜吉

同壹石壹斗 同 定次郎

同壹石九斗九升四合 森田與平

同壹石壹斗三升 濱野佐平

同七石壹斗三升五合 大出源平

同貳石五斗三升 飯島小平

同五石八斗貳升 大澤幸七

同三拾石餘 峯木宗八

同廿三石三斗 小倉七郎平

同八拾貳合五勺 見村佐吉

同十三石貳斗四升 小倉奎平

同貳石壹斗五升 六右衛門後家 小倉奎平

同七石九升八合 金子つや

同宗九郎

同茂平次

笠原きの

小山龜吉

伍長小山定治郎

濱野佐平

大出源平

小野寺茂吉

飯島和吉

大澤幸七

名主小倉七良平

百姓代伍長兼 峯木宗八

見村佐吉

小倉奎平

同拾貳石壹斗三升 濱野清治郎 ㊟
 同三拾壹石貳斗 濱野伊平 ㊟
 同拾八石四升九合 金子吉五郎 ㊟
 同拾六石四斗六合 小倉佐五平 ㊟
 同壹石四斗三升五合 同 茂八 ㊟
 同十三石八斗六升 堀越米吉 ㊟
 同五斗五升 堀越利吉 ㊟
 同拾石餘 木村文治郎 ㊟
 同壹石五斗六升貳合 鹽野長吉 ㊟
 同七斗八升四合 森田松太郎 ㊟
 同七石貳斗 森田林藏 ㊟
 同六石八斗五升 笠堀吉平 ㊟
 同七石五升八合 久保田倉次郎 ㊟
 同八石壹斗六升 竹澤清吉 ㊟

金子つや
 組頭濱野伊平
 濱野清治郎
 佐長小倉佐五平
 小倉茂八
 金子權平
 堀越米吉
 堀越利吉
 佐長木村文治郎
 鹽野六平
 森田松太郎
 木村七五郎
 同貳石壹斗四升四合 富永乙吉 ㊟
 同七斗六升八合 嶋田新藏 ㊟
 同八石壹斗七升 安西宇之吉 ㊟
 同拾八石五斗八升 同 萬藏 ㊟
 同壹斗五升 同 なか ㊟
 同四石四斗五升 恩田團藏 ㊟
 同拾六石三斗四升 渡邊直次郎 ㊟
 同三斗七升六合 嶋田長八 ㊟
 同六斗四升 松本くま ㊟
 同拾壹石四斗三升 吉田甚五郎 ㊟
 同貳拾石余 小山定治郎 ㊟
 同五石四斗貳升 高山多吉 ㊟
 同貳十石四斗 同 吉太郎 ㊟

森田林藏
 佐長笠堀吉平
 久保田倉次郎
 竹澤清吉
 富永音吉
 正木光三郎
 右之通奉書上候
 處相違無御座候、
 以上、
 右村
 名主
 小倉七良平
 (明治五年の分終り)

*「是ハヨリイ記
 入」と記してあり、
 前の寄居のところ
 に名前だけ挙げて
 ある。

同拾七石三斗 同 喜平 ㊟
 同拾五石五斗七升 磯 吉藏 ㊟
 同四斗五升 松本かね ㊟
 同貳拾壹石貳斗七升 磯藤治郎 ㊟
 同拾石七斗貳升 森田關藏 ㊟
 同拾八石貳斗 荒川字十郎 ㊟
 同拾三石貳斗三升 同 源治郎 ㊟
 同拾貳石三斗 日下部平治郎 ㊟
 同壹石九斗壹合 日下部平三郎 ㊟
 同貳石壹斗六升 磯 勇八 ㊟
 同壹石壹斗三合 大田喜八 ㊟
 同貳斗三升八合 中嶋源六 ㊟
 同五石貳斗三升 磯 政治郎 ㊟

同五石壹斗七升 太田善太郎 ㊟
 同貳石五斗貳升 同 七郎平 ㊟
 同七斗五升四合 安西勇吉 ㊟
 同貳石貳斗 山崎長五郎 ㊟
 同壹斗六升 安西つや ㊟
 同拾五石余 岩澤六郎平 ㊟
 同拾七石五升 山本豊七 ㊟
 同拾壹石六升五合 同 榮吉 ㊟
 同九石三斗三升 同 茂三郎 ㊟
 同拾貳石七斗 同 政次 ㊟
 同五石壹斗 橋本清三郎 ㊟
 同七斗貳升 同 久七 ㊟
 同九石貳斗八升 田沼與平 ㊟
 同拾五石 同 定藏 ㊟

同三拾石余 同 清十郎 ㊦
 同壹石壹斗 田沼都吉 ㊦
 同壹石壹斗 山田幸藏 ㊦
 同五斗三升 加藤勇吉 ㊦
 同五斗貳升 田沼力藏 ㊦
 同七斗五升 加藤菊藏 ㊦
 同三十五石八斗八升 須永義平 ㊦
 同拾貳石貳斗五升 關塚熊藏 ㊦
 同三石貳斗五升 落合八十吉 ㊦
 同貳拾貳石 七斗壹升 神村金三郎 ㊦
 同貳拾四石壹斗 同 善八 ㊦
 同貳拾壹石 五斗四升 須藤利平 ㊦
 同貳拾壹石 七斗五升 青木金次郎 ㊦

同四石八斗七升 加藤和吉 ㊦
 同八石七斗五升 關塚庄平 ㊦
 同四石八斗三升 家富清七 ㊦
 同貳拾四石貳斗 神村長藏 ㊦
 同拾六石四斗四合 落合丈七 ㊦
 同壹石五斗 田沼文五郎 ㊦
 同八石貳斗七升 松嶋□次 ㊦
 同三石五斗 安留幸藏 ㊦
 同九石八斗貳升 家富利八 ㊦
 同貳石壹斗三升 神村彦平 ㊦
 同貳石八斗五升 同 彦八 ㊦
 同四石五斗貳升 須藤清八 ㊦
 同五石五斗 恩田宗重 ㊦

同拾壹石三斗九升 高嶋嘉七 ㊦
 同貳拾貳石五斗八升 松嶋久平 ㊦
 同九石七斗九合 森吉次郎 ㊦
 同七石壹斗壹升 相田重藏 ㊦
 同五斗六升六合 笹嶋福治郎 ㊦
 同拾八石七斗九升 松嶋利平 ㊦
 同貳十六石 五斗五升 高嶋清治郎 ㊦
 同拾貳石四斗八升 本郷清吉 ㊦
 同貳石四斗貳升 同 豊吉 ㊦
 同拾八石壹斗貳升 須永彌重郎 ㊦
 同貳拾壹石三斗貳升 丸本清平 ㊦
 同拾壹石壹斗五升 加藤茂七 ㊦
 同九石八斗五升 川嶋喜三郎 ㊦
 同八石九斗六升 松嶋吉重郎 ㊦

同拾七石九斗壹升 中村源平 ㊦
 高拾九石三斗 山本代三郎 ㊦
 高三石壹斗 關塚宗平 ㊦
 高八石三斗 同 熊藏 ㊦
 高拾八石壹斗 山本松藏 ㊦
 高六石四斗 同 長吉 ㊦
 高拾五石貳斗 倉持淺治郎 ㊦
 高九石四斗五升 青木廣三郎 ㊦
 高四石六斗七升 山本和吉 ㊦
 高五斗貳升 濟藤與四郎 ㊦
 高拾五石壹斗 同 龜榮 ㊦
 高三拾七石七斗七升 飯塚喜平 ㊦
 同貳拾五石壹斗 倉持甚平 ㊦

| | |
|---------|-------|
| 同拾壹石 | 日下部平吉 |
| 同拾貳石貳斗 | 江田辰治郎 |
| 同五石 | 倉持常吉 |
| 高五石八斗 | 櫻井忠壽 |
| 同六石八斗九升 | 大塚定治郎 |
| 同六石四斗五升 | 同 榮治郎 |
| 同壹石七斗七升 | 同 初太郎 |
| 同六石九斗六升 | 嶋田龜六 |
| 同拾五石五斗 | 同 幸七 |
| 同貳石七斗七升 | 大塚久藏 |
| 同三石五斗 | 山本熊吉 |
| 同拾石貳斗 | 櫻井啓治郎 |
| 同三石六斗一升 | 同 三五郎 |

| | |
|----------|-------|
| 同拾六石四斗九升 | 同 又四郎 |
| 同九石八斗貳升 | 千金良重平 |
| 同貳拾四石四斗 | 飯塚半平 |
| 同壹石六斗九升 | 同 代吉 |
| 同壹石八斗 | 同 字重郎 |
| 同八石三斗 | 倉持幸四郎 |
| 同三石貳斗 | 荒川九平 |
| 同八石壹斗貳升 | 青木寅松 |
| 同拾石貳斗 | 荒川庄九郎 |
| 同拾五石五斗三升 | 飯塚龜次 |
| 同拾八石壹斗 | 横山又平 |
| 同拾貳石五斗 | 同 義平 |
| 同四石貳斗 | 飯塚傳次 |
| 同拾石四斗八升 | 小林庄三郎 |

| | |
|----------|-------|
| 同六石貳斗四升 | 同 民吉 |
| 同拾四石五斗八升 | 半田幸藏 |
| 同廿石貳斗 | 小林清太郎 |
| 同四石三斗四升 | 菅沼寅吉 |
| 同貳石五斗 | 櫻井庄吉 |
| 同七石貳斗 | 佐山彦七 |
| 高拾五石五斗七升 | 關澤松平 |
| 同拾石貳斗四升 | 同 常吉 |
| 同拾石貳斗八升 | 同 祐吉 |
| 同貳石壹斗 | 佐山彌重 |
| 同廿貳石八斗 | 小山又六 |
| 同拾六石六斗 | 小林長治郎 |
| 同拾三石壹斗 | 飯塚彌吉 |

| | |
|----------|-------|
| 同拾石四斗 | 佐山文榮 |
| 同五石壹斗 | 同 小吉 |
| 同五石 | 倉持濟八 |
| 同拾五石壹斗貳升 | 半田平八 |
| 同五石貳斗貳升 | 嶋田嘉重郎 |
| 同六石壹升 | 大塚吉五郎 |
| 同五石八斗九升 | 金子喜八 |
| 同貳石貳升 | 同 忠七 |
| 同廿貳石壹斗 | 半田勇次郎 |
| 高五石五斗七升 | 同 庄松 |
| 惣組持厄介 | 大塚いよ |
| 高三石五斗 | 同 |
| 高三石壹升 | 關澤政吉 |
| 同高六石壹升 | 金子源次郎 |
| 他所稼出二付 | |
| 當分村厄介 | |

高六石貳斗三升 同 金次郎[㊦]
惣組持厄介
病婦孤獨ニ付 文七郎後家
孝八郎厄介 せい事
組合 社守飯塚安衛
右之通小前持高取調、奉書上候處、
相違無御座候、以上、

右村
百姓代
山本榮吉[㊦]
明治三庚午年
十二月
組頭田沼清十郎[㊦]
名主磯 治斗流[㊦]
岩鼻縣
御役所

* 何れも半紙四枚。前書なし。

110 明治三・四年下野國都賀郡三拜川岸村五人組書上帳。

明治三年の分

乍恐以書附御届奉申上候
一 當御支配所都賀郡三拜川岸村名主田波重左衛門、百姓代田波久兵衛兩人奉申上候、五人組之儀左ニ取究仕候、

五十畑磯吉
田波庄助

明治四年の分

野州都賀郡三拜川岸村
伍長 田波重左衛門[㊦]

五十畑卯吉[㊦]
小谷野龜吉[㊦]
五十畑新兵衛[㊦]
小谷野平次郎[㊦]
小谷野寅松[㊦]
壹番

* 前者の日附が明治三年十二月で、後者が翌四年正月である點からみて、あるひは三年の分は實際には提出しなかつたのかも知れない。

右之通組合取究仕候處相違無御座候間、此段御開濟被成下置度奉願上候、以上、

右村
百姓代
田波久兵衛
名主 田波重左衛門
日光縣出廳
御役所

五人組帳資料

〆七人

小谷野金左衛門[㊦]
伍長 田波久兵衛[㊦]
小谷野平藏[㊦]
篠原喜左衛門[㊦]
篠原八右衛門[㊦]
田波庄助[㊦]
五十畑磯吉[㊦]
貳番

〆六人

右之通五人組奉書上候、以上、
當御支配所
下野國都賀郡三拜川岸
百姓代田波久兵衛[㊦]
名主 田波重左衛門[㊦]
明治四年
辛未正月

日光縣御出役
林修平様*

一一一 明治四年武藏國埼玉郡麥倉村五人組帳

御法度可相守五人組前書之事

一 前記

朝廷被 仰出候御條目并御高札之趣ハ勿論、自今已後被 仰出候御法度之趣屹度相守可申候、就而ハ邪宗門、其類族之者、於當區内壹人も無御座候、且那寺宗門宗旨御役所へ是迄差出候通相違無御座候、若此上御法度宗旨之者承り出候ハ、可申上候、萬一隠置被成御聞候ハ、邪宗門五人組之者同罪可被御申付候事、

一人賣買堅仕間敷候、并年季男女奉公人拾ヶ年季外、長年季仕間敷候事、

附 縁組養子之義一切村役人ヲ以戸長副へ相届、送籍之義ハ御法則之通相背申間敷候、年季奉公人ハ

不及申、壹季并區内たりとも無斷男女登人も□り差出申間敷候、

一 兼而御申渡之通大小之百姓五人組ヲ極置、御法度相背候義ハ不及申上、何事ニ而も徒黨ヲ結族、或ハふ届者、或我儘もの有之候ハ、吟味仕、悪事不仕候様可申置、其上ニ而も右之族有之候ハ、御訴申上、御差圖次第可仕候、若從前人別帳ニ書落申候敷、譯有之候而隠人抔仕候ハ、此度差出可申由、承知奉畏候、此上他村ハ隠人・借人抔仕候ハ、名主・年寄越度可被御申付候、

* 半紙二十六枚。表題は「古河縣管轄第五區之内五人組帳之一」とあり、二部よりなる。最初の分は麥倉村の五人組分けで、後の分は縣より下附された雛形である。今便宜上先に雛形に記載されてゐる前書を最初に掲げる。なほ表紙には麥倉村の外、駒場村、柳生村、本郷村、小野袋村、大倉村、柏戸村、飯積村、望月村、前谷村、合せて拾ヶ村を記してゐるが、恐らく第五區に當るのであらう。

一 牛馬其外何ニ而も、出所儘ニ知不申拂物一切買申間敷候、若拂物買候ハ、慥成請人ヲ立、證文爲取替可申、并數年持來候牛馬賣買候共御届可申上候事、

一 耕作入念、田畑壹歩たり共荒し申間敷候由、被御申渡奉畏候、田畑帳面ニ書落、若切添、新田畑・新屋敷仕候ハ、兼而被御申付候通、受御差圖可申、尤御年貢米入念上納可仕候事、

一 御割付ハ勿論、被御申聞候御法度之義、其村ニ名主・年寄・總百姓立會、披之拜見仕、小百姓ニ至迄委細爲申聞、少も出入無之様可仕候、御勘定仕立、御年貢割付帳、諸色掛り物等ニ至迄、名主・年寄・總百姓帳面ニ判形仕置而、申分無之様仕置、何時成とも、右帳面御用次第差上可申候、尤小百姓當分承届、後日作り言致し公事仕間鋪候事、

一 御年貢米其外諸色上納物引負仕、欠落之百姓御座候ハ、何分吟味可奉受候、尤引負物之義ハ爲村中辨御納所仕、欠落之百姓尋出、御差圖次第可仕候事、

一 盜人參候節、其家之下人ハ不及申、隣家近所之者共ハ勿論、村ニ辻番等見遁仕候ハ、穿鑿之上急度可被御申付候事、

一 他所より胡亂者來り候ハ、村中、尤寺方堂宮ニ而も差置申間敷候、又浪人之儀ハ、不依何人、御役所へ申上、御差圖次第可仕候、御差圖無之者村中ニ置申間敷候、手負其外不審成者參候ハ、村ニ留置、早速御注進可申上候、若怪敷者山林ニ潛居候體、見當り候ハ、早ニ名主へ申出、御注進可申上候、

一 祭禮嫁取其他祝義・佛事等成丈手輕く仕、總而百姓ニ不似合、奢ケ間敷儀一切仕間鋪候、

一 博突ハ不及申、慰之諸勝負事、假初ニも爲仕間敷候事、

一 往還之道橋御觸無御座候とも、惡敷所ハ繕ヒ可申候事、

一 御林ハ不及申、村山四壁たり共一切御願不申上、猥ニ竹木伐取申間敷候、入用之爲ハ御願申上、受御差

圖可申候事、

一 朝廷御觸狀ハ不及申上、諸事御廻狀、不限晝夜、急度相届可申候事、

右之條ニ名主・年寄・五人組總百姓壹人も不殘判形仕、差上申候處、少も相背申間鋪候、若違亂之者御座候

ハ、急度可被御申付候、爲後日連印之一札差上申處、依而如件、

年號千支十月 但此年號千支月初筆之名主頭ニ書入可申事

何國 何郡 何村

第壹組 名主 何之誰 印

年寄 何之誰 印

百姓 何之誰 印

何之誰 印

第貳組 百姓 何之誰 同

何之誰 同

(朱書) 村役人五人組ニ相成居

不申候分は

何國何郡何村

名主 何之誰

年寄 何之誰

第一組 何之誰

百姓 何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

合何百何拾何組

同國同郡同村

第壹組 名主

年寄

百姓

第貳組 百姓

百姓

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

何之誰

合何百何拾何組

總斗何千何百何拾何組

此人員何千何百何拾何

右之通相違無御座候也、

五人組帳資料

干支十月

戸籍
御役所

副長
武藏國埼玉郡本郷村
名主 稻村幸左衛門 印
下總國葛飾郡駒ヶ崎村
名主 小倉佐十郎
同國同郡中田驛
大庄屋 藤田忠藏
戸長
武藏國埼玉郡本郷村
大庄屋 小室六左衛門

其區五人組帳別冊雛形之通急速取調、可差出候、尤來ル十日ヲ過候得者、差支候ニ付、右日限之内、無遷延可取斗もの也、

五人組前書之義ハ區中初筆ニ當リ候村ニ綴込、戸長副差出、調印之義ハ末番ニ當リ候村ニ綴込、冊毎ニいたし候ニハ不及候事、

但本文調都合之義も有之候間、去十月ヲ目當と致し、同月中之現在人員ヲ以取調候事、
正月四日 故古河縣 民政戸籍役所

第五區
戸長 麥倉村
大庄屋

尙、本文別冊雛形表明無之候得共、其區之義ハ武總兩國結居候ニ付、表名不相認、幾冊ニ相成候とも、武ハ武、總是總ト取分取調、其上ニ而表名可伺出候事、

* これより最初の分。初めに「前文別書ニ記ス」と書いてある。前掲のものがそれである。

明治四年辛未十月

| | | | | | | |
|---|--|--|---|---|---|--|
| 第壹組 年寄須 藤 勇 助 印 百姓須 藤倉之助 印 同須 藤三右衛門 印 同須 藤 新藏 印 | 第貳組 百姓岸 平右衛門 印 同岸 伊勢五郎 印 同武 井久兵衛 印 同須 藤三次郎 印 | 第參組 同須 藤吉後家 同 須藤 伊 助 印 同須 藤孫太郎 印 同金子 三藏 印 同金子仙太郎 印 同須 藤吉之丞 印 同須 藤 文藏 印 武井源次郎後家 同 武井 源次郎 印 | 第肆組 同須 藤 彦次郎 印 同須 藤 佐次郎 印 同須 藤 佐次郎 印 同須 藤 佐次郎 印 同須 藤 佐次郎 印 同須 藤 佐次郎 印 同須 藤 佐次郎 印 同須 藤 佐次郎 印 | 第伍組 百姓金子 記代八 印 同須 藤 彦次郎 印 同須 藤 佐次郎 印 同須 藤 佐次郎 印 同須 藤 佐次郎 印 同須 藤 佐次郎 印 同須 藤 佐次郎 印 同須 藤 佐次郎 印 | 第陸組 年寄石 井 榮 藏 印 百姓石 川 長 藏 印 同岸 重五郎 印 同柴 田 國 藏 印 | 第柒組 百姓石井 忠右衛門 印 同岡 田 寅 吉 印 同柴 田 平 藏 印 |
|---|--|--|---|---|---|--|

五人組帳資料

五八三

** 頭に潰と記す。

* 原本半紙十八枚、組頭小林定七の寫しである。

一一一 明治四年武藏國埼玉郡吉羽村五人組帳

五人組心得

- 一 從 御縣廳被 仰渡候御法度御布令筋、違背不仕一同相守可申事、
- 一 五人組之儀一組五人が相定メ、相互ニ和融いたし、萬事深切ニ可仕事、
- 一 五人組之内農業を怠り賭之諸勝負ニ携、不宜風聞有之節は、五人組が意見差加イ、不得止事、右様之所業有之候ハ、村役人江早々可申出、若隱置、脇が相顯候ハ、殘四人可爲越度事、
- 一 五人組之内病人等有之、農事ニ後れ、又は火難等ニ而難儀致候ハ、如何様ニ茂當人行立候様、精ニ可仕候、右様不慮之災難ニ而五人組之力ニ難及儀は村役人江申出、衆議之上村方一同之助合ニ可致事、
- 一 婚葬祭之儀其者之貧富ニ因る事ニ候得共、可成文ヶ節儉ニいたし、五人組限ニ而取斗可申、且當事もの五人組ニ而差支候節は、村役人江申出、萬事可請差圖、自儘之取斗致間敷事、
- 一 御縣廳が御布令嚴禁博突之儀は不及申ニ、野荒し、竊盜之類、都而何事ニよらず犯科之者無之様相互ニ心を附ヶ廉直ニ可仕事、

右之條々急度相心得、御法度御布令筋違背不仕、心得違之者無之様、相互精ニ可仕候、依之五人組一同連印奉差上候處如件、

明治四年辛未年五月 日

久喜町組合吉羽村

名主 並木彌右衛門

百姓 同 榮八

同 茂右衛門

同 田口 榮藏

同 砂川 武七

組頭 小林 定七

百姓 砂川 勘兵衛

同 川瀬 善吉

同 小林 富右衛門

同 濱田 捨之丞

百姓 並木 藤八

同 濱田 織七郎

同 砂川 善右衛門

同 濱田 藤五郎

五人組帳資料

杉原 茂七

組頭 金子角右衛門

百姓 關 要之丞

同 濱田 久五郎

同 佐久間善右衛門

同 濱田 能藏

百姓 佐久間 金次郎

同 町田 芳之助

同 小島 徳右衛門

同 折原 初右衛門

同 金子 庄五郎

百姓代 折原 啓次郎

武井 源兵衛

折原 留五郎

同 柚木 九藏

同 折原 辰之助

百姓 折原 佐太郎

同 寅藏

同 新五郎

同 柚木 甚内

同 高塚 平八

百姓 染谷 吉藏

同 小島 半次郎

同 高塚 關三郎

同 金谷 佐右衛門

同 遠藤 淺次郎

五八七

名主 遠藤文左衛門
 百姓 町田與七
 " 新藤藤太郎
 " 町田幸藏
 " 新藤平藏
 百姓 遠藤孫右衛門
 " 高塚浪五郎
 " 町田磯八
 " 折原平七
 " 町田與惣右衛門
 百姓 遠藤半七
 " 同 慶三郎
 " 高塚茂兵衛
 " 遠藤七藏

" 高塚龜藏
 組頭 並木庄右衛門
 百姓 折原藤右衛門
 " 小林新次郎
 " 高橋定吉
 " 小林次郎左衛門
 百姓 新藤善之助
 " 双木兵七
 " 關熊太郎
 " 折原平右衛門
 " 槍田安藏
 百姓 新藤忠兵衛
 " 高塚金藏

" 武井多之助
 " 町田泰助
 " 田口萬吉
 百姓 町田孝右衛門
 " 槍田市五郎
 " 同 甚三郎
 " 遠藤與吉
 " 折原武右衛門
 組頭 濱田喜惣次
 百姓 町田儀右衛門
 " 小林八太郎
 " 遠藤彦七
 " 淺井榮左衛門

* 折原吉左衛門
 を名主としたの
 は、この村が幕府
 時代に數給に分か
 れてゐて、その他
 給の名主を勤めて
 るたからであら
 う。

百姓 關半右衛門
 " 折原多左衛門
 " 同 喜太右衛門
 " 大塚仁助
 " 新藤京藏
 百姓代 大塚彦右衛門
 百姓 武井多右衛門
 " 町田忠藏
 " 同 市藏
 " 濱田與八
 百姓 關口庄左衛門
 百姓代 吉田彌七
 " 同 茂左衛門
 " 同 久八

" 砂川しも
 名主 折原吉左衛門*
 百姓 高塚庄兵衛
 " 海老屋新七
 " 砂川捨次郎
 " 田中周右衛門
 百姓 田口傳次郎
 " 渡邊利助
 " 須賀多藏
 " 渡邊嘉藏
 " 關口萬吉
 百姓 高塚傳兵衛
 " 町田次右衛門

" 折原惣吉
 " 町田熊吉
 " 町田喜藏
 " 同 万次郎
 百姓 折原和吉
 " 高塚要助
 " 折原佐五右衛門
 " 柚木八重吉
 " 同 森之助
 " 町田吉藏
 與頭 折原佐左衛門
 百姓 長澤角右衛門
 " 折原幸三郎
 " 渡邊佐七

高塚久次郎
折原長五郎

百姓 關 又右衛門
遠藤喜六
染谷金藏
砂川新藏

五九〇
田中八五郎

前書之通り今般改正五人組取極奉書上候處、相違無御座候以上

明治四辛未年五月

右村
百姓代 折原啓次郎
同 大塚彦右衛門
同 吉田彌七
組頭 折原佐左衛門
同 並木庄右衛門
同 小林定七
名主 並木彌右衛門

*小形半紙十一枚。表紙には「五人組」、「判頭内野濱治郎」とあるのみ。傍示堂村名主文書中にもあり、かつ内野傳平は同村の名主故、同村のものとして推定した。

一三三 明治六年武藏國兒玉郡傍示堂村五人組帳*

*原本朱書、以下同じ。

内野傳平組支配*

判頭 茂木文平
齋藤豊次郎
同 半藏
茂木彌十郎
同 吉太郎
内野勝次郎
内野傳平組支配
判頭 田口八郎平
齋藤久次郎
茂木新藏
石原權平
田口八郎治
内野傳平組支配
判頭 内野清吉
同 平松

田端米次郎
齋藤半六
丸橋彌七
渡邊勤藏
關根定齋組支配
判頭 橋本辨次郎
齋藤音七
加藤彦四郎
同 長松
橋本庄藏
渡邊つね
田口庄平組支配
判頭 福島文五郎
石井峯五郎
關根里與
茂木和藏

新井清次郎
同 武七
加藤小平次組支配
判頭 新井伊平
中村音五郎
丸橋彦市
加藤重吉
田端岩次郎
田村常次郎
内野吉次郎組支配
判頭 橋本金三郎
加藤辨藏
中村仙吉
内野峯五郎
齋藤重五郎
同 鎌吉

五人組帳資料

内野吉十郎組支配

判頭 内野庄七

同 彦衛

同 七衛

同 仙藏

橋本辰衛

福島吉平

内野竹次郎組支配

判頭 内野濱次郎

同 平次郎

丸橋國太郎

同 藤太郎

根岸忠吉

橋本甚五郎

芳田万藏

右者今般五人組組替相改候ニ付而者、村内ニ統陸合、

御用村用共無怠慢、出精相勤、都而無益之入費不相掛候様心掛可申、且組合之内自然心得違之もの有之歟、博突或者大酒ヲ好、農業等閑候もの有之候ハ、組合ニ而異見差加、其上ニも不聞徒者は村役人江申出、是亦教諭いたし、猶不取用ものは其段

御縣廳江差出、御請ヲ請可申事、

一 組合之内若年もの、家督いたし、放埒ニ而不身持之もの有之候ハ、厚ク異見差加江、若不取用、博突亦者遊興ヲ好、出歩行候者は、親類・組合・村役人ニ而能、教諭申聞、不得止事もの有之候ハ、其段御縣廳江御届ケ之上、其當人之適宜ニ任セ、其家之家政江不差搦候様いたし、跡相續方之儀者、本家・同苗・同姓、又は縁者之内ニ而實躰成もの見立、家督相續爲致可申事、

一 三季租稅・貢租并村入費割合、都而取立物、御觸日限之通、組合限り、判頭ニ而取立、其組准副戸長江差出、上納可仕、若御觸日限遲納いたし候ものは、一ヶ月後れ候ハ、一ヶ月丈ケ之利足爲差出、其上罰金

可申付、兼而

御布告有之候間、心得違無之様、屹度上納可致事、

一 田方内見毛附等准副并判頭立會入念、無甲乙合附いたし可申、且

御檢見之節春法其外、最寄順合等ニ而罷出候ものは、年々順番ヲ立、無益之入費不相掛様取斗可申事、

一 三季租稅田方割合・皆濟勘定割合之節、役人之外、判頭年番究三人宛立會、諸調方勘定合見届之上、都而割合毎ニ帳面江調印いたし可申事、

一 祝儀不幸之節、都而手輕ニいたし、酒肴等決而不差出、其組合限りニ取仕舞、組役人之外相招申間敷事、前條之通取極候上者、無違失出勤、何事ニ實事ニ世話いたし、村爲肝要之取斗可申、依之一同連印致置候、以上、

明治六癸酉年二月

* 中判八枚。第七大區小一區の野紙に認む。

一一四 明治八年武藏國横見郡江和井村五人組約定*

五人組定約

五人組帳資料

大和谷新田

江川新田
荒井新田

右合邨

改稱 江和井村

鈴木吉五郎

右は今般三ヶ新田熟議之上及合村候ニ付、五人組合左之通改定候處、相違無御座候、依之連印致シ置候也、

明治八年亥二月十四日

江和井村

荒井惣吉

荒井作藏

五人組
荒井長藏

塚田喜三郎

利根川繁藏

五人組

大畑稻吉

横田善吉

横田市五郎

荒井三太郎

横田文吉

加藤由松

茂手木權八

五人組
塚田儀三郎

利根川小平次

五人組

横田彌市

加藤金太郎

小野澤善八

高尾村江 全戸寄留

加藤吉平
野邊長吉

五人組

新井平吉

加藤竹次郎

宮澤藤八

小澤定七

五人組

田邊倉次郎
新井安五郎
森田銀五郎
塚田紋太郎
横田軍次郎

五人組

宮澤伊勢五郎

栗原喜代七

加村榮藏

利根川平八

島野源太郎

五人組

塚田文藏
塚田清藏
塚田宇八
齋藤喜平
野邊豊次郎

五人組

嶋野三藏

嶋野良宅

嶋野源藏

柿沼源次郎

柿沼八藏

五人組帳資料

伊藤熊吉

五九五

五人組帳の研究

金子条吉[㊟]

栗原徳次郎[㊟]

加村勘七[㊟]

五人組

江森龍吉[㊟]

加村勘衛[㊟]

加村多吉[㊟]

桶川宿江全戸寄留

新井忠五郎

小宮仲吉[㊟]

五人組

五九六

江森文次郎[㊟]

伊藤左傳治[㊟]

伊藤鶴藏[㊟]

利根川佐之吉[㊟]

加藤周吉[㊟]

江森増藏[㊟]

伊藤辰松[㊟]

加藤榮吉[㊟]

五人組

一一五 明治十年千葉縣邑里伍組遺法度*

丙第二百二號

第五大區

長

*半紙判十七枚、千葉縣第十一區十七小區の用箋に認めたるもの。

戸長

邑里伍組ノ遺法廢シテヨリ、隣保協和・人生共存スルノ道ヲ失ヒ、互ニ其損害ヲ被ラシムルモ、恬トシテ怪マサルニ至ル、彼ノ葬式又ハ榜著・紐解等ノ祝ニ、近隣縱飲放食シ、莫大ノ浪費ヲ消耗シ、其安寧ヲ傷リ、風儀ヲ亂、遂ニ其身體財産ヲ併セテ亡滅スルニ至ル、然ルニ其近隣ノモノ互ニ相告ケ相誠メテ禍害ヲ履マシメサル様ニ、常々注意協力スルヲ太々勘シ、目前己レニ損失ナケレハ、他日或ハ障害ヲ被ムルアルモ、一切舍テ之ヲ省ミサルナリ、豈人情ニ悖ラスヤ、是教化ノ普及セサルニ職トシテ之由ルモ、彼ノ伍組ノ法廢スルカ爲ニ、邑規ノ檢束スルトコロ無キヲ以テ此ニ至ルナラスヤ、故ニ逐次ニ組合ノ法ヲ施行シテ、管下人民ニ各自其義務ヲ盡シテ、隣保協和・人生共存スルノ道ヲ充ルヲ得セシメントス、因テ嚮キニ先ツ第八・九大區内ニ、差向キ組合規則ヲ施行セシメ、尋テ第七大區・第六大區モ同シク施行セシメタリ、然ルニ其大區ニ於テモ、本年第一回ノ大區會議ニ於テ、此事ヲ審議シ、之ヲ實施センヲ乞フ、依テ其決可スルトコロノ別冊組合假規則ヲ以テ、本年九月一日ヨリ實際ニ施行爲致候条、得其意區内無洩可相示、此段相達候事、但本年九月一日ヨリ實際施行候ニ付テハ、其以前ニ組合方夫ニ著手整頓可致義ト可相心得事、

明治十年七月四日

千葉縣令 柴原和

組合規則并參考

第一章 組合組方及組長・伍長選舉并在役年限之事*

第一条 組合ハ每町村ノ戸數ヲ區分シテ、大率十戸内外ヲ以テ一組トオスモノトス、

五人組帳資料

五九七

*「安房・平・朝夷・長狭四郡町村組合規則」と題する活字本がある。本書と同様であるが、多少の差違がある。以下對比して記して置く。假名・解釋は活字本のものである。

但寄留人ト雖モ一籠ヲ占ムルモノハ、其寄留地ノ組合ニモ組入ルヘシ、
組合戸數増減アルモ、拾五戸以下、五戸以上ナレハ、其組ヲ變更セサルモノトス、
但十六戸以上ニ至ラハ、二組ニ分チ、四戸以下ニ至テハ、他ノ組ニ合スルカ、或ハ他ノ組ヨリ
繰合スヘシ、

第三条 一組ニ組長一名ヲ置キ、其組内五戸毎ニ伍長ヲ置クモノトス、
第四条 組長及ヒ伍長トモ其組内公同ノ撰ヲ以テ之ヲ定ムヘシ、
但伍長ハ其五戸内ノ公選ニテ定ムルモノトス、

* 本條に但書あり。
「但五戸ヲ以テ一組トスルハ、伍長ヲシテ組長ヲ兼シムルヲ得ヘシ、」

第五条 組長及ヒ伍長ハ其組合ノ内、他へ寄留スルモノヲ除クノ外、何人ニ限ラス戸主タルモノハ、其役ヲ帶フヘキモノトス、

但一籠ヲ占ムル寄留人ハ、其本籍子弟タルモ、本文戸主ト同シク、其役ヲ帶フヘシ、

第六条 組長及伍長ハ無給タルヘシ、
第七条 組長及伍長在役年限ハ三ケ年タルヘシ、
尤故無クシテ年限中ハ辭スルヲ得ス、
但組長・伍長共其年限滿ルニ至リ、更ニ撰舉セラレテ、當撰タルトキハ、本文ノ如ク復タ其役ヲ帶フヘキモノトス、

第二章 組長及伍長勤方并心得方ノ事

組長ハ官省及縣廳ノ布達并區戸長ノ告示ヲ組内毎戸へ説示會得セシメ、且法律及諸規則ヲ遵守シテ違反スルヲ無ラシムル様注意スヘシ、
組内ニ死亡・出産・失踪人、又ハ轉籍、或ハ隱居并相續・縁組等アレハ、組長ハ例ノ如ク届或ハ願書ヲ作ラセ、連署シテ、其筋へ差出サシムヘシ、
但育兒規則ニ掲ケタル妊娠届書モ注意シテ本文ノ如ク連署差出サシムヘシ、
組内ニ賊難ニ遭フモノアルトキハ、例ノ如ク速ニ届書ヲ作ラセ、組長連署シテ、其筋へ本人ヲ以テ届出サスヘシ、又鬪争等ニテ被殺人アラハ同斷、其親戚ヲ以テ届出テ、檢使ヲ受ケサスヘシ、
但本人疾病其他止ヲ不得事故アルトキハ、其事實ヲ心得タルモノヲ代人ニ立テ差出サシムヘシ、
組内ニ水火震災等非常ノ變ニ遭ヒタルモノアレハ、組長檢分シテ、其罹災ノ本人ヨリ届、或ハ願書等ヲ例ノ如ク連署、其筋へ差出サシムヘシ、
但重大ノ事ニ係ル分ハ組長別ニ具狀シテ、其筋へ報告スヘシ、
縣廳及裁判所・警察分署其他出張官員、或ハ扱所等ヨリ組内ノモノへ喚狀至レハ、組長速ニ之レヲ本人へ達シテ出頭セシムヘシ、
但本人病氣其他忌引等ニテ止ヲ得ス出頭シカタクモノハ、組長其容體及ヒ事故ヲ其筋へ具狀シテ代人ヲ差出サシムヘシ、又他行不在ナレハ同斷、其次第ヲ其筋へ具申スヘシ、

第十三条 組内ニ寄留人等アレハ、組長ハ其戸主ニ心附ケ、寄留請人ヲ立サセ、速ニ其寄留人ノ本貫・姓名

* 活字本「郡役所」の語入る。

組長ハ官省及縣廳ノ布達并區戸長ノ告示ヲ組内毎戸へ説示會得セシメ、且法律及諸規則ヲ遵守シテ違反スルヲ無ラシムル様注意スヘシ、

組内ニ死亡・出産・失踪人、又ハ轉籍、或ハ隱居并相續・縁組等アレハ、組長ハ例ノ如ク届或ハ願書ヲ作ラセ、連署シテ、其筋へ差出サシムヘシ、

但育兒規則ニ掲ケタル妊娠届書モ注意シテ本文ノ如ク連署差出サシムヘシ、

組内ニ賊難ニ遭フモノアルトキハ、例ノ如ク速ニ届書ヲ作ラセ、組長連署シテ、其筋へ本人ヲ以テ届出サスヘシ、

又鬪争等ニテ被殺人アラハ同斷、其親戚ヲ以テ届出テ、檢使ヲ受ケサスヘシ、

但本人疾病其他止ヲ不得事故アルトキハ、其事實ヲ心得タルモノヲ代人ニ立テ差出サシムヘシ、

組内ニ水火震災等非常ノ變ニ遭ヒタルモノアレハ、組長檢分シテ、其罹災ノ本人ヨリ届、或ハ願書等ヲ例ノ如ク連署、其筋へ差出サシムヘシ、

但重大ノ事ニ係ル分ハ組長別ニ具狀シテ、其筋へ報告スヘシ、

縣廳及裁判所・警察分署其他出張官員、或ハ扱所等ヨリ組内ノモノへ喚狀至レハ、組長速ニ之レヲ本人へ達シテ出頭セシムヘシ、

但本人病氣其他忌引等ニテ止ヲ得ス出頭シカタクモノハ、組長其容體及ヒ事故ヲ其筋へ具狀シテ代人ヲ差出サシムヘシ、

又他行不在ナレハ同斷、其次第ヲ其筋へ具申スヘシ、

第十三条 組内ニ寄留人等アレハ、組長ハ其戸主ニ心附ケ、寄留請人ヲ立サセ、速ニ其寄留人ノ本貫・姓名

第十四条 井用向等ヲ書載シタル届書ヲ作ラシメ、連署シテ其筋ヘ差出サシムヘシ、
 組長ハ組内ヲ取締、旅行人止宿等ハ第二十六条ノ通取扱、怪敷風體ノモノ止宿ヲ乞フ等ノコト組
 内ノ報告アラハ、其旅人ノ居動ヲ探偵シテ、盜賊又ハ悪者ノ見込アレハ、警察分署或ハ扱所等ヘ
 具狀報告スヘシ、

但何モノニ限ラス組内ノ家ニ立入り、私ニ止宿スルモノアラハ、注意シテ兼テ熟知スル其本人
 ノ親戚等ニアラスシテ、其本籍不分明ノモノナレハ、戸主ニ承料シ、怪敷モノト見込トキハ、
 本文ノ如ク具狀報告スヘシ、

* 活字本ニハ第
 十五條本文なく、
 但書が本文になつ
 てゐる。

第十五条* 戸籍調査等アル節ハ、其組内ノ毎戸番號并姓名・年齢等、其家族・傭人・寄留人ニ至ル迄詳記シ
 タル書面ヲ組長ニ於テ、第廿一条ニ載タル簿冊ヲ案シ、之ヲ調整シテ差出スヘシ、
 但組内ニ無籍人等アラハ、速ニ承料シテ、其原籍・姓名・年齢等ヲ書取、其筋ヘ報告スヘシ、
 尤其本人身ヨリノモノヨリ入籍又ハ復籍等ヲ願出ルトキハ、願書ヲ作ラシメ連署シテ、其筋ヘ
 差出サシムヘシ、

第十六条 組内ニ家内不睦、或ハ遊逸放蕩、又ハ貢租區費ヲ納メサル等心得違ノモノアルトキハ、組長ニ於
 テ其本心ニ歸リ、人タル義務ヲ盡ス様、懇々説諭ヲ加フヘシ、
 平常組内ノ安寧及取締ニ關スルコトハ、之ヲ注意シテ、見込アルトキハ、其筋ヘ具申スヘキハ速ニ
 之ヲ具申シ、組合ニテ直ニ施行スヘキコトハ協議シテ之ヲ施行スヘシ、

第十七条 但戸籍人別異動、賊難取締等ノコトハ最モ注意スヘシ、
 但戸籍人別異動、賊難取締等ノコトハ最モ注意スヘシ、

第十八条 伍長ハ其擔當五戸内ヲ取締リ、前条々ノ事務ハ、組長ノ協示ヲ受ケ、取扱フヘキモノトス、
 但伍長前条々ノ事件ニ付心附ク廢アラハ、時々組長ヘ忠告スヘシ、

第十九条 伍長ハ組長不在ノトキハ一切其事務ヲ代理スヘキモノトス、
 第廿条 組長并伍長ハ組内人民ニ差添人タルノ權ヲ有スルモノトス、

但組長ハ同町村内ノ組長タルモノ喚問セラル、等ニ、差添人トナルコトアルヘシ、
 第廿一条 毎組合其組合ヲ立ルキハ連名簿二冊ヲ作り、組合ノモノハ一モ洩ラサス、其家族・雇人・寄留人
 ニ至ルマテ戸籍番號及肩書・姓名并年齢等ヲ詳記シテ、且戸主ハ各名下ニ押印セシメテ、一冊ハ
 組長ノ許ニ留置キ、一冊ハ其村町用掛ノ訂正ヲ經テ、其筋ヘ差出スヘシ、
 但戸籍人別異動ノモノハ、第九条ノ如ク其本人ニ書面ヲ差出サシムルヲ以テ、其時々組長扣ノ
 簿冊ハ加除イタシ置クヘシ、

第三章 組合一同心得方ノ事

第廿二条 組合中ハ一家族ノ如ク惻切ニ親睦スルヲ以テ旨トシ、吉凶相問ヒ、艱難ハ相助クヘシ、
 第廿三条 組合中ハ組長ヨリ以下、同一ニ義務ヲ盡シ、且互ニ忠告シテ遊逸放蕩、又ハ家内不睦、或ハ貢租
 區費ヲ納メサル等、心得違ノモノ、及ヒ無益ノ奢侈ヲ作シ、自然組合中風儀ヲ紊亂スルモノアラ
 ハ、互ニ教誡ヲ加フヘシ、

五人組帳の研究

第廿四条 組合中ハ互ニ節儉スルヲ以テ旨トシ、何品ニヨラス贈遺餽酬、或ハ酒食ヲ侑メテ、其款心ヲ結フ等、無益ノ費用ヲ作スコトヲ固ク禁スヘシ、

但葬式、或ハ祭例、又ハ袴著紐解、其他節物ヲ祝賀スル等ニ托シ、無益ノ飲食ヲ侑ムルコトハ、組合中最モ互ニ之ヲ禦ムヘシ、

第廿五条 組内安寧及取締ノ爲メニナルコトハ、何事ニヨラス互ニ協議シテ、其義務ヲ盡シ、人間共存ノ道ヲ立ルヲ要スヘシ、

第廿六条 旅人宿等之レナキ在村ニテハ、組合中ノ人戸ニ若シ旅人止宿ヲ乞フモノアルハ、事情無餘義分

*活字本この後に「尤モ三日以上逗留スレハ其旨戸長へ届出シムヘシ」とある。

ニ限り、組内協議、組長ニ申出、而シテ其町村用掛ノ承認ヲ受ケタル上ニテ、止宿セシムヘシ、但風體怪敷モノナレハ止宿ヲ斷ルヘキハ勿論ナレトモ、其事情ヲ速ニ組長へ報告スヘシ、然ルトキハ組長ハ第十四条ノ通心得取扱フヘシ、

組合規則参考

第壹条

本則第一条ニ載タル一組ニ合列次□□

(何郡何町村) 第何大區何小區何村

第何番組

組長 何之誰

伍長 何之誰

何之誰

同

同

同

合五人

何之誰

何之誰

同

同

同

合五人

以下五組内ノ人名
但伍長以下五組内ト稱スヘシ

以下五組内ノ人名
但書同上

*「又伍組内戸數
未ダ減スルトキ
ハ」の一句脱落敷。
活字本を以つて補
ふ。

右式ノ如ク組合列次ヲ立ルヲ以テ、本則第二条ノ如ク戸籍増減アルモノハ、伍長ノ次ニ列スル伍組ノ人名ノミヲ増減スヘシ、故ニ本則第三条ノ伍長人員ハ一組ニ二員ヨリ上ラサルモノトス、一伍組トナシ、伍長一員ヲ置クヘシ、□□組内惣戸數四戸以下ニ減スレハ、本則第二条但書ノ通タルヘシ○本則第一条但書ノ一籠ヲ占ムルトハ、戸籍番號札ヲ掲クヘキコトヲ得ル家屋ニ寄住スルモノ、ミヲ撰ムヘシ、自炊ナルモ、其生屋等

五人組帳資料

ニ借居スルモノハ、其家内寄留人ノ名簿ニ入レテ之ヲ記載スヘシ、一籠ヲ占ムルモノト看做サ、ルヘシ〇組合ハ人家軒並順次ヲ以テ組合スルハ勿論ナレトモ、其組合中組長或ハ伍長トモナルヲ得難キモノアルヲ恐レハ、軒並(ニ)アラサルモ、彼是差繰リ、組合ヲ立ルモ妨ケナシト雖モ、コノ場合ニ於テハ區戸長ニ於テ取扱ヒ、組合スヘシ〇本則第四条ニアル組長及伍長ハ何レモ入札法ニテ之ヲ撰ムヘシ、先ツ組内一同ニテ入札シテ、組長一名ヲ定メ入札高最モ多キモノ^(多キモノ)而シテ組長ハ之ヲ除キ、其組内ヲ二分シテ、其一分ヲ伍組トシ、其伍組内ニテ伍長一名宛ヲ撰定スヘシ〇組長及伍長ハ本則第五条ニ示ス如ク官員・區戸長^(ナシ)・其他役員及ヒ教導職・神官・住職等ヲ撰マス、其地ニ居住スルモノ并寄留一籠ヲ占ムルモノハ、一切其役ヲ帶フヘキモノトス、尤此役ハ其地住民ノ義務役ニシテ、餘ノ役ト別種ノモノト心得ヘシ、故ニ本則第六・七条ニ示ス如ク無給ニシテ、且年限内ハ故ナクシテ辭スルコトヲ得サルモノナリ〇組長及伍長ハ何人ニ限ラス、其家族又ハ雇人ナレハ年齢滿十六歳以上ノモノヲ以テ、役務上ヲ臨時代理人トナスコトヲ得ヘシ、

第二条

官員其他區戸長等ニテ組長及ヒ伍長タルモノアルモ、本則第八条ノ如キハ、己レノ告達ヲ説示スルモノト思フヘカラス、官員・區戸長^(ナシ)ハ固ヨリ役義ナリ、組長及ヒ伍長モ亦役務上ノ役義タリ、役義上ニテ施行スルナレハ、説示スルモ、説示セラル、モ、此兩般ノ趣旨ヲ了知スヘシ〇本則第九条以下ノ条ニ其筋ヘ差出サシムルトアルハ、縣廳、又ハ警察分署、或ハ大小區扱所等ヲサシテ云フナリ、其内本則第十条ノ賊難等ノ届書ハ直ニ警察分署ヘ差出スヘシ、其餘ハ總テ小區扱所ヲ經ルモノ多レハ、同所ヘ差出サシムヘシ、尤其事柄ニ

*「郡役所警察署分署」とあり。

^(郡役所警察署分署)

^(小區扱所)

ヨリ縣廳、又ハ警察分署ヘ本人出頭スヘキモノモアルモ、總テ小區扱所ノ指揮ニ從カフハ勿論タルヘシ〇本則第十二条ノ喚狀ハ總テ其町村用掛ヨリ傳達スルモノト知ルヘシ、故ニ本人病氣又ハ他行不在ヲ具申スルモ、其具申書ハ喚狀ノ出ル所ニ當テ、而シテ用掛ヘ差出スヘシ〇死亡・出産・隱居・相續・縁組・妊娠等、平常ノ願届書ヲ小區扱所ヘ持參スルニハ、組長ノトコロニ取纏メ、延引セサル様ニ、兼テ組内ニ當番ヲ立置キ、其當番ニテ持參セシムヘシ、尤小區扱所近傍ノ組内、又ハ差急キタル事件ナレハ、組長連署ノ上ハ、本人ヨリ直ニ持參スルモ妨ケナシトス〇本則第十七条ニ具申スルニハ、其具申スルニ小區扱所ノミナラス、見込^(以下ナシ)ノ次第二因リ、縣令宛、又ハ大區出張所ヘ直ニ具申スルヲ得ヘシ〇本則第廿条ニ組長及ヒ伍長ハ差添人タルノ權ヲ有スルモ、其本人ノ親戚、又ハ正副戸長等差添タルヘシト、其筋達シ之アルトキハ、組長及伍長ハ與ラサルモノトス、

第三条

本則第廿四条ニ掲クル如ク、組内節儉ヲ旨トスルヲ以テ、世間往々葬式、又ハ榜著紐解等ノ祝ニ因リ酒食ヲ近隣ハ勿論、町村内ノモノニ侷メサシムルノ弊習アルヲ防ク爲ニハ、其組内一同ニテ兼テ約定書ヲ作り、右等無用ノ冗費ヲ耗セサルコトニ取極メ置クヘシ、而シテ違背スルモノアラハ、小區扱所ヲ經由シテ、縣廳ヘ具狀シテ、其處分ヲ請フヘシ、

* 中判十七枚。表題には「御條目」とのみあり、同村の文書中にあつたので、同村のものと推定した。天領。

一一六 上野國碓氷郡中野谷村五人組御條目*
(前書六拾箇條附則貳拾參條を記す。年代不詳。その内容は五九天保八年五人組帳前書とほぼ同様故、これを省略する。)

一一七 五人組帳*

* 半紙二十九枚。裏表紙に永島顯太の署名がある。永島氏は旗本である。年代等不詳。

(本文七拾箇條は七元文三年武藏國幸手領五人組帳と同様であるが、それに僅かばかり註釋が附してある。註釋のみを左に掲ぐ。)

- 〔一〕の後に、
 - 一 脇百姓とは百姓、平百姓といふ。先年ハ村役人を本百姓と唱候事、
 - 一家抱とは地主ニ而建置候家ニ而其屋敷付田地を引請、世話いたさせ、家賃なしに置候ものをいふ、
 - 一 前地とは地借百姓之事、
 - 一 店ものとは店借之事、
- 〔三〕の後に、
 - 一 御支配人とは往古伊奈家來之内ニ而、御代官所之内、手分引請

但享保十二年正月廿五日極る、

- 一 添役衆とは享保十四年伊奈半左衛門支配所村ニ江觸候趣、
- 〔一〕の後に、

此添役と申す享保十四年酉年伊奈半左衛門支配之節、同人より申渡、

- 〔三〕の後に、
- 寛永十四・明曆二百年御觸、

〔一五〕の頭に、

明曆二百年御觸

〔二四〕の頭に、

寛永十九卯年六月御觸、

〔三五〕の後に、

一出居衆與之儀天明三亥年御觸、

一 町中店借候ものは、店請人ニ念を入可申候、儲ニ無之ものニ店貸し申間敷候、徒もの差置候ハ、大屋は勿論、品ニより五人組・名主迄曲事可申付候間、五人組互ニ店もの吟味可仕候、并出居衆置候とも、請人取之、儲成者貸可申候、徒もの差置候ハ、是亦五人組名主へ掛り可申事、

此出居と申す、今いふ座敷之事ニ而、明座敷を借、席料を出し、浪人敷、暫商敷、又は何敷用向違候

五人組帳資料

* 文句中途にて絶たれてゐる。

内、居候ものを出居衆と唱、座敷を借候而諸事手賄ニ致し候人之事也、座敷主之賄ニ候ハ、旅人と申候而可留敷、畢竟關ヶ原・大坂一亂後、諸浪人衆暫之借家之事ニ而、元和頃々出居衆と

〔四二〕〔四四〕〔四五〕の頭に、

** 明暦三は酉年なり。

明暦三卯年御觸、*

〔四七〕の頭に、

延寶三卯年御觸

〔四八〕の頭に、

延寶七未年十月御觸

〔四九〕の頭に、

天和三寅年二月御觸***

*** 天和三は亥年なり。

天和三寅年二月御觸

〔五一〕〔五二〕〔五三〕の頭に、

*** 〔五二〕は天和三亥年三月の御觸なりともいふ。

寛永八申年御觸***

〔五四〕の頭に、

貞享四卯年四月御觸

〔五五〕〔五六〕〔五七〕の頭に、

享保六丑年閏七月御觸

〔六四〕の頭に、

* 貞享二は丑年なり。

貞享二巳年二月御觸*

〔六五〕〔六六〕の頭に、

享保九辰年閏四月御觸

〔六七〕の頭に、

同年(享保九)六月御觸

〔六八〕の頭に、

享保九寅年九月御觸**

** 享保九は享保十九の誤りなるべし。

〔六九〕〔七〇〕の頭に、

享保八卯年四月御觸

* 中判廿九枚。天領。

*牛紙判二十六枚。前橋藩に屬す。この年正月松平朝矩、後大和守姫路より移封さる。

追加一 寛延二年上野國群馬郡板井村「御法度御條目帳」

定

- 一 御公儀御法度之儀は前々被 仰出候趣堅相守可申候事、^{〔一〕}
- 一 親に孝行仕、子をあわれみ、兄弟諸親類むつましく、夫婦中能可仕候事、^{〔二〕}
- 一 村中に親に孝行成者有之候歟、すくれて人柄能もの之候ハ、可申出候事、^{〔三〕}
- 一 慈悲を專にいたし、何事によらず非儀（成）仕方仕間敷事、^{〔四〕}
- 一 百姓に不似合藝能を好ミ、身持悪しく、奢たる儀、惣而偽巧ケ間敷儀不仕、諸事正直正路にいたし、農業專要に精入可申候事、^{〔五〕}
- 一 村中に人柄悪敷もの有之候ハ、異見仕、人柄能成候様可仕候事、^{〔六〕}
- 一 村中常々火之元大切ニ念入、風烈之節は不限晝夜、申合見廻り、堅可用心事、^{〔七〕}
- 一 一切支丹類族御制札之通り急度相守、前々之通召仕等ニ至迄、銘々宗門相改、毎春宗門人別帳且那寺印形取之、三月迄ニ可差出候、萬一不吟味ニ仕、御制禁宗門之もの之在之段、脇々相知候ハ、本人ハ不及申、召仕・其主人并名主・組頭共ニ可爲曲事候事、^{〔八〕}

- 一 百姓仲々間組合之儀、家並又ハ最寄次第五人組組合、所ニより五人組合ニ難成分ハ四人・六人組ニ茂組合相定、御仕置筋其外被仰渡儀共、常ニ堅申合、相守可申候、若五人組之内御法度背き、悪事仕候もの有之候ハ、村役人江相届、組之内ヲ可申出、他所ヲ相知候ハ、其組不殘可爲曲事候、若又他組成共、御法度を背き悪事仕候もの有之候ハ、可申出候、其品ニより御褒美可被下候、或ハ同類・親類・縁者等怨を可成と存候て、隠置、不申出候におゐてハ可爲越度、尤訴候とて怨不致様取斗有之事、^{〔九〕}
- 一 五人組ニはつれ候もの有之候ハ、可爲越度事、^{〔一〇〕}
- 一 御公儀御用之儀は勿論、被仰渡候御用、不依何事ニ、何方ヲ申來候とも、晝夜をかきらず、油断なく、時付日限違不申候様ニ相勤可申候、配符并村次之御用通り候ハ、先ニ江相届ケ、時付之手形取置可申候、若遅ニ仕候ハ、可爲越度候事、^{〔一一〕}
- 一 一年貢割付出候節、名主・組頭・惣百姓不殘立合、披見之上割合勘定可仕候、若惣百姓ニ隠し名主自由ニ割付いたし候ハ、即時ニ可申出事、^{〔一二〕}
- 一 一年貢米納方之儀立毛刈入候ハ、隨分手廻仕、米拵出來次第、九月より段々無滯相納、十二月十日を限り急度皆済可仕候、尤年貢納之石數に隨ひ、定法之作徳引取候ハ各別、百姓自分拂米諸差引等猥ニ不仕、可納之、石高隨分出精定之通可相守候事、^{〔一三〕}
- 一 高役之儀、米錢共ニ名主・組頭・小百姓寄合明細ニ割付、得心之上銘ニ印判仕置可申候、役錢之義者日限之通無未進、急度差出可申候事、^{〔一四〕}

- 一 一年貢米金銘ニ百姓前々取立候節、庭帳ニ付置、百姓壹人切ニ通帳に米金共ニ書記、名主押切印判いたし相渡可申候、尤年貢米隨分撰立拵、あら・稗・われ米無之様ニ吟味いたし、繩依等念入可申候事、^{〔一五〕}
- 一 郷藏之儀、毎年納收前ニ破損之所在之候ハ、修復仕、下敷等丈夫ニいたし、米悪敷成不申候様ニいたし置、年貢米郷藏江納候ハ、晝夜番人附置相守、名主・組頭等も見廻り候様ニ可仕候、若下敷薄く、米悪敷候敷、雨もり候て米捨り候敷、火事・盗人ニ逢候敷、如何様之儀有之候而、破船紛失米等有之候共、百姓損失に仕、急度辨納可仕候、郷藏近所に火事出來候ハ、隣郷ニ候とも、男女不殘馳著防可申候、若不精ニ而遅く參候もの有之候ハ、百姓中ケ間にて穿鑿いたし、急度可申出候事、^{〔一六〕}
- 一 田畑豊歩之所成とも荒し申間敷候、永不作之所は不及申、野原・川原成とも田畑ニ可成所在之候ハは、訴出、開發可致候、惡地とても荒し置申間敷候事、^{〔一七〕}
- 一 新田畑開發候節は訴出、反步改請、作毛仕付、年貢可相納候、若新開之田畑起し候而も不訴出、作取に仕候ハ、其地主咎申付、訴人いたし候ものニ田地割あたへ可申候事、^{〔一八〕}
- 一 五人組一札其外書物に押申候印判取替申間敷候、若印判彫替又者致紛失候ハ、判鑑差出し置、印判可致所持事、^{〔一九〕}
- 一 書物に印判仕候儀有之候而、名主方々相觸候ハ、小百姓に至迄銘ニ印判持參いたし、書面之通見届開届判形可仕候、印判之儀は人に託ひ遣し申間敷候、自然其身相煩難叶節ハ、親子兄弟慥成好身之内ニ而判形遣し可申候、尤名主方に少之内も印判留置申間敷事、^{〔二〇〕}

- 一 次落又者死去・退轉仕、其外潰百姓之類、其跡之田地持添にいたし候事御法度ニ候間、由緒を糺候敷、其外相續之もの極候儀、村中相談之上、百姓仕付壹人之跡は其儘相渡可申候、所之了簡に不相成候ハ、田畑屋敷目録ニいたし差出し可申候、若右潰百姓類之跡四壁等荒し、田畑持添、我儘仕候もの有之候ハ、村役人者不申及、五人組其外及見聞候もの可申出候事、
- 一 毎度申渡無之候共、道橋念入作り可申候、往還之儀者不申及、脇道・作場にても田畑江切入、道を廻シ申間敷候、井堤・川除を切、田畑に仕出し、作仕付申間鋪候、若堤・川除・道・堀等を廻し、田畑江切入候もの有之候ハ、可爲曲事候、尤名主・組頭可爲越度事、
- 一 川除并水留置候所我儘に切落申間敷候、不切落候而不叶所有之候ハ、訴出可申候、利害吟味之上切落し、其場所丈夫ニ築可申候、龜相ニ仕、水出候時分押切候ハ、可爲曲事、
- 一 水出候時分、大川・谷川・内堀之水余り、田畑損候ハ、名主・組頭・長百姓立合見分仕、所人足を以當座ニ普請可仕候、若大變地ニ成候ハ、早ニ可申出、可遠吟味候、其時分不申出、重而田畑損し候由申出候共、年貢無難之積り申渡シ、名主・組頭可爲越度事、
- 一 普請扶持方人足遣ひ候ハ、當座割渡し、名主方江請取證文取置可申候、右扶持方を以諸役出方に引次可申と名主申候ハ、百姓方より可訴出事、
- 一 火事出来候ハ、郷中之者火消道具を持、馳付、精出シ消可申候、若出合不申候もの有之候ハ、穿撃之上可爲越度事、

- 一 知行所ニ而悪黨者有之候而なりを立申もの有之候ハ、郷中出合搦取可申候、并郷中堂宮山林等に怪敷者からまり在之候を見出し候ハ、郷中相談仕、搦捕早速訴出可申候事、
- 一 不依男女、欠落もの郷中江參候ハ、捕置、早速可訴出候、先ニより構有之由届在之は、早速寄合、致詮儀申出、得差圖、埒明ケ可申候事、
- 一 手負之儀は不及申、郷中にてあやまちいたし、疵出来致し候もの當座ニ可申出候事、
- 一 往還之者路次ニ而相煩居候ハ、見のがし捨置申間鋪候、名主・百姓立合、其者之名并國所・宿等承届近所之家江引入、看病いたし置、早速其者之宿所江可申越候、縦乞食・非人ニ候とも郷中にて行倒相果候者有之候ハ、様子相改、早速可申出候事、
- 一 捨子・捨馬等仕候者於有之ハ、組中々可申出候、自然隠置、他所々相知候におひてハ名主・組頭・五人組迄可爲越度事、
- 一 親類・縁者に候とも他所者人主又請ニ立申間敷候、郷中之者奉公ニ出候ハ、親類・縁者・名主・五人組之内請ニ立、年季之内如在なく奉公相勤申候様ニ、兼而可申付候、若不意之儀有之候而、六ヶ敷儀在之候ハ、人主・請人立合、急度埒明ケ可申候事、
- 一 所之林にて竹木枝葉にても伐間敷候、若猥ニ採候者於有之者、其者ハ不及申、名主・五人組可爲曲事、
- 一 林之竹木風折・根返り候とも訴出、差圖次第ニ可仕候、隠置申間鋪候事、
- 一 村ニ五人組之儀彌堅く仲ケ間申合、耕作可精出候、作之時分相煩候もの有之候ハ、仲ケ間助合、荒し

不申候様ニ可仕候、惣而耕作互ニはげミ可申候、若不精ニいたし候もの有之候ハ、異見加江、夫ニ而も用ひ不申候ハ、名主方江相斷、猶又急度申聞せ、其上ニも不埒ニ候ハ、其旨可訴出候、男女共ニ作間ハ相應之縁いたし可申事、^{〔三五〕}

一 鉄炮之事彌前ニ之通御法度之趣急度可相守候、弓矢之儀是迄之通猥之儀無之様可致候、若猥之儀於有之ハ、吟味之上、可爲越度事、^{〔三六〕}

一 博突・三等附等前ニ堅く御法度ニ候條、下人等ニ至迄急度申付、假初にも賭之諸勝負爲仕間鋪候、於相背は同類悉令詮儀、宿仕候ものハ不及申ニ、名主・組頭可爲越度、博突事より出來候出入を別儀ニなそらへ、公事訴訟等仕候ハ、後日に相知候共、令吟味可爲重科事、^{〔三七〕}

一 百姓井寺社領山林四壁共ニ竹木猥ニ伐採申間敷候、破損作事等之儀ニ而可入子細有之候ハ、竹木員數書付を以、名主・組頭方江相斷、差圖可請事、^{〔三八〕}

一 未進仕候者於有之ハ、其者之暮し方人馬之數相改、且又前ニも未進仕候敷、五ヶ年以來之名主庭帳を以遂吟味、委細可訴之、吟味之上咎メ可申付事、^{〔三九〕}

一 質地之儀村役人急度相改、御定之通相違無之様ニ取扱可申候、村役人之質地ハ役人仲ヶ間亦ハ隣村名主等可爲致加判事、^{〔四〇〕}

一 御朱印地之寺社領田畑質物書入候とも取申間鋪候、縦證文等儲ニ有之候共、御朱印之寺社領一切取申間鋪事、^{〔四一〕}

一 前ニ御法度之田畑永代賣買彌以堅仕間敷候、自然相背、出入之節相知候ハ、右之田畑取上、賣主・買主共ニ可爲越度候事、^{〔四二〕}

一 野山論・水論之類立合相糺候儀、村一同之儀ニ候ハ、村中相談之上可取斗候事、^{〔四三〕}

一 徒黨并逃散等之儀、前ニ御公儀御制禁之事ニ候條、急度相守、若願之儀有之節は、其もの井村役人差添可願出候、萬一村役人江對し申分在之、訴出候節者、五人組之内申合可申出候事、^{〔四四〕}

一 公事訴訟事有之節、村役人共遂評儀、利害隨分申聞せ、内ニ而事濟候様可致候、是等之儀ニ而江戸表江出候而ハ村入用嵩、不可然候、乍去片押成儀決而不可取斗候、名主・組頭・惣百姓打寄、理非分明ニ令相談、相濟候様ニ可取斗候、若内濟難成儀ニ候ハ、訴訟人之心次第ニ可差出事、^{〔四五〕}

一 其身一分之出入ニ而江戸江相詰、出入相濟候迄之諸入用金、村中江割賦仕間敷候、勿論他領との出入ニ候とも一分之立候儀は可爲右同斷、但村一同之爲にも可成出入ニ候ハ、可爲各別事、^{〔四六〕}

一 他領之もの之公事訴訟事に親類縁者たりとも一切影にて取持申間敷候、後日腰押仕候義相知候ハ、急度可申付候、勿論知行内之出入有之候節茂、他領之もの腰押爲仕間敷事、^{〔四七〕}

一出作之者他村方ニ而不法之義無之様、兼ニ可申付候事、^{〔四八〕}

一 知行所ニ百姓勤候者他領ニも田地有之候て、其身ハ他領之百姓相勤度存故、此方之持高ハ惣領ニ讓置上ハ、訊立候儀と存、無斷他領江越候者於有之は、名主・組頭・五人組共ニ不念ニ候間、吟味之上咎メ可申

附候、勿論右之通願候者有之候ハ、他領に如何様之子細ニ而田地所持仕と申訳、他領之名主・組頭と此方之名主・組頭慥成證文差添并惣領に田畑不殘相渡、永代出入申分無之旨證文取、可請差圖事、^{〔四九〕}

一 高拾石以下所持之百姓猥ニ次男等江配^{〔五〇〕}すへからす候、惣領之外者成人次第奉公ニ出し、面々之器量次第ニ勵之、渡世可仕候、若又もうもくに候ハ、惣領たりとも田畑わけず、持高不殘次男ニ譲り、もうもくの子ハ養ひ置、口すき有之様ニ可仕候、其者望にて座當仲ケ間江入候ハ、官金等分限ニ相應ニ可致、過分之合力金仕間敷事、^{〔五〇〕}

一年ニ溜堀破損繕等并川除は前々之通百姓可爲普請事、^{〔五一〕}

一 親類縁者之浪人在之、男女共ニのかれさる訳にて縁次第に他江罷出候内、養ひ候儀有之候ハ、當分之儀たりとも、如何様之子細にて宿仕候段、并宗旨等名主・組頭令吟味、書付可差出事、^{〔五二〕}

一 有來者之外ニ親類・縁者たりとも新規ニ家作致候ハ、其段相届可申候、尤其身ニ應さる普請仕間敷事、^{〔五三〕}

一 衣類之儀布木綿斗可著之、其外者糸り帯等ニも一切給・袖以上仕間敷事、^{〔五四〕}

一 僧俗共ニ他所之者ニ一夜之宿茂仕間敷候、たとひ好身之者たりとも、他所ニ而儀絶いたし候ものハ先キハ慥成證人無之候ハ、一時茂不可差置、尤不見届者・いたつら者・惡黨者等隱置儀、於在之ハ、其村名主・組頭可爲越度事、^{〔五五〕}

一 有來神事杯、他領一同之申合ニ候ハ、遂相談、舊例相用候内ニ茂成たけ隨分軽く相勤へし、一村ニ而執行仕祭禮・佛事等ハ猶以軽く取斗、其身不似合結構成儀一切仕間鋪事、

附 神事遊びに事よせ、假初にも賭之諸勝負仕者於有之ハ、後日に相知候共、急度可爲越度事、并前

と致し來らさる新法之神事佛事堅く可爲無用事、^{〔五六〕}

一 自他領之百姓年貢方訴訟之爲ニ所を明ケ欠落仕候ものを、一時成とも宿仕間鋪候、於相背者穿鑿之上、可爲越度事、^{〔五七〕}

一 證據證文無之貸方借り方之公事不取上候間、申出間敷事、^{〔五八〕}

一 名主・組頭江對し小百姓申合在之、名主・組頭方ニ難澁之辨有之ハ、知行所之内外村名主・組頭江可申達候、其名主・組頭ハ双方之意趣分明ニ相糺、内々ニ而不濟儀ニ候ハ、可訴之事、^{〔五九〕}

一 姫取・鞆取之節、馬駕頭等ニ乘、美々敷いたし、少茂奢たる儀、堅く仕間敷候、一汁一菜にて隨分小鉢ニ可致候、勿論互ニ祝儀取かわし候儀も同前之事、^{〔六〇〕}

一 惣而不依何事ニ、出會又は自分宅ニ而茂大酒仕間鋪候、祭禮・法事・祝義振舞等ニ至迄不可及亂酒ニ、若相背、醉狂於在之は、客亭主とも可爲越度事、^{〔六一〕}

附 市町江出、大酒致へからす候事、

一 檢見并年貢取立に役人罷越候節、馳走料理ケ間鋪儀等決而不仕、一汁一菜たるへし、尤所ニ有之物之外ハ輕きもの成共買調申間敷候、酒肴は會而不可出之、役人江何にても音信土産堅く不可出之事、

附 役人共非分成取斗いたし、又ハ無心ケ間敷儀申懸ケ、惣而不宜趣在之候ハ、ひそかに書付封印いたし、江戸表屋鋪江可差出候、尤申立候通相違無之におひてハ、訴出候當人難義に不相成候様

二可取斗候事、

- 一 此方々役人參候節、勝手江大勢詰候而無用隙を費申間敷候、勿論内證にて料理酒もり仕間鋪事、
- 一 衣食常々分限に應し、過分之身持不致、惣而五穀之費申儀一切仕間敷事、
- 一 伊勢參宮・湯殿山參、其外西國順禮物詣ての爲、他國仕度旨申もの有之候ハ、名主・組頭令吟味、身上不成もの、借金杯にて存立候儀ニ候ハ、無用ニ可致候、勿論商事杯ニ而他國いたし候とも、其度々名主・組頭江急度相届、可受差圖事、
- 一 月待・日待遊山ヶ間敷儀ニ人集メ等仕間敷事、
- 一 村入用成たけはふき、至極吟味之上割懸候分は、毎年正月前年之入用帳認、惣百姓江委細申間、銘々印形取可差出事、
- 一 年貢米之儀定例之通依ニ入候中札ニ依入舛目・國郡村付記、米主・米見・舛取・名主・組頭名印いたし可入之、上ハ札ニは國郡村名・米主名前相認可申候、尤餅米大豆同斷之事、
- 一 依入之儀は本石三斗五升ニ口米・差米・欠米ともに四斗壹升入可納之候、江戸著之節貫目相改、廻し依斗立欠米有之候ハ、其村切ニ其依數次第、右不足米割掛ヶ候間、此旨可相心得事、
- 一 納米江戸廻之儀、其村向寄之河岸ヶ可令出船、運賃之儀者御定之通可渡之候、上乘儲成もの吟味仕、入念可相廻事、
- 一 取箇之儀、百姓仲ヶ間ニ而他給割付と見合候ハ、定而高下在之、御仕置取斗等相違之儀茂可有之候、

取箇之高下、御仕置筋取斗善惡共ニ他領之仕方ニ構無之、其年之出來方ニ隨ひ、取箇相極候條違背仕間鋪事、

一年貢并村入用之類、役人立合邊吟味、百姓江も銘々讀聞せ、得心之上印形取、年貢請取候節、米金多少ニよらず、請取書付にいたし遣之、割返之節も請取、印形取置可申候、縦前ヶケ様之儀無之候とも、元文五申年御領・私領一同右之通急度可相守旨被仰出候事ニ候條、以來急度相改、割付茂銘々見せ、讀聞せ、惣而惣百姓疑無之様、諸勘定明白ニ可仕候事、

一 畑金納方、夏成六月晦日限、秋成九月十五日限、冬成十一月晦日限、年々急度可相納事、

右之條々急度相守之、名主・組頭・惣百姓・入作百姓迄請印可致候、尤一村切ニ寫取、五人組帳ニ記置之、毎年正月中大小之百姓江讀聞せ、文言不辨もの江は委細申含、惣百姓承知之旨書付相認、每春可差出者也、

右御條目之趣、拜見仕、則名主・組頭□□入作之百姓・水吞・召仕等ニ至迄急度相守、被 仰付候通毛頭相背申間敷候、尤右御定書五人組帳に記置、毎年正月中大小之百姓江爲讀聞、奉畏候段書付、每春差上可申候、爲後日連判仕、差上申所仍如件、

寛延二己巳年九月

上野國群馬郡板井村

名主

組頭

惣百姓

鎌田仙右衛門様

五人組帳資料

追加一 寛政四年下野國都賀郡三拜川岸五人組帳

一前と從 御公儀様度と被 仰出候御法度書之趣急度相守、御制法之義不相背様、村中小百姓下と迄堅相
守申候、彌以切支丹宗門之義毎年御改之時、寺請狀差上申候通、郷中ニ壹人茂紛敷者無御座候、下男下女
之義入念相改、其所と寺請狀銘と名主方江取置申候、不吟味仕、脇より顯申候ハ、名主・年寄・五人
組迄如何様之曲事ニも可被 仰付候、五人組之義町は家並、在郷は最寄次第ニ五軒ツ、組合、子共、鞆ニ
至迄、家内不殘、諸夏五人組之内五ニ相改申候、不孝不儀之輩御座候ハ、早速可申上候、田畑耕作之義、
諸夏時節ニ耕シ、晝夜油斷仕間敷候、俄ニ病者ニ罷成、耕作荒シ候者御座候ハ、名主方吟味之上五ニ
助合可申趣、兼而被 仰付候通畏入申候、博突仕候者ニ一夜之宿も貸シ申間敷候、不依何夏ニ、其所と名
主下知ニ相隨不申、我儘成者御座候ハ、急度曲夏ニ可被 仰付候趣、曾而左様成者無御座候、惣而不吟
味仕、脇より顯申候ハ、何分ニも曲夏可被 仰付候、爲後日連判證文差上申所仍而如件、

* 中判十七枚。
宗門五人組人別帳
である。普通の前
書にある數箇條を
一括して一箇條と
した點に特徴があ
る。本書の外享和
元年・文化元年・
文化七年・文化十
年・天保四年(後
半欠)・天保五年・
天保九年・天保十
二年・天保十四年・
文久元年・慶應三
年の十一冊あるが
何れも同様であ
る。旗本領である。
本文の分参照。

* 以下宗門人別
帳、並びに寺請證
文あるも略す。

| | | | | | | | | | | |
|-------|-----------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 一 四人組 | 重 左 衛 門 ⑩ | 惣 兵 衛 ⑩ | 利 左 衛 門 ⑩ | 吉 左 衛 門 ⑩ | 清 次 郎 ⑩ | 伴 右 衛 門 ⑩ | 市 右 衛 門 ⑩ | 久 左 衛 門 ⑩ | 六 兵 衛 ⑩ | |
| 一 五人組 | 喜 三 郎 ⑩ | 惣 七 ⑩ | 伊 左 衛 門 ⑩ | 喜 介 ⑩ | 忠 左 衛 門 ⑩ | 平 次 郎 ⑩ | 八 左 衛 門 ⑩ | 甚 八 ⑩ | 平 左 衛 門 ⑩ | 小 七 ⑩ |
| 一 五人組 | | | | | | | | | | |

右御ケ條之品ニ堅相守可申候、若シ相背輩於有之は、如何様之曲夏ニも可被 仰付候、尤御條目等庄屋方江
寫置、正月五日・七月上旬壹ケ年ニ兩度、村中惣百姓・水吞・前地ニ至迄不相殘爲讀聞可申候、宗門五人組
人別馬持迄委細ニ相改、差上申候處、少も相違之義無御座候、爲後日證文差上申候處仍而如件、

寛政四年
遠山三郎右衛門様御内
傳田久兵衛殿

追加三 明治二年京都府「郡中制法」

條々

* 中判三十五枚。版本である。官版、發行書肆は京東洞院三條上ル町、村上勘兵衛とある。五人組帳前書ではないが、前書から脱化した明治初年の法制として参考すべきであらう。これと同時に町方に對しても市中制法（京都府・明治二年、徳嶋藩・明治三年九月、大坂府・明治五年三月）があるが、内容はほぼ同様で、村方が町方、庄屋が町年寄、少年寄などとなる差違は以下頭註に記して置く。

- 一 御高札之旨謹而可相守事、
- 一 追々布告する趣不可違背事、
- 一 邪宗門并怪異之宗法堅く禁之、然る上ハ五人組互に穿鑿し、不審之者有之ハ、速に可申出、若緩せしに他より於洩聞ハ、五人組之者も可爲越度事、
- 一 五人組之儀ハ家並最寄を以組合せ、親戚同様親しく可相交事、
- 付 組内喧嘩口論其他故障出來之節ハ組頭へ届、組頭取捌かたきときハ庄屋へ相届、可成たけハ村内にて取治むへし、自然庄屋之心にも不任ときハ可言上事、
- 付 他處人人別に加り度願出るものあらハ、出處産業等聞糺し、是迄之在處役人より之送り狀を取り、人柄不審も無之、請人等も有之ハ、其書ものをも取置、願出開届之上、五人組へ加ふへし、其儀なく不審之もの留置においてハ、五人組之者可爲越度事、
- 付 他處人出稼に來るものも同斷、是迄の在所役人之添書を取り、人柄不審も無之、請人等も有之ハ、

其書ものをも取置、願出開届之上、可免滞居、其儀なく不審之者留置においては、家主・五人組とも迄も可爲越度事、

- 付 他處より年限り奉公人雇入るときハ、篤と取糺し、親元・名前・年齢等書記し、庄屋へ可届出、其儀なく不審之もの留置においては、主人可爲越度事、
- 付 他處へ轉居、此地之人別を外れ度願出るものハ、組合庄屋とも旨趣詳に聞糺し、道理至極之儀あらハ、其段願出開届之上、庄屋より送り狀差出し、先方之人別に加へ、此地之五人組を除くへき事、

付 年限を以他處稼に出るものも同斷、庄屋より添書差出すへし、尤歸り期限を誤るへからず、無據滞留いたすにおいては、其趣速に可申越事、

付 組内死生・縁組・改名・田畠山林賣買讓與^{*}其外廉立出入有之ハ、其度々庄屋へ相届、戸籍へ可書記事、

一 村内懇和し、吉凶相助、善を勸め惡を戒め、共々渡世の安穩をはかるへき事、

付 孤獨癡疾無告之究民ハ村内互に申合、常々心を付け、救助申出等遺漏沈滞不可有之事、

付 火災・盜難、或は病氣等にて産業を失ふものあらハ、組合村内心遣ひ、産業に基かしむへし、不任心事あらハ、速に可申出事、

付 盜賊・亂暴人・水難・火災等都て非常警め之儀ハ、五人組村内にても兼而申合、至急變相救ふへ

五人組帳資料

* 「家宅賣買・地讓與・産業替へ」

* この後に「事柄により隣町組よりも互に可相救事」(京都府・徳島藩)、「事柄により隣風よりも互に可相救事」(大坂府)とあり。
 * 「商用其外にて他國へ出るものハ其趣町役へ申出、町役より届出、藩印請取可罷出、(徳島藩)」

*** この條は「高利を食り、不正の商賣堅く誠むる所なり、諸事正直を旨とし、家職精ま可相勵事、」
 *** ここまでなし。
 *** 「諸商物精買或ハ申合、高價にすへからず、世上のために諸物を融通せしむる心得可爲肝要事」

き事*

付 盜賊・悪黨擄取、申出るものは褒美を與ふべき事、

付 用事に付他國へ出るものハ、其趣を庄屋へ相届、庄屋より往來券を取り可罷出、然る上ハ於他國病氣或ハ死去等之儀相聞ハ、親類組合之内又ハ村役人之者罷越、一件可取捌事、

付 諸事心得不宜、身持放埒なるものあらハ、五人組・村役人教諭を加へ、善道に導へし、自然徒らを構へ、折檻を不用、悪行相募るにおいてハ可訴出事、

付 善行奇特之ものあらハ申出へし、善人之出るハ兼て示し方よろしき故にて、其組合・其村の美事たり、當人ハ勿論、品により庄屋・五人組之者迄も可與褒美事、

一 農業を不勤、不正之商賣を事とし、高利を食ふ事、堅く誠むる所なり、諸事農家之風を不失、耕作精ま可相勵事、

付 有徳之百姓米銀を貸といへとも、利息尋常たるへし、貸家・かし地等過當之代料取るましく、諸職人作料手間賃申合せ、高直にすへからざる事、

付 米穀諸商物縮買或ハ申合せ、高價にすへからざる事、

付 出處不知物品は質に取るましく、出處知れたるものにも、請人無之品ハ質に取るべからざる事、

付 盜物買取、又ハ質に取置ものハ、品物取上申付へし、盜物と乍知、買請け又は質に取るものハ、咎方をも可申付事、

付 賈せ金銀其外惡たくみを以、人之目を掠むるものあらハ、速に可訴出、假令一旦其事に携るといへとも、其咎を免し遣スへし、

付 人之賣買堅く禁止之事、

一 博奕其外賭の諸勝負堅く禁之、若竊に取扱ふものあらハ可訴出、隠し置他より於洩聞ハ、村役人・五人組迄も可爲越度事、

一 横死人・自害人・倒れもの等有之ハ、番人付置、可遂注進事、

一 往來之もの怪我・病氣・飢渴等にて相煩ハ、醫師へ見せ、能く介抱いたし遣すへし、若歩行も不相叶ときハ、其もの之在處承り、村送りにして送り届る敷、又は迎を呼寄るか、無疎略可取扱、致病死ときハ、其者の道具等不紛失やう封印締りにして、在處へ可掛合事、

一 捨子・墮胎制禁なり、自然貧窮にて養育不能者ハ可申出、救助し可遣事、

付 捨子有之節は村内申合、致養育置、可届出事、

一 出處不慥者へ宿貸すましく、都て旅人止宿を乞ふときハ、在處其外聞糺し、往來券相改、處役人へ相届、其上にて止宿いたさすへし、一己の了簡にて宿貸すへからざる事、

付 遊女・野郎之類一切不可留置、一夜之宿もかすまじき事、

付 社寺堂宮に隠れ忍ぶ胡亂のものあらハ、近邊のもの申合、致吟味、擄捕、可遂注進事、

付 他處より不審のもの入込ハ、五人組・處役人等致吟味、品によりては擄取、可注進事、

五人組帳資料

* 大坂府の分この後に「溺死人」を加ふ。

*** この項なく、前條の付則として、怪我人・飢人・病人等有之節、見捨置事不人情之至也、假令素生不知者たりとも醫師を付介抱を加へ置、可届出事

*** 第十一條は付則一を除き、第十六條の後に記す。

一新規之社寺建立停止之事、

付 猥りに僧尼と成る事禁之、自然理至極の儀於有之ハ、願出の上可免許事、

付 佛名題目之石塔・供養塚・石地藏等建立之儀向後停止たり、理至極之儀あらハ、願出之上可免許事、

一 神事・佛事・祭禮等之節、山鉾其外處不相應之寄附、たとへ舊例たりとも可致減省事、

付 神佛開帳可届出事、

一角力・芝居・狂言等私に興行すへからず、願出可請免許事、

一 兼而免許無之場處にて、遊女・藝妓等不可抱置事、

付 百姓之妻娘共三味線・舞曲等之遊藝を専とし、遊客酒宴之席に立交り、藝者・遊女等之見習ひする事堅く可相誠事、

一 身分に應せざる饗應事、僭上驕奢之風儀相誠る所なり、擧取・嫁取・養子取組・出産・年賀・葬祭等之儀花美虚飾を省き、實意を旨とすへき事、

一 田畠不荒様にすへし、水損等にて荒地となり、起し返し一家之力に不及處は、村中互に助勢すへし、村中之力にも不及程の事ハ可申出事、

付 永荒之地起し返し、又は新田畠開立ハ可届出事、

一 田畠を開き可然地ハ村中申合せ、處役人立合、秣場作道等之妨にも不相成ハ可申出、新開可申付事、

*「擧取・嫁取・養子取組或ハ家替屋敷買得の弘め出產云」以下付則とす。
*第十七條以下第二十二條までなし。これに代りて次ぎの一條あり。
「一帯刀人・僧尼之輩町人名前之地に住居する者ハ軒役其外町入費町人同様差出させ可申、理不盡申立るものあらハ可訴出事、
付 商家住居之輩刀人・僧尼之輩火用心廻り其外町内一統之人役之儀ハ代人雇立差出させ、又ハ代料にて差出させ可申事」

付 堀を埋、溝筋・道筋を付替又ハ新堀・堤等築ときハ、村役人立會、吟味の上可請差圖事、

付 用水・堤・田畠之境界等常ニ申合せ置、不可評論事、

一 溝川道橋堤防等大破に至らざる内、可加修復、尤下においての普請に難成程の儀ハ可申出、洪水等之節ハ、村中出會可守護、其儀も無之、且常ニ修復に怠り、及大破事、其村村役共之可爲無念事、

付 川中寄洲等江私に田畠を開き、又ハ樹木を植付、家屋を構る事停止之事、

付 堤防川岸等へハ、柳・吳竹等を植、出水之節之圍に可相成、常ニ可遂心配事、

一 御用人馬ハ不及申、往來之もの人馬繼立、晝夜に無限無滞可差出事、

一 御林・御立山之竹木枝葉たりとも、御用之外採用停止之事、

一 耕作秣場等之支りに不相成土地見立、樹木可植置事、

一 出役之面ニ權威を振ひ、或は私曲を構、無理を仕掛る等之事あらハ、不隠訴出、末ニ家來下人等にてても可爲同斷事、

付 廻郡之節、百姓之馳走に不成、村ニ費無之様申付候條、聊にても饗應躰之儀すへからざる事、

一 賄賂堅く禁之、種々名目を付け、輕き品にても差贈るましく、別て出役之面ニへは是迄如何程之因ミ有之とも、音信禮物等差出事一切停止之事、

一 諸事公論に決し、衆庶其處を得、各志を遂けしむる事、

王政之御趣意たり、其旨に背き、諸人を妨るものあらハ、村役は素より、假令諸官有司之面ニたりとも無

*「役人之面ニ於市中」
*この付則なし。

憚可訴出事

付 何事によらず、世上之爲と相成事心付ハ、何時にても可申出事^(二五)、
右條、堅可相守、是永世之制法たり、聊不可違背もの也、

明治二年己卯三月

京都府

追加四 明治六年山梨縣「村役心得條目」

區長可心得條々

- 一 區長之儀ハ區内諸村^(町)戸長共へ傳達之事件を始、平生諸世話駈引等其役務たり、時により一區内之惣代にも可相立事ニ付、僅而
- 御仁政之御趣意を奉し、可遂精勤事^(二)、
- 一 區内諸村^(町)より申出る儀を是非をもわかたず差押へ、情實を上達せず、或ハ公事訴訟等に付賄賂を受、依怙之取計致す間鋪、戸長共へも此旨常々可申聞、自然不心得之者有之ハ速に可申出事^(三)、
- 一 追々相達る趣無沈滞^(四)、速に戸長共へ傳達し、旨趣審に可申聞事^(三)、
- 一 役威に倣り、驕奢尊大之所行固く禁之、常に正直篤實を旨とし、諸村役の模範と相成る様心を用ゆへき

* 本條の付則三條あり。他の二つは左の如し。
 「付 毎年町役公撰入札之儀、依怙偏頗なく、家格に拘らず、至當の人材可申出事、
 付 議事以下す事件私曲を搆へず、忌諱を不憚公正に可申出事」
 * 中判二十三枚。板本である。
 山梨縣編輯、發兌書林、甲府八日町一丁目内藤傳右衛門とある。五人組帳前書ではないが、それより脱化したものにして、明治初年の地方統治の一例として掲げる。

事

- 一 町々、懇話互に扶助保護の手立をなし、常に花美の奢を警め、無益之費を省き、職業を勤め、區中成立之心遣可爲肝要事^(五)、
 - 一 善を勤め、惡を戒しめ、風儀を宜に導き、區中永世之繁榮をはかり、窮民救助・凶年手當等無怠可遂心配事^(六)、
 - 一 隣區相親み、萬端申合せ、聊隔絶する事不可有之事^(七)、
 - 一 常に戸籍の取調不怠、支配之區内に不審之もの不可留置事^(八)、
- 右之通可心得もの也、

明治六年第四月

山梨縣

戸長可心得條々

- 一 戸長之儀ハ支配内一統之者へ傳達之事件を始め、平生諸世話駈引等其役務たり、時により支配内之惣代にも可相立事ニ付、謹而
- 御仁政之御趣意を奉し、可遂精勤事^(二)、
- 一 役威に倣り尊大驕奢之所行堅く誠之、村内の者より申出る儀を是非をもわかたず、さし押へ、情實を上達せず、或ハ公事訴訟等に付賄賂を請、依怙之取計等いたすましく、方正廉直を旨とし、條理明らか可取計事^(三)、

五人組帳資料

六三一

- 一 追々相達する趣、屹度相守、諸布令其外傳達無沈滞、速に取計、旨趣審かに町内之者共へ可申聞事、^{〔三〕}
- 一 町内之者離散せざるやう注意いたし、貧窮之ものあらハ、難澁極まらざる内、扶助の手立をなすへし、自然下において心に不任程之事ハ速に可申出、常に花美の奢を警め、無益之費を省き、農業を勧め、諸人成立の心遣ひ可爲肝要事、^{〔四〕}
- 一 隣村相親み互に氣を付、諸事申談、聊隔絶する事不可有之事、^{〔五〕}
- 一 田畑不荒様隄防・橋梁・道路・溝・川等修補に怠るへからず、自然水損等にて及大破、下において普請難調程之事ハ速に可申出、荒地場起し返しの儀も村中申合、精々力を盡すへし、若村内之力に不及事ハ是亦速に可申出事、^{〔六〕}
- 一 田畠用水筋、山林等境界を正し、諍論不起やう兼而可心付事、^{〔七〕}
- 一 貢納之米金其外諸上納物期限に至り不差支様、手配方兼可心懸事、^{〔八〕}
- 一 官用と號し、町内へ不當之出金いたさせましく、諸入費ハ常に明細書き記し置、惣而清廉之取計可爲肝要事、^{〔九〕}
- 一 運輸の便を起し、土地を開き、良木を植付、物産を盛んにし、永世土地の榮をはかるへき事、^{〔一〇〕}
- 一 善を勧め惡を誡め、風儀をよろしきに導く事、役人之勤方にあり、心得方不宜ものあらハ、慇懃に教諭を加へ、行狀を改めしむへし、且又諸人に抽て心得よろしき者あらハ、逐一に可申出事、^{〔一一〕}
- 一 會所集議之節飲食に長し、又ハ雜話に打過、費用を不省、職業を妨る事堅く禁之、心得違無之様町内へ

も兼可申聞事、^{〔一二〕}

一 常に戸籍の取しらへ不怠、支配内に不審の者不可留置事、^{〔一三〕}

一 溝・川・道路不潔にして塵芥腐敗し、都て臭氣あるものハ養生に害あり、常ニ申合、掃除等不怠様可申付事、^{〔一四〕}

一 凶年飢歲の手當無怠可遂心配事、^{〔一五〕}

一 火之元別而入念相愼候様可申付事、^{〔一六〕}

右之通可相心得者也

明治六年第四月

山 梨 縣

索引

| | | |
|------|----|----|
| 凡例 | …… | 六七 |
| 件名索引 | …… | 六九 |
| 人名索引 | …… | 七〇 |
| 地名索引 | …… | 七四 |
| 書名索引 | …… | 六二 |

凡 例

- 一 索引は件名・人名・地名・書名の四つとした。
- 一 件名索引においては歴史的假名遣に従つて配列した。但し最初の「ゐ」は「い」と、「ゑ」は「え」と、「を」は「お」と同一に取扱つた。資料の性質上同一事項が種種なる名稱をもち、又は異なつた文字が採用されてゐるが、そのうちの主なるものを代表として現はし、他を括弧に入れて、その下に列記した。但しあるものはその便宜に従つて別項として掲げたものもある。その場合には参照項目を附記した。
- 一 人名索引・地名索引・書名索引も歴史的假名遣に従つたが、頭字が同音同字の場合にはそれ以下の發音如何に拘らず一箇所に集めた。
- 一 人名索引には現存の人人並びに百姓などはこれを除いた。
- 一 地名は國名郡名を略し、町村名（大部分は現在の大字）以下を掲げた。但し藩・縣名はこれを採用した。それらの發音は内務省地理局版の「地名索引」(明治十八年版)及び小川琢治著「市町村大字讀方名彙」(大正十二年版)等に據つて記した。それらに記載なきものも、出来る限り調べ正確を期したものの、なほ明かでないものも少なくない。もしそれらの地方の讀者にして昔の發音を知つて居られる方があつたならば御手数ながら御知らせ願ひたい。

一 頁数のうち解説の分はゴチク活字をもつて示して置いた。

件名索引

ア

- 赤米……………一四三、二二二
 - 商ひ……………四五、四八〇、不實の——三四九、「商賣」参照。
 - 悪黨(悪黨者・悪黨人)……………三五、三六、六六、一〇〇、一四四、一五九、二〇六、
三九、三三三、三六六、二六九、三〇〇、三三九、四〇三、四三三、四八五、
五二〇、六一五、六八八、六三六
 - 悪米……………一〇一、赤米・青米・あらくだけ等参照。
 - 足洗場……………五九
 - 足輕……………三八三、五四九
 - 跡式……………九、三三、三九、五、八五、一〇三、二一八、二三〇、一六三、一八〇、
一八一、一九二、二〇九、二七八、二五九、二七四、二九九、三三四、三五、
三三、三四八、三四九、三七五、三六三、四一七、四八四、四九七、「相續」
「遺跡」参照。
 - 粟穂の祭禮……………三四三
 - 索引(件名索引ア)……………三四三
-
- 尼……………一三、八二、「比丘尼」参照。
 - 雨具……………一六五
 - 怪敷者……………八三、一六四、二〇六、二二〇、二二三、二七五、二七八、二九五、二九六、
三三二、三三三、三六三、三七二、三七九、三八〇、三九八、四〇四、四八七、五八八、
五七九、六一五
 - 操(操つり)……………二二、三〇、五五、七七、八三、一〇四、一一八、一二五、四九、一六三、
一八五、一九一、二〇九、二五九、二七九、二九七、三〇八、三三四、三三三、三六〇、
四三五、四六六、四九七、五三三、五三七
 - あらくだけ(あらくだけ・あらくだけ・荒碎・くだけ米・荒碎米)
……………五八、一二五、一四三、一七七、一九五、二二三、三三六、四一一、四六三、四八八、
五一五、五五〇
 - 改手代……………一二六
 - 荒小札……………一五五
 - 青米……………三六、五八、一五、一七、一九、二二、三三、三六、四八、五五、五五〇

索引 (件名索引 イ)

イ・牛

遊藝 四七五、五七、六二八
 遊女 一一、二、三、五、七、八、三、一〇四、一一八、一三五、一四八、一六三、一八五、
 一九九、二〇九、二五九、二七九、二九七、三〇八、三三三、三三三、三三八、
 四九七、五三、五五八、六二七、六二八
 移住 三〇、四、五、八、五、二七、一〇〇、一六三、一八五、一九九、二〇九、二三五、
 四九六、五二二、五五八
 石打 七、四九、四六六
 井堰 三三、一〇七、一六六、一四九、一八三、二七三、二九六、三七四、
 三六二、四九五
 遺跡 一四五、「跡式」「相續」参照。
 伊勢参宮 二二、三三、三六、六〇
 徒者(徒もの・いたづら者) 四、四三、五〇、六二、七三、一〇三、
 一八五、一八八、二〇四、二〇六、二四〇、二五〇、三〇四、三六八、三九八、
 三九九、四七六、四八三、五〇八、五七五、五七六、六〇七、六二八
 一揆 一〇三、「徒黨」「逃散」「強訴」参照。
 稻刈 二六七

六四〇

家地 五、六、三六八、六〇六、「地」参照。
 家傍 三二五
 井堀 七三、五五八、「堀」参照。
 井溝 三六二
 塚 七三、三五、落——一〇、かけ——一〇
 入會(入合) 一三、一六、一八二、一九八、二〇八、二二、三五、四八、五〇九
 入作 一五、一〇一、二四四、二五五、三六八、三三〇、五四四、——百姓六三
 入目帳(入用帳) 七〇、六六、「村入用帳」参照。
 衣類 三三、三九、五〇、七五、八四、一〇四、一一九、一三六、四九、一六五、
 一七二、一八六、一九〇、二二、二六六、三〇〇、三七四、三九八、二九八、三三〇、
 三三五、三三〇、三四六、三七四、三八、三九〇、四一四、四四九、四七七、
 四九八、五二〇、五七、五四六、五五九、六一八
 碓氷山 三九八
 印形(印鑑・判鑑・判鑑・印判) 七、七四、五三、三三、三三、四九、
 六七、八六、一〇七、一一三、一三三、一四三、一五九、一八四、一八七、
 一八八、二〇四、二二五、二二七、二四〇、二五三、二七三、三〇三、三三三、
 三三六、三三八、三四三、三五二、三七六、三六三、三九三、四一一、四七、
 四六三、四七五、四八三、四九三、五〇八、五四六、五五二、五五九、六一三

音物(進物・土産・音信) 三四、一〇一、一〇七、一一二、二七八、
 一四三、一六六、一七二、一七六、一九五、一九七、二二、三三、三三、三七六、
 二九、三〇〇、三三三、三三六、三三六、三三六、三三六、三三六、三三六、三三六、
 五〇〇、五六五、五八、五九四、六九、六九、「賄賂」参照。

ウ

浮役 五七、一五五、一五六、一七七、一九七、二〇三、二四、三三、三七、「臨時
 物」参照。
 請負手形 一〇五
 請負廻し 一六、五八
 請取手形(受取手形) 三三、三七、四七、四八、四八、五二、五二、
 五五
 請人(受人) 二〇、二七、三〇、四二、五、七三、八〇、九二、一三、一三五、一六三、
 一七〇、一八〇、一八五、一九九、二〇四、二〇四、二〇五、三三九、三四六、三五九、
 三八二、三四四、三六九、三九〇、四〇五、四四〇、四四四、五〇六、五〇七、五〇八、
 五五九、五九、六〇七、六五、六六、「人請」参照。
 上乗(上乗の者) 五八、五九、一六五、一九五、二二、二二八、二〇、三六、五五、
 五〇、六三〇、——船頭一六、——納人二六、一七七

索引 (件名索引 ウ・エ)

馬買 一八八、「牛馬買」参照。
 馬買 一三、七四、一〇五、一四八、四〇四
 馬盗人 一三、七四、一〇五、一四八、四〇四
 馬の筋延(馬の筋のへ) 二七、一九〇、二〇四、三三三、三三〇、四八三、五二
 漆 一五七
 胡亂成もの(胡亂のもの・胡亂成者) 一四、一五九、一七二、一九一、
 一九三、二〇六、二〇七、二八三、二九三、三三三、三三三、四八八、四八七、
 四九二、五四七、五九六、六二七
 運上 二九八、三五、魚鳥——三五、——場三〇
 運賃 三三六、川船——三七四、三六、渡船——二七六、二九八、三四
 永引 五五、七七、三三三
 驛邊(人馬繼立) 九、一九、六、三六、七三、八〇、一六、一三二、一四三、
 一八二、一九五、二〇〇、三三〇、二七六、二九四、三二二、三三三、四二六
 四九五、五二二、六二九、——司五八
 御差(御指) 一一、七三、一四七、四二、四六五
 江戸拂 八八、二〇一、二四六
 縁組 二九、七〇、一八八、二〇三、二八、三五四、二九九、三五〇、三四二、
 六四一

索引(件名索引 オ・カ)

三四五、三五五、三六三、四八三、五七九、六二五、他所との
三〇、四六、——の妨害(「婚姻」参照)。

オ・ヲ

御預所……………五二五、五二六、五三〇
御藏前……………一三六、一三七
起返し(再發)・起返・立歸り・發返し・起し返し・起歸り)
……………三五、三八、五五、七七、八一、三〇、二九、一四九、一六一、一九二、
二〇八、二八九、三七三、三九〇、三九七、三三三、三三三、三七四、
四七二、四八三、四九九、五〇八、五〇八、五〇八、五〇八、五〇八、五〇八、
長百姓……………一〇三、一〇五、一〇六、一一二、一六九、四七六、六四
納名主(納庄屋)……………五九、三三六、三五五、三五〇
納手代……………五九、一六四
押賣押買……………二九、八〇、七六、三五、三二、三七、四三、四九、五六
御城米……………一九五、三〇六、三〇六、三五
御巢鷹山……………二九八
御鷹見役所……………四二一
御立野……………一一五

六四二

御立山……………九、一九、四六、一五七、一九四、三〇五、三二、三八、四六、四八、
四九五、五〇九、六二九
おとな百姓(長人)……………五、一五以下
御留川……………四四
踊……………一六三、——子三三三
御鳥見衆……………一七、三三、四一、九六
御林(御立林・立置林)……………一〇七、一五、三三、一五七、一六一、一七二、一八二、
一九四、三〇五、三二、二七九、二九、三〇八、三五、三三、三三、三七四、
三八二、四一四、四八四、四九五、五〇九、五〇九、五〇九、五〇九、五〇九、
御普請所……………五、一四六、一八三、三七四、四二六、「普請」参照。
大庄屋……………一五七、一六三、一六五、一六七
御山奉行(御山方)……………四四、五五、三
織物尺幅の規定……………一一、四三、七三
隱田(隱田畑)……………一〇三、一〇〇、四九九、五五六
陰陽師……………一六〇、一〇七
改革仕法……………九一〇

カ

海船……………一五九
改名……………四九、三四五、四二、四八三
開帳……………五四、一〇三、一〇六、一〇八、一〇九、一〇七、三〇八、三二、四九九、五二、
五四八、六二八
孝行者……………七、一五、一五五、一七九、三九、六二、「善行者」参照。
郷倉……………六七、一六、一七、三三、三九、五七、五八、六八、八、二天、
一九、一四、一四、一七、一七、一九、二〇、二二、三三、三三、
三三〇、二八〇、二九五、三〇六、三三三、三三三、三三三、三三三、
四二、四六、四六、五二、五二、六二、三、
耕作……………一五、二天、——荒シハ、——出精五五、七五、七九、一〇三、
一四二、一五、一七〇、一九四、二八、三三三、三五三、三五三、三六九、
二九三、三〇、三六、三四二、三七〇、四二七、四三三、四三三、四三三、
七、四九、五五、五七、六二、六三、六三、六三、——不精二八、
一五、一六五、一七六、一九四、二二、二八、三三、三五、四六、四六、
四二五、四六五、四八五、四九七、五九二、「家業」「農業出精」参
照。

索引(件名索引 カ)

高札(制札)……………一一、一四、三五、四九、七四、八二、九二、一一、三七、一五〇、
一五六、一六九、一八七、一八八、三〇〇、三二二、三九五、三三三、三三八、
格……………三四五、三七八、三九八、四六五、四七二、四八二、四八三、四九一、五〇七、五〇〇、
五二二、五二四、五四三、五八六、六三三
強訴……………九八、一三七、一八七、二〇一、二二、二四三、二四六、三〇、三五、
三三三、三三九、三四七、三九二、四七五、五二六、五二七
郷横目……………三七、三八
高利……………四三、四七、六六、——貸二四五
行路病者……………八、二、三、五、七、八、一一、一三、一四、一五、一八、
一九、二〇、三三、三三、三五、三七、三九、三〇、三三、三三、
三五〇、三七二、三七九、四七、四五、四八七、四九三、五〇四、五〇七、六五、
六七、「倒死者」参照。
抱……………九八、一八七、二五〇、二五三、三九七
書役……………一七八
家業……………一五、一六、一五、一六五、一八九、二二、三九、——出精二
九、一七、三六、三六、三六、四六、四八〇、四八四、四九一、五〇九、
——不精勤五五、六、「農業出精」参照。
隠賣女……………一七一、一五九、五七九、「賣女」参照。
缺落……………五〇、五五、五七、六二、六二、六二、
六四三

欠落者(欠込もの)……………八、三九、五、六九、八二、一〇〇、一七、一五、四四、
 一七〇、一七六、一九六、二五七、二七七、二九六、三二二、三三三、三三三、
 三七二、三九九、四二五、四六六、四七四、四三三、四四一、四九六、五五六
 隠間……………一〇四
 缺米(欠米)……………二三八、六三〇
 風折……………二九八、三三五、三七四、五四八、六一五
 家作(家造)……………八、三、三、三七、五〇、八四、一〇六、一九、一六、六五、八六、
 一九〇、二二二、三三六、三四二、三五七、二六七、二七四、二九六、三四、三五、
 三〇〇、三四六、三七四、三八一、四三三、四九八、五〇〇、五二七、五三六、六八八、
 「普請」参照。
 風祭り……………二九七、五二七
 かとはかし(勾引)……………一三三、四九二
 鉦たたき(鉦敲・鉦扣・鉦たき)……………七、一三、六九、九九、一〇〇、
 一二四、一三五、一五五、一七五、一八五、二〇三、二〇七、二五〇、三二二、
 四三四、四六四
 川欠……………二九七、三四四、三七四、四八三、四八四、五〇八、五〇九
 川越……………五二一、四
 川船……………七六、八四、一役所七、一四九

川除……………三三、三七、五六、六七、八四、一〇七、一四四、一五五、一六六、一三三、
 一六一、一七六、一八三、一九三、二〇八、二二〇、二二二、二二五、二四一、
 二五八、二七三、二九〇、二九七、三二五、三四四、三五〇、三七四、三八一、
 四一六、四七三、四八四、四八九、四九三、四九五、五〇九、五二六、五四八、六四四、
 六一八
 買置……………二六
 歌舞伎(歌舞妓・かぶき)……………二、五、五、八三、一八、一三五、一六三、一八五、
 二〇九、二七九、三〇八、三三四、三七三、三八一、四三五、四九七、五七七、五四七、
 一子三九七
 公儀法度……………一三二、三四、四二、一五四、一六九、一七八、二〇三、二二、
 二七、二八、三四〇、三五〇、三五三、三五五、三六七、三七二、三九、
 二九三、三四四、三九三、三七、三四四、三四八、三七〇、三七九、四九、四七、
 四七六、四七六、四八二、四九二、五〇七、五二四、五五九、六二二、六三、公儀
 御用二〇二、二六、二四、四三、二〇、二四、二五、二五、二五、二七、六二、
 「法度」参照。
 髪結……………五二九
 蚊屋之祝儀……………一九〇
 勘當……………一二、四九一

キ

勘定奉行……………九五
 神主……………三〇、八三、一五九、二〇七、二七九、三三三、三七三、三八三
 早魁……………五〇、五五
 休日(農民の)……………一六六
 牛馬賣買……………三〇、二七、四四、五三、七四、一〇五、一一八、一三三、一五七、
 一八二、一九〇、二〇四、二二五、二二三、三三〇、三七九、三九九、四〇四、四一四、
 四三五、四七五、四八三、四九七、五七九
 饑饉……………三三、四七、七、凶年」参照。
 義絶……………一四五
 木錢(木貨)……………二八七、二八五、二八六、二九七、三〇六、三二二、三四三、二七六、二九、
 三〇〇、三二五、三三六、三三八
 急水……………三三
 肝煎……………一〇、一一、一五以下。
 境界……………一八、三七、五三、一論(境論)一八、三三、三六、八三、一一五、
 一六六、一六六、一八六、一九二、二〇八、二七三、二九七、三〇九、三三三、三三三、
 三三三、三七三、三六二、四七三、四九四、五〇四、六二九、六三三

狂言……………一八、一四九、二六三、一九一、三五九、二七九、二九七、三四四、三三、
 三七三、四六六、四九七、五三三、五七六、六二八
 行司……………七、一三、三三、六九、九九、一〇〇、一一三、一二四、一三三、一五五、一五九、
 一七五、一八五、一九〇、二〇三、二五〇、二五六、三三三、三三三、三三八、四六四、
 四九二、五二二
 行人……………七三、六三三、「饑饉」参照。
 凶年……………五九、五九九、六〇四
 寄留人……………一、一四、二七、三五、四九、
 切支丹宗門改(吉利支丹・邪宗門)……………二、一、二、一四、二七、三五、四九、
 六二七、七九、九一三、九八、一三三、一四二、一五五、一六九、
 一七五、一八八、二〇三、二二五、二四〇、二五〇、二五三、二五六、二八八、
 二七三、二九三、三〇五、三三〇、三三八、三四五、三七〇、三九四、三九八、
 四一、四二七、四三三、四六五、四七三、四八二、四九三、五〇七、五三三以
 下、五四六、五五五、五七六、六一六、六二二、六二四、「宗門帳」参
 照。
 切支丹奉行……………九、一八八、二四〇
 切支丹……………三八、五五、一六、一〇〇、一三三、一七〇、一八〇、一八三、一九三、
 二八、二九、三三三、三五六、三七、三三三、三三三、四八三、四九五、五〇八、

索引(件名索引)ソ・夕

德的教訓 参照。

殺生 二〇、五〇、一〇七、一一五、一三三、一六〇
撰種 四七、四七九、五〇八
船頭 一八三、一九五
前納(質地の一種) 三三
船舶 一一、五〇〇

ソ

送籍 五七六
租税 五九二
訴訟 八七、二六、三、四、八三、八五、一〇五、一三〇、一三五、一四一、
一四九、一六三、一八三、二〇九、二二三、二四二、二七四、二八四、
三〇〇、三二五、三三三、三三六、三三五、三四三、三四九、三七五、三八一、三八五、
四八五、四八七、四九九、五〇四、五一一、費用四六七、公事出
入 参照。
添役衆 六六、六六、三八、四六三、六〇七
染色 四四、四七五
村法 三三

夕

代官替 三三、三三、三七、三五、三四六、三九九、三九〇、四七五、四八五、
四八六、五〇〇、五二二、五九二、六一九
大酒(飲酒) 三三、三三、三七、三五、三四六、三九九、三九〇、四七五、四八五、
四八六、五〇〇、五二二、五九二、六一九
大助 「助郷」を見よ。
帯刀 三三、三三、三九、五七、八四、一〇五、一九、三六、一四八、一七一、
一八六、二五一、二六〇、二七四、二八四、二九〇、二九九、三二二、三五五、三五八、
三四七、三七五、四一四、四七九
囊付 一六四
退轉 四二、三三、五三、七〇、一〇三、一一八、一九一、一九六、三三、三四、
四三六、四七、四七九、六四
大名領 五〇二
逃散(逃散) 九八、一三七、一八七、一八八、二〇二、二二二、三四、三四六、
三〇一、三二五、三三三、三四七、五二六、五二七、六二七
倒死人(行倒) 二九、五三、八二、四六、五九、一九二、二〇六、二七七、二九六、
三三三、三三三、三七二、三七九、四三三、四八七、四九六、五二二
道心者(道心) 五三、九二、一〇五、一一三、一六〇、一九一、二〇七、二五九、三三三、

盜賊(盗人)

三三二、四九二、五二二
七、五、三、三、五、六、七、二、四、九、一〇、三、四〇、五三、
五三、六二、六九、七三、八三、一〇〇、一一四、一三五、一四四、一五九、
一六四、一七一、一八四、一九一、一九三、二〇六、二二六、二二二、三三〇、
二九六、三〇六、三二〇、三三三、三三九、三三三、三四九、三五九、三七三、三八〇、
四〇二、四七、四三六、四六四、四六五、四七一、四八四、四八五、
四九三、五〇九、五二〇、五四七、五五七、五五八、五七九、五八六、五九九、六〇〇、
六二二、六二五、六二六

道中奉行

六、一四、一五、二二、二七、三五、七九、九六、一一二、一九、一四二、一五五、

道徳的訓戒

一七六、一七九、一八九、二〇三、二二九、二五五、二七二、二八四、二九三、
三〇四、三三〇、三三八、三四四、三七〇、四七六、四八六、四九一、五一、六一、
六三三

田植休

一六六

道路(往還)

一〇、二九、三七、三六、五七、七二、一〇六、一六六、一三三、一四六、一六六、
一七一、一八三、一九二、一九三、二二八、二二九、二二二、二五七、二七六、
二九四、二九八、三二五、三三三、三四四、三五〇、三七四、三八二、三九一、
四二六、四三七、四八四、四九五、五〇八、五〇九、五四八、五五八、五五九、

索引(件名索引)夕

高掛(高掛物)

五八〇、六四四、六三九、六三三、六三三 一六六、三三三

鷹方

二四三

鷹場

一一、一九、五四、六一、七三、七九、一五二、一八二、一九八、二七六、
三〇七八、三三〇、四二二、四二四、四六五、四七五、四九四

鷹見衆

四六五

高役

二三〇、六二二

他行(他出)

八、二二、三〇、四二、五二、八五、九九、一一七、一三五、一四一、一六二、
一八五、一九五、二〇九、二二七、二五四、二五六、二七七、二九九、三三三、三五、
三五五、三五九、三七五、三七八、三八二、四〇三、四〇四、四一五、四三四、四七四、
四八六、四八六、五二二、五四七、五五八、六三〇、六二六

他處稼(出稼)

八、六五

他所者

九九、一〇六、一一七、一三三、一三四、一四四、一八三、一九一、二七七、三三五、
三三二、三四九、三七五、三七九、三八二、四〇五、四一五、四二六、四八六、四九六、
五二二、五四七、六一五、六二八、六三四、六三五

多數決

四八、三四四

墮胎

六二七

墨家(廢家の意)

八一

索引(件名索引 子)

立毛 四〇〇、四〇一、四〇六、六三三
 立退 一六三、一八〇、一九二、二〇〇、四八六、四八七、五二二、「逐電」参照。
 駄賃 一九一、三三、一四四、一五五、一九三、二〇六、三三三、四三四、五〇四、一傳
 馬一五、一八二
 辰祝ひ 五八
 脱藩 五〇七
 立出 一〇〇、二九
 店請 二二
 店借 一〇、一一、一七、二七、三九、九二、一一五、一四七、一六三、一八八、一九一、
 二〇〇、二二五、二四〇、二七五、三〇四、三三三、三三三、三三〇、三三八、三三一、
 三七〇、三八八、四〇六、四九二、五〇八、五二二、五三〇、一一年賦
 書上三六七、「店衆」「店之者」参照。
 店衆 一〇、一一、「店之者」参照。
 店之者 六六、三八八、六〇六、六〇七、「店衆」「店借」参照。
 種貸 五〇、九六、一七七、一八七、二〇〇、二四三、二四六、二九九、三〇一、
 三二五、三三三、三三九、三四六、三四七、五二六
 頼母子 一「無盡」を見よ。
 たばこ(多葉粉) 九七、一九二、三三三、四二六、四七九

六五九

俄(倭つくり) 三六七、五八、一三五、一四三、一六四、一七七、一九五、
 二二一、三三〇、三三八、三六〇、三七九、三九四、三〇六、三三六、三九一、
 四二一、四四二、四六三、四八八、五二五
 旅人 七一九、二八、二九三、五六、七二、八〇、八三、一〇六、一六七、一三四、
 一四四、一四五、一五九、一八四、一九二、二〇六、二七四、二七六、二九四、
 二九五、三〇〇、三二二、三三三、三三三、三七一、三七二、三七八、三七九、
 三八八、四〇五、四一七、四二五、四七五、四九五、四九六、六二七
 溜池(池) 三、一六、二〇八、二三五、二七三、二九七、二九八、三三四、三七四、三八二
 溜堀 六八
 溜井 一〇、三七、七二、一四七、三五、四一八
 旦那寺 六二
 子
 地借 一〇、一一、一七、二七、三九、九二、一一五、一四七、一九二、二二五、二四〇、
 三〇四、三三三、三三三、三四四、三八九、四八六、四九二、五〇八、五二二
 ちきり(秤の名稱) 二四
 逐電 一七、二〇、一六五、一八〇、二〇〇、三三三、四七九、「立退」
 「潰百姓」参照。

知縣事

知縣事 五〇四、五〇九
 地添 一九「持添」参照。
 地目變更 一〇三
 定助 二九四
 住持(住寺) 三〇、四八、三、二八、三〇、一五、一六〇、一八〇、一九一、二〇七、
 二七九、二九七、三四〇、三七三、三八三、四七、四八五、四九七、五一、
 他山入院四
 帳切 九
 貯穀 一五〇
 鎮守様日 一六六

ツ

通船 一八二、關東——一四九
 總合勘定(次合勘定) 三七、五七、六七、八六、一六二、二〇〇、二二二、二四一、
 二七五、三〇〇、三三三、三七七、三七八、四八八、五〇〇、五二五、「差次勘
 定」参照。
 春法 五九三
 頭巾 九四、九六

索引(件名索引 ツ・テ)

テ

朝廷 五八、五〇
 手負(手負者) 八、二二、三九、四〇、五三、七〇、八二、九九、一七、一三四、一四六、
 一六〇、一六四、一七二、一八四、一九二、二二二、二五〇、二五五、二七七、二九、
 三二〇、四一五、四二五、四八七、四九三、五三三、五七九、六一五
 手形取引 四一、六六、八六、一〇二、一三六、一四三、一八四、一八六、三〇〇、三〇六、
 三六、四二七、四八八、五五六、小——毛、押切——毛、通り
 六五七

辻番

辻番 一七、五七九
 堤(堤防) 三、八四、一五、二六、一三三、四三、六二、一七六、一八三、一九三、
 二〇八、三〇〇、三二二、三三三、三三三、三三三、三三三、三三三、三三三、
 三三三、三三三、三三三、三三三、三三三、三三三、三三三、三三三、三三三、
 四九三、四九五、五〇九、五二六、五四八、五五六、六四、六二九、六三三
 鶴・白鳥 一五、一三、一六〇、一八二、一九〇、二〇七、二二五、三〇八、三三〇、
 四八五、四九四、五一、五五八
 潰百姓 二、一三〇、一五九、一六三、一八〇、一九二、二〇〇、二二二、三三三、
 四一七、四八六、五二二、五五七、六一四
 追放 八八、二四六、一者四三三

索引(件名索引)テ

- 出作…………… 四八七、年切—五七
二四、五七、八六、二二六、三三五、三〇〇、二七九、三三六、三三七、四四二、
四八七、四九八、五〇一、六二七
- 手代…………… 一六四、一七六、一八六、一九五、一九七、三〇九、三二〇、三二一、三二二、三三〇、
三四一、三四二、三九四、三〇〇、三二二、三三三、三三六、三三七、三三八、三三七五、
三七六、四一七、四一八、四八三、四八九、五二二、御藏—五九
- 鐵炮…………… 一三、一九、二七、四三、五四、七四、七九、一五五、一五六、一四八、一七二、
一八七、一九四、二六六、二五三、二五二、二七二、二九三、三〇八、三〇〇、三三三、
三七一、三七八、四〇四、四〇五、四二七、四三三、四三五、四八五、四九四、五一、
五四八、五五八、六六六、獵師—(獵師筒)四三、五四、一〇六、
一九四、二〇七、二五六、三四四、四三三、四九四、おどし(威)—
四三、六〇、三〇七、二五二、三三三、三四四、四八五、五一、四季打
—一五、二五、四四、御免—四三、御貸—
四三、—證文五八四
- 手本米…………… 一三六
- 寺請狀(寺請證文)…………… 一四、一七、二五、四九、七三、九九、一四四、一四一、六六、
一七五、一八八、二〇三、四〇、二五六、三〇五、三三八、三四五、三四九、三五九、
三八四、三九八、四三三、四八三、五〇七、五五五、六二二、—の實例

六五八

- 出居業…………… 四三六、七、五三三、四
- てんかけ…………… 六二四、二二
- 田畑…………… 一六七八
- 田畑永代賣買…………… 五七、八、一七、三、四三、四九、七〇、八〇、八一、一〇四、一一八、
一二九、一四六、一五七、一七九、一八九、二〇五、二三四、二四〇、二五八、
二六九、二七五、二九四、三〇七、三二二、三三九、三四五、三四九、三七二、三九〇、
四一八、四二五、四三三、四六四、四七三、四八三、四八八、五〇八、五〇九、五五五、
六一七
- 田畑配分(田畑譲與)…………… 五〇、五七、一八、三、五三、七四、八五、二八、
一三〇、一四八、一六二、一八一、一九一、二〇九、二二七、二三五、二五五、
二五八、二七四、二九九、三三三、三三五、三三二、三四八、三四九、三七五、三八二、
四三三、四七三、四八四、四九七、五〇八、六八
- 傳馬…………… 九、一九、二八、七二、一九三、二〇五、二一三、二七二、三七八、四六、
四九三、—宿五、八〇、二六、三三、一五八、一八二、一九三、二四四、
二九五、三二一、三三〇、三三三、三七八、五三三、五五八、—宿の
火事八三、御朱印—一八二、二七六、二九四、三〇〇

天領

- 天領…………… 三三、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四六以下、
四九、五〇、一八八、一九九、二〇〇、三九、三七、三五、三七〇、
三九九、四〇二、四〇三、四〇四、四〇七、四〇八、四〇九、四一〇、四一三、四一六

閉打

齋

毒藥

渡船

徒黨(一列)

- 閉打…………… 三三三
- 齋…………… 二二、三四六
- 毒藥…………… 二六、一三三、三三一、三九九、四一四、四九三
- 渡船…………… 一九、三三三、五三三、四一、貨八四、三三三
- 徒黨(一列)…………… 七、九三、三三、四四、五〇、六、八三、九八、一三三、一三四、
一三七、一四一、一五〇、一五五、一七〇、一八四、一八七、一八八、一八九、一九〇、
二〇一、二〇三、二三四、三四六、三五七、二六九、二七六、二九七、三〇〇、
三〇九、三二五、三三三、三四四、三三八、三三九、三四六、三四七、三三三、三八、
三九〇、四一一、四一八、四三五、四七五、四九二、五〇〇、五〇六、五〇七、五〇九、
五五五、五七八、六二七

間屋

斗立

間屋

索引(件名索引)ト・ナ

- 間屋…………… 三二八、三〇六
- 斗立…………… 三二、三三、三三三、四九六、五一三
- 間屋…………… 三二、三三、三三三、四九六、五一三

富(富突)

- 富(富突)…………… 二九、五三三
- 留帳…………… 三〇
- 捉御場…………… 五四、一三三、一四七、四九四
- 取筒…………… 九八、一三七、一八七、三〇一、三二二、三三六、三四三、三四四、
三七、三三三、三三九、三四七、五六、六〇一、—懸札二七

ナ

- 内披…………… 二四
- 内披…………… 二四
- 内濟主義…………… 五三
- 永荒(永荒場)…………… 五五、七七、四六、四八三、四九九、五八、五六、六六
- 永尋…………… 四三
- 仲間商ひ…………… 三六一
- 流物(流木)…………… 一〇六、二〇一、二二二、三三三、一五九、四四〇、四九九、五二四
- 名主役…………… 四九
- 名寄帳…………… 九五、一〇一、一七、三〇〇、三〇〇、四三三
- 難破船(破船)…………… 八四、一二、一三三、一五八、二七六、二九八、三〇四、三七四、
三八二、五〇〇、五一四

二

似金銀(贋せ金銀)…………… 二六、二二、四四、四九、六二、七
 似藥…………… 一三、三一、四九、五
 似秤…………… 一三、四九、五
 偽役人…………… 一四九、四六六
 二重質…………… 三七二
 庭帳(場帳)…………… 六、一五、三六、五七、六七、三三、三〇、三四、二六〇、三七七、
 四一、四四一、四六三、四七二、四八八、六二六、六二六
 人數惣寄書上帳…………… 二六六
 人足扶持…………… 一〇〇、一七、一四三、六二、一〇八、一三三、二四一、二五、二七五、
 三〇一、三〇七、三六六、三七七、三七八、四八八、五〇〇、五二五
 人別帳…………… 二六、一七〇
 根取…………… 一四二
 根返り…………… 一六四
 鼠切…………… 一六四
 根取…………… 一四二

ネ

年季地…………… 一〇四
 年季出替…………… 九一
 年貢…………… 五、六、一四、一六、三三、三五、五七、八、六六、一〇一、一三、
 一九一、二〇、二四、二五、七、一四三、一五五、一六四、一七六、一八、
 一九五、一、九七、二〇一、二二、三三、三四、三五、三七、三八、三四、
 三五、二六〇、二七九、二八〇、三〇〇、三〇五、三〇六、三〇七、三五七、三四三、
 三五〇、三七六、三七八、三九、三九八、四〇一、四一七、四二一、
 四六二、四六三、四七九、四八〇、四八八、四八九、五〇一、五〇二、五〇四、
 五〇四、五〇九、五五〇、一、五五五、五五九、五九三、六二二、
 六二一、六三三、——滯納一〇三、一五、一四一——納入五九、
 六七、——納方一〇一、二五、一五、一五、
 年貢永(年貢金)…………… 一六、二八〇
 年貢皆濟…………… 三七、六、六七、七六、一七六、三〇三、二二、二二、三〇三、
 四四〇、五二四——目錄二七、一七八、三〇六、三七六、四九八
 年貢勘定帳(勘定目録・皆濟勘定帳)…………… 二二、二二、三六、五〇
 年貢米…………… 八〇、八二、六二〇、——輸送六、八〇
 年貢割帳…………… 一七〇
 年貢割付(年貢免狀)…………… 六、一五、一六、三六、三七、六七、八六、一〇一、一三六、

一七、一七、一七、一九、二〇、二〇、二〇、二〇、二〇、二〇、二七、二七、二七、
 三二、三二、三二、三六、三六、三六、三六、三六、三六、三六、三六、三六、
 三三、三三、三三、三五、三五、三五、三五、三五、三五、三五、三五、三五、

ハ

野荒し…………… 五六
 能(勸進能)…………… 三、三〇、二八、一九、五九、三九、三〇八、三三、
 三三二、三七三、四三三、四九七、五三三
 農間稼…………… 二五、七五、二八九、三四〇、三九〇、四七、六六
 農業出精…………… 三三、三八、五〇、七〇、七九、五〇八、五五〇、六一、一、家業出
 精「耕作出精」参照。
 除地…………… 三九、三四五
 農事心得…………… 四七、八八、四七、八九
 野酒…………… 五〇、三四、三三〇、三四六、四六六、四九、五二二
 野火…………… 三二、三九、五五、一三三、一六、一八、一九、二〇八、三三、三〇八、
 三三五、三八〇、四九五
 乗物…………… 一〇五、一九一、一八六、一九〇、二二、六〇、二七四、二九九、三二四、
 三三五、三六六、三七五、四一五、四九八、五〇

廢家…………… 一六三
 伴詣…………… 一六三
 賣女…………… 五八、「賣賣女」参照。
 配符…………… 七三、一〇一、一四三、二〇〇、四四五、四五六、五五七、六一、「廻狀」「觸
 狀」参照。
 放下師…………… 一三五、一八五
 坊主…………… 三五八
 實引…………… 一八五、三〇〇、二六九、三九九
 放埒之者…………… 五〇六、五九三
 種…………… 九四、九五、九六、九七、三三、四、金——三四
 博奕…………… 五、九、一〇、二一、一八、三〇、四一、五、六、七、七、八、三、九五、一〇五、
 一一四、一九一、一三五、一四七、一四八、一五八、一七一、一七九、一八五、一九四、
 二〇五、二二〇、二三四、二五六、二五九、二六〇、二七七、二七八、二八四、二九一、
 二九六、三〇九、三三三、三三五、三四七、三五〇、三五九、三七二、三八〇、
 三九〇、三九九、四一一、四二四、四二六、四二七、四三三、四六六、四七一、四八五、
 四九四、五〇〇、五二五、五四六、五五七、五八〇、五八六、五九三、六二六、六二九、

索引(件名索引 ヒ)

博奕打……………二六九、六三三
 馬口勞……………四一五
 旅籠……………九、二八、七二、五九、二〇六、五九
 旗本領……………三二、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、
 三六、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、
 三七、三五、三五、二六八、二八三、四〇二、四〇三、四〇四、四〇五、四〇六、
 五二、六三
 伐採(伐木)……………四四、五五、七二、八四、一〇七、一二五、一三三、一四六、一五七、
 一七三、一八二、一九四、二〇五、二二二、二三三、三四四、三六一、三六七、三七九、
 三九六、四〇八、四二四、四三三、四四〇、四四七、四六二、四四四、四六六、
 四八六、四九五、四九三、四九四、四九八、五〇九、五三三、五五七、五八〇、
 六一五、六二六、六二九
 離牛馬(放牛馬)……………二七、三三、四〇、四六、五二、五八、六四、七〇、
 二〇四、二七三、二九四、三三三、三三〇、三三八、四七五、五二二、五四七
 灰小家……………三三四
 早追……………三五
 張紙……………一三三、四三三
 判頭……………三七

六六一

番屋(番所)……………七、三三、八三、一〇四、一四八、一八四、一九三、二〇〇、
 二二六、二八〇、二九六、三二二、三三三、三四三、三七三、三八〇、四〇三、四〇四、
 四二七、四六五、四八六、四九五、五二二、五五八、人改御番所一六四
 非公事……………五二〇
 批くたけ……………一六四
 比丘尼……………一〇四、一三三、一九九、一六四、一八二、三六一、四二五
 非時(非事)……………三三、三四六
 火附け……………一四
 人請(人受)……………一六三、一八一、一六二、二〇〇、二二三、三〇九、三四七、三四九、四四〇、
 「請人」参照。
 人殺し……………二九、五三、七〇、八三、一〇四、一三五、一四六、一八四、一九三、二七七、
 三〇〇、三三三、三七三、三八〇、四二五、四八七、四九三、五二二、五三三、
 五五九
 人主……………三三三、六二五
 人賣買……………二七、四三、五七、六〇、一三三、一四九、一五九、一六九、一八一、
 二〇四、二六九、二七三、二九四、三〇〇、三三八、三四七、三四九、三七七、四四〇、
 五五九

一人旅

一人旅……………八、八、二二、二六、二五五、二四四、一八五、四七二、四九六
 火之元(火之本・火の用心)……………一四〇、一五九、一六四、二九、三七七、
 二九、二九五、三二二、三三三、三七七、四二八、四三五、四六五、四六九、三三、
 五二、五三四、五五七、五五二、六一、六三三
 日待月待……………一〇五、三三七、三五九、六二〇
 百姓……………寄合二九、二七、一六二、一七、一七、一七、一七、一七、一七、
 二五二、三九九、四二二、四八九、四九八、五二六、五九、五九、五九、一〇八、
 参照。——心得五七九、平——一五、一七、一八、二二、二六、
 三三〇、三三八、三四四、三四六、三七四、三八八、四九八、五〇〇、五五八、——
 株二八
 百人講……………一〇五、二〇〇、三三五、四八五、五二〇
 肥料……………三五
 風害……………三三三「風折」参照。
 風俗……………九
 不孝者……………一〇六、一五二、一六六、一七九、一八九、二〇三、四、三八、三五八、三七八、
 索引(件名索引 フ)

「道徳的教戒」参照。

歩荷……………二六〇
 武家に對する態度……………七、九、二六、三三、三九、一〇六、一四四、一五九、一七二、
 一八六、二〇六、二五一、二六三、四三四、四七五、五二〇
 不行跡者……………一六三、一七六、二五六
 ふけ米……………一六四、一九五、二二
 夫食……………三七、五〇、八五、九六、三七、一八七、一八八、二〇二、二二二、四三三、四四六、
 二六二、二七四、二九八、三〇一、三二五、三三三、三三五、三三九、三四六、三四七、
 三七五、五二六
 不受不施派(不施悲田流・悲田不受不施)……………一四、六一、九六、
 三六四、三九六、四一四
 不審成者……………一四八、一七一、一八二、一八五、二六一、二六九、二八〇、二九三、三〇五、
 三二〇、三三〇、三三三、三三七〇、三七七、三九〇、三九六、四〇三、四〇三、
 四〇四、四一三、四一七、四二七、四三三、四四〇、四六三、四九八、五〇〇、五七九、
 六二七、六三三
 普請……………三七、五九、六七、七二、八四、一六五、一八六、一九〇、三三六、三五六、六一四、
 六二八、六三九、六三三、——人足扶持五七、六六、——所二六、
 一三三、四三三、一六一、二九〇、二九七、三三五、「御普請所」「自
 六六三

索引(件名索引)へ・ホ

不正品……………六六、——賣買買入七〇、一八九、二〇一、三二、三九、三四五、四四、四八五、四九七、五二、五五、五七九、「贓物」

夫錢……………三三、一〇一、一一九、一二〇、二七、二八、一七九、一七九、一九九、二〇〇、二〇一、二六〇、三〇七、三三〇、四八九、四九七、五二六、——帳一七、一〇〇、三〇六

浮説(虚説)……………七、二二、四三

譜代(譜第)……………九、一二、二二、四三、八二、二九四、三三六、三三九、四一四、四九二

二夕折(二夕折)……………一三、四三

佛事(葬禮・法事)……………三、三九、五〇、七五、七五、八三、一〇五、一一九、一三三、一四九、一五〇、一七二、一八六、二二、二二六、二五九、二七九、二八八、三三四、三三〇、三七三、三八、四三三、四六六、四七五、四八五、五一、五八、五八〇、六二八、六九、六二八

踏草……………二五

古鐵屋……………一四九

古著屋……………七六、四九、四六

六六四

觸狀……………一六四、二〇、五五、五〇、「廻狀」参照。

風呂屋……………二

變死……………一四六、一五九、「倒死人」「自害」参照。

ホ

奉公……………三三、三〇、四三、二二二、二四六、三三九、四四〇、四七八、四九六、五〇九、五二二、五四六、五四七、他國へ——九九、一七、一三五、一六二、一七〇、一八五、一九五、二〇九、二二五、三五九、三七八、四七四、四八六、侍——一〇六、一四八、三四七

奉公人……………二七、五、七三、一三三、四七、一五〇、一五九、一六九、一七二、一八六、二〇九、二五〇、二八〇、三三六、三三九、三六三、三九八、四四四、四四四、四四五、四四六、四七四、四九二、五七六、六二五、——年季二〇四、——書上三六八

謀書謀判……………一三、四三

堀(井堀)……………一〇六、一三三、一四九、一八三、二〇八、二一九、三三三、三三三、四一六、四九五、五〇八、六四六、六二九、——波美

本籍(本貫)……………五九九、六〇〇

本物返し……………一七〇

まき……………三三

秣場……………二六、三三、一八三、一九二、二九三、三三三、四九五、五八

枅(舂)……………三三、四、江戸新——一〇、京——二〇七、「二夕折」参照。

枅取(舂取・升取)……………六、一六、五、七、五、六、七、一〇、二、一四、一七、一九、二二、三三、三六、三六、三九、四一、四七、四八、五五、六二〇

町役人公選……………六三〇

松茸山……………二八八

舞廻……………一三五

前地(前地者・前地之もの)……………五、一〇、六六、一四七、三三八、四六六、六〇六、六三三

前屋……………九八、二五六

索引(件名索引)マ・ミ

三笠附(三笠)……………五、六、七、六、八、九、五、一四、一四七、一九九、二一〇、二三四、二七六、二八四、二九、三〇九、三三三、三三三、三四二、三七七、三九〇、四六六、四七一、四九四、五三五、六六

神子……………一五九、一〇七

神輿……………一七、一三〇、一八〇、一九、三三

未進……………三四、六六

見世物……………三三、三〇、三三、八三、一〇四、一八、一三五、一六三、二〇九、三三、三六〇、四九七、五四七

水祝ひ……………三四

密告主義……………五四、四六、一、二〇

水帳……………一七、二六、六六、九、九、一〇八、一三、一四、一三〇、一三一、一五四、一五六、一六六、一六七、一八〇、二〇三、二〇三、二五五、二八、一〇一、三二六、三三二、三四四、三七七、三八一、五五五、五五〇、六二二、六三三

孤兒……………二二

六六五

索引 (件名索引 ム・メ)

簀づくり 一六六
名目銀 一四九

ム

麥田 四七九
蟲送り(蟲祭り) 一六六、二九七、五二七
無職者 一五五、二五五、四八八、一七六、一九四、三〇九、二九二、二五八、
二九九、二七六、三三三、三三九、三三六、三三三、四三三、四三三、四七五、
四九四、五〇〇、五五〇

無宿

無盡

村送り

村規定書

紫染

村入用(村雑用)

..... 五、三三、五七、六六、八六、一七七、二二八、一四一、
一五五、一六二、一七六、一九七、二〇八、二二八、二四二、二七五、
二九〇、三〇〇、三三六、三三七、三三八、三三七、三九二、四七五、四八九、
四九九、五二六、五三三、五九三、六二七、六三〇、六二二、六三三

モ

持添 二二八、三〇〇、一八〇、九六、三三三、三三三、四一七、四五六、四七二、
四九七、五五七、六一四
門前(寺社門前) 七九、一三三、二七五、二九三、三〇〇、三七〇、四九二
門屋(門家) 五、九八、一四四、一七五、一七五、一八七、二五五、二五三、
二五五、二五六、二六八、二九三、四六六

ヤ

養子 五二二、七七、八五、四四、七〇、三三、三八、四七
焼畑 二六、一六、一八二、一九四、二〇八、二二二、三〇八、三三三、四九五
厄介人 五〇九
薬種 三六
役銭 五五六、——帳元二
役人 一七八、一九七、二二七、二二七、三〇〇、三三三、三三三、三三七、
三五二、三七六、三八三、三九二、四〇九、四〇九、四三三、四四四、四四九、
六三〇、六三九、——の出版二〇一、——の通行七三

索引 (件名索引 モ・ヤ・ユ)

六六六

村入用帳 一三〇、二二八、二四三、二六三、二七九、二九八、三〇九、四三三、五二二、
四九九、五二六、五四八、五五三、六二〇

村の自治性

村役人

△四以下、——の地位八八九、——の不正二六二、三〇〇、
三三九、三三三、三七六、三八一、——の交替三五五、——心得
一六五、二二二、二五三、二五五、五四四、——の撰出四五五、——に
對する不平六一九

村寄合

メ

召仕(召使・召仕の者)

..... 九九、二二二、二四四、二六六、一七五、一八一、
一八八、二二二、二二七、二四三、二五〇、二七三、二八四、三〇〇、三〇五、
三二五、三三〇、三三六、三三七、三三七、三六六、四八九、四九三、五〇六、五〇八、
五四五、五四九、六一一、六一二、「下人」「奉公人」参照。

飯盛女

目安箱

免割

..... 五五九
..... 五四四
..... 一五〇

安物賣買

宿屋

八重質

山崩

山守

山伏

屋守

野郎

湯殿山詣

弓矢

湯屋

遺言

..... 三九九、四七一
..... 八〇、二七五、二九四、三二一
..... 三三五、四八三、四八四、四九五、五〇八、五〇九
..... 五五、五四八
..... 七、一三、五三、六九、七五、九八、一〇〇、一〇五、一一三、一二五、
一五五、一五九、一七五、一八五、一九一、二〇三、二〇七、二五〇、二五六、二七八、
三三三、三三一、三五八、四一五、四二四、四六四、四九二、五二二、五四七、五五七
..... 五
..... 五三三、六二七
..... 二七、六〇〇
..... 六二六
..... 五一九
..... 一〇二、二五九、三二四

六六七